

特別警報の認知度等調査

結果

平成25年12月

気象庁

目次

I.	調査の概要	2
1.	調査の目的	2
2.	調査の方法	2
3.	謝辞	2
4.	調査票	4
5.	集計・分析の記述について	14
II.	調査結果のまとめ	
1.	特別警報の認知状況	15
2.	気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段	23
3.	大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動	26
4.	大雨特別警報に対する評価・意見	31
III.	調査結果	
1.	回答者属性	35
2.	特別警報の認知状況	
1.	認知時期(Q2)	39
2.	認知経路(Q3)	40
3.	特別警報の意味に関する理解(Q4)	42
4.	特別警報と災害の関連性に関する理解(Q5)	43
5.	現象別の特別警報の認知(Q6)	44
3.	気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段	
1.	気象に関する警報の入手手段(Q7)	53
2.	地震・津波・火山に関する情報の入手手段(Q8)	57
4.	大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動	
1.	大雨警報と災害の関連性に関する理解(Q9)	61
2.	大雨警報が発表された時にとる行動(Q10)	62
3.	大雨特別警報が発表された時にとる行動(Q11)	71
5.	大雨特別警報に対する評価・意見	
1.	平成25年9月に発表した大雨特別警報発表に対する評価(Q12)	80
2.	特別警報発表時の呼びかけに対する印象(Q13)	81
3.	特別警報の有用性に関する評価(Q14)	85
4.	特別警報の発表地域細分化に対する意見(Q15)	86
6.	自然災害に関する経験・意識	
1.	自然災害の遭遇経験(Q16)	87
2.	傘を持って外出する降水確率(Q17)	96
3.	自然災害に対する関心・認識(Q18)	97
	その他記載一覧	107

調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、国民の特別警報に対する認知度、理解度を把握し、今後の特別警報の運用や利活用の促進、当庁の周知・広報活動に資するための資料収集を目的とする

2. 調査の方法

(1) 調査対象

日本全国に在住の20歳以上の男女個人

(2) 調査手法

インターネット上のWEB画面に用意した質問に回答する方式(WEB調査)

(3) サンプル数・割付

有効回収数:2,800件 (配信サンプル数55,602件)

調査会社が保有する登録モニターを対象に調査を実施、回答サンプルのうち、回答内容や回答の整合性を確認、不適当な回答を削除して有効回収数とした。

性別、年齢、居住地(都道府県)の分布は、平成22年国勢調査人口等基本集計(総務省統計局)の分布割合を元に割付。性・年代・居住地別の回収数は次ページに記載する。

(4) 調査実施期間

平成25年11月21日(木)～11月24日(日)

3. 謝辞

本調査の実施に当たっては、静岡大学防災総合センター牛山素行教授のご指導をいただきました。ここに記してお礼申し上げます。

回収数一覧

回収数	総計													
	男性							女性						
	計	20代	30代	40代	50代	60代以上	計	20代	30代	40代	50代	60代以上		
全国	2800	1350	190	245	228	221	466	1450	182	240	223	219	586	
北海道	123	57	7	10	9	10	21	66	7	10	10	11	28	
青森県	30	14	2	2	2	3	5	16	2	2	2	3	7	
岩手県	30	14	2	2	2	3	5	16	2	2	2	3	7	
宮城県	50	24	4	4	4	4	8	26	4	4	4	4	10	
秋田県	25	12	1	2	2	2	5	13	1	2	2	2	6	
山形県	25	12	1	2	2	2	5	13	1	2	2	2	6	
福島県	44	21	3	3	3	4	8	23	3	3	3	4	10	
茨城県	64	32	4	6	5	6	11	32	4	5	5	5	13	
栃木県	45	22	3	4	4	4	7	23	3	4	3	4	9	
群馬県	45	23	3	4	4	4	8	22	3	4	3	3	9	
埼玉県	155	77	11	15	14	12	25	78	10	14	13	12	29	
千葉県	137	69	10	13	12	11	23	68	9	12	11	10	26	
東京都	297	146	24	31	27	21	43	151	23	29	26	20	53	
神奈川県	198	100	15	20	19	15	31	98	13	18	17	14	36	
新潟県	51	24	3	4	4	4	9	27	3	4	4	4	12	
富山県	24	11	1	2	2	2	4	13	1	2	2	2	6	
石川県	26	12	2	2	2	2	4	14	2	2	2	2	6	
福井県	15	7	1	1	1	1	3	8	1	1	1	1	4	
山梨県	19	10	1	2	2	2	3	9	1	1	1	2	4	
長野県	49	24	3	4	4	4	9	25	2	4	4	4	11	
岐阜県	46	21	3	4	3	3	8	25	3	4	4	4	10	
静岡県	83	40	5	7	7	7	14	43	5	7	6	7	18	
愛知県	159	79	12	16	14	12	25	80	11	15	13	11	30	
三重県	39	19	3	3	3	3	7	20	2	3	3	3	9	
滋賀県	29	14	2	3	2	2	5	15	2	3	2	2	6	
京都府	57	27	4	5	4	4	10	30	4	5	5	4	12	
大阪府	193	92	13	17	16	14	32	101	13	18	16	14	40	
兵庫県	123	58	8	10	10	9	21	65	8	11	10	10	26	
奈良県	31	13	2	2	2	2	5	18	2	3	3	3	7	
和歌山県	23	11	1	2	2	2	4	12	1	2	2	2	5	
鳥取県	13	6	1	1	1	1	2	7	1	1	1	1	3	
島根県	15	7	1	1	1	1	3	8	1	1	1	1	4	
岡山県	42	20	3	3	3	3	8	22	3	3	3	3	10	
広島県	63	30	4	5	5	5	11	33	4	5	5	5	14	
山口県	32	15	2	2	2	3	6	17	2	2	2	3	8	
徳島県	15	7	1	1	1	1	3	8	1	1	1	1	4	
香川県	23	11	1	2	2	2	4	12	1	2	2	2	5	
愛媛県	32	15	2	2	2	3	6	17	2	2	2	3	8	
高知県	15	7	1	1	1	1	3	8	1	1	1	1	4	
福岡県	111	51	8	9	8	9	17	60	8	10	9	9	24	
佐賀県	17	8	1	1	1	2	3	9	1	1	1	2	4	
長崎県	31	14	2	2	2	3	5	17	2	2	2	3	8	
熊本県	38	18	2	3	3	3	7	20	2	3	3	3	9	
大分県	27	13	2	2	2	2	5	14	2	2	2	2	6	
宮崎県	24	11	1	2	2	2	4	13	1	2	2	2	6	
鹿児島県	38	18	2	3	3	3	7	20	2	3	3	3	9	
沖縄県	29	14	2	3	2	3	4	15	2	3	2	3	5	

4. 調査票

特別警報の認知度等調査 Web アンケート設問 「特別警報等に関するアンケート調査」

問1 最初にあなたの職業を教えてください。(ひとつだけ)

農林漁業
商工サービス自営
事務職
技術・技能職
販売・サービス職
自由業
専業主婦(夫)
学生
無職
その他

問2 「特別警報」は、平成25年(2013年)8月30日に運用が始まりました。また、最初の「特別警報」は、平成25年9月16日に、京都府、滋賀県、及び福井県を対象に発表されました。あなたが、「特別警報」という言葉を最初に見聞きしたのはいつですか。「特別警報」の内容や意味については知らなくても結構です。(ひとつだけ)

「特別警報」の運用開始(8月30日)以前
「特別警報」の運用開始より後(や以外で)
9月16日に特別警報が初めて発表されたとき
このアンケートで初めて知った

問3（問2で と答えた方のみ回答）

以下から、あなたがこれまでに「特別警報」という言葉を見聞きした媒体を全て選んでください。（いくつでも）

- 1 自動配信メール：特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する／しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール：一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことが出来る。

テレビ

ラジオ

新聞

気象庁・気象台のホームページ

政府広報のホームページ

ツイッター、LINE、Facebook、mixi などの SNS

都道府県や市区町村など自治体のホームページ

上記 ~ 以外のインターネットウェブサイト

エリアメール等の自動配信メール ¹

登録制のメール ²

特別警報のリーフレットやポスター

都道府県や市区町村など自治体の広報誌

気象庁や気象台が開催したイベント（見学会や講演会など）

家族や知人から教えてもらった（ SNS 以外の方法で）

その他（自由回答）

問4 特別警報は、その名前のとおり警報の一種ですが、どのような警報だと思えますか。（ひとつだけ）

警報の中でも最大級の危険を示す警報である

警報の中でも最大級ではないが上位の危険を示す警報である

警報の中でも下位の危険を示す警報である

要援護者（高齢の方や障害がある方）など特定の人向けの警報である

崖の近くなど災害の危険性が高い特定の地域向けの警報である

わからない

問5 特別警報は、災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか。(ひとつだけ)

災害の起こる可能性は少ないが、注意を促す情報

災害の起こるおそれを注意する情報

重大な災害の起こるおそれを警告する情報

重大な災害の起こるおそれが著しく大きいことを警告する情報

避難を呼びかける情報

わからない

問6 (問2で と答えた方のみ回答)

特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか現象毎に知っていた / いなかったをお答え下さい。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

		この現象の特別警報があることを知っていた	この現象の特別警報があることは知らなかった
大雨			
暴風			
高潮			
波浪			
大雪			
暴風雪			
地震(地震動)			
津波			
噴火			

問7あなたは、大雨警報などの気象に関する警報（特別警報を含む）を、何から入手していますか。また、今後も含めて、何から入手したいですかあてはまるもの全てを選んでください。（矢印方向にそれぞれいくつでも）

- 1 自動配信メール：特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一斉にメール配信するサービス。受信する／しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール：一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことができる。

	現在入手している	今後（も）入手したい
【テレビ】		
一般放送		
データ放送		
ワンセグ		
【ラジオ】		
【携帯・スマートフォン】		
エリアメール等の自動配信メール ¹		
登録制のメール ²		
ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS		
ホームページ		
【パソコン】		
登録制のメール ²		
ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS		
ホームページ		
市町村の防災行政無線		
市町村の広報車		
その他（自由回答）		

問8 あなたは、津波警報、噴火警報、緊急地震速報などの地震・津波・火山に関する情報を、何から入手していますか。また、今後何から入手したいですかあてはまるものを全て選んでください。

(矢印方向にそれぞれいくつでも)

- 1 自動配信メール：特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール：一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことができる。

	現在入手している	今後(も)入手したい
【テレビ】		
一般放送		
データ放送		
ワンセグ		
【ラジオ】		
【携帯・スマートフォン】		
エリアメール等の自動配信メール ¹		
登録制のメール ²		
ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS		
ホームページ		
【パソコン】		
登録制のメール ²		
ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS		
ホームページ		
市町村の防災行政無線		
市町村の広報車		
その他(自由回答)		

問9 大雨警報（特別警報ではない）についてお尋ねします。大雨警報は、災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか。（ひとつだけ）

- 大雨による災害の起こる可能性は少ないが、注意を促す情報
- 大雨による災害の起こるおそれを注意する情報
- 大雨による重大な災害の起こるおそれを警告する情報
- 大雨による重大な災害の起こるおそれが著しく大きいことを警告する情報
- 避難を呼びかける情報
- わからない

問10 あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）

		行う	行わない	わからない
今後の気象情報に気をつける				
外出を控える				
災害のおそれのある危険な場所には近づかない				
持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする				
避難所へ避難をする				
家の中でできるだけ安全な場所に待避する				
市町村からの避難の情報に注意する				
インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する				
発表されたことを家族や知人に伝える				
その他行う行動があれば回答してください（自由回答）				

問 1.1 あなたは、お住まいの市町村に**大雨特別警報**が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）

	行う	行わない	わからない
今後の気象情報に気をつける			
外出を控える			
災害のおそれのある危険な場所には近づかない			
持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする			
避難所へ避難をする			
家の中でできるだけ安全な場所に待避する			
市町村からの避難の情報に注意する			
インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する			
発表されたことを家族や知人に伝える			
その他行う行動があれば回答してください（自由回答）			

問 1.2 今年 9 月の台風第 18 号では、近畿・東海地方を中心に総雨量が 400 ミリを超え、全国で死者・行方不明者合わせて 7 名、住家全・半壊 256 棟、床上・床下浸水 1 万棟超の被害（平成 25 年 10 月 7 日消防庁資料より）が発生しました。京都府では特に浸水の被害が多く発生しました。

この時、気象庁は、50 年に一度発生するかしないかの大雨が広がっていた福井県・滋賀県及び京都府に重大な災害の起こるおそれが著しく大きいとして、大雨特別警報を発表しました。特別警報を発表するべき出来事であったと思いますかあなたの考えに最も近いものをひとつ選んでください。（ひとつだけ）

特別警報を発表したのは大げさだと思う（警報程度で十分だった）
 このくらいの大雨で特別警報を発表するのが適切だと思う
 もっと規模の小さな雨でも特別警報を発表するべきだと思う
 わからない

問13 特別警報を発表した時に、気象庁は「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけました。この呼びかけについて、以下のような意見がありますあなたはそれぞれについて、どう思いますか。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そうは思わない	そうは思わない	わからない
危機感が良く伝わってくる					
非常時向きで簡潔である					
表現が大きさである					
とるべき行動についてもっと具体的に呼びかけてほしい					
この呼びかけについてその他の意見があれば回答してください (自由回答)					

問14 特別警報を発表した時には、既に災害が発生している地域もあったといわれています。特別警報は、警報(=重大な災害のおそれあり)発表後、さらに事態が進展し、重大な災害のおそれが“著しく大きく”なった時に発表されるものだからです。このような特別警報ですが、被害を軽減するのに役に立つと思いますか。(ひとつだけ)

- 大いに役に立つと思う
- ある程度は役に立つと思う
- あまり役には立たないと思う
- 全く役には立たないと思う
- わからない

問15 10月16日に、伊豆大島で豪雨があり、死者・行方不明者40人以上に上る災害が発生しました。この時に気象庁は大雨警報は発表しましたが、大雨特別警報を発表しませんでした。これは、この雨が狭い範囲で発生し、特別警報を発表する条件を満たさなかったためです。

この、伊豆大島での災害を契機として、狭い範囲で発生する雨の場合にも特別警報を出すべきだとの意見があります。その一方で、このように条件を緩和すると、特別警報が出ても結果的に大きな災害にならないという「空振り」が増え、特別警報の信頼性が落ちることを懸念する声もあります。(現在は、特別警報が出ている場合、大きな災害にならないことはほぼありません)

あなたは、既に警報が発表され厳重な警戒を呼びかけている中で、空振りが増えても、狭い範囲の雨の場合にも発表するように特別警報の条件を緩和すべきだと思いますか。(ひとつだけ)

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- どちらかといえばそうは思わない
- そうは思わない
- わからない

問16 自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください。
(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

	経験がある	経験は無い	わからない
大雨による土砂崩れ、洪水又は浸水に遭遇した経験がある			
竜巻を見た、暴風で歩けない、又は風で物が飛んできて危険な体験をしたことがある			
高潮又は高波の災害に遭ったことがある			
大雪、吹雪又はなだれによる災害に遭ったことがある			
地震や津波の災害に遭ったことがある			
噴火や降灰等の火山の災害に遭ったことがある			
上記に挙げるような自然災害に遭った人から体験談を聞いたことがある			
上記に挙げるような自然災害に遭った人の体験を記録した本や記事を読んだ又は調べたことがある			
上記に挙げるような自然災害に遭った人の体験についてテレビやラジオで見聞きしたことがある			

問17 あなたは、登校や出勤等のとき、雨の降る確率が何%なら、傘を持って外出しますか。(ひとつだけ)

- 10%以上
- 30%以上
- 50%以上
- 80%以上
- 100%でも傘は持たない
- 0%でも傘を持っていく

問18 自然災害に対するあなたの関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

		非常に当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
台風や雷など気象の仕組みに興味がある					
竜巻の予測が難しいことを知っている					
天気予報はよくチェックする					
自分も、今後いつか自然災害に遭遇するだろうと思っている					
自分が住んでいる地区は、土砂災害や洪水など大雨災害に対しては安全だと思う					
自分が住んでいる地区の避難場所がどこか知っている					
自分が住んでいる地区の地震や津波に対する危険度を知っている					
自分が住んでいる地区の土砂災害や洪水など大雨災害に対する危険度を知っている					
地震保険に入っている					
避難時に持ち出すものを避難袋等にまとめて入れて置いてある					

5. 集計・分析の記述について

- 図表中のnは回答者数(%の母数)である
- 回答比率は小数点第1位までを表示しているため、回答比率の合計が100%とならないことがある
- %の母数が30サンプル以下の項目は参考値。
- 居住地域による回答傾向の違いを見るため、地域的な集計を行っている箇所は気象庁の地方予報区別に集計を行っている。地方予報区の区分は以下のとおり。

地方予報区	含まれる都道府県
北海道地方	北海道
東北地方	青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県
関東甲信地方	栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、長野県、山梨県
東海地方	静岡県、岐阜県、三重県、愛知県
北陸地方	新潟県、富山県、石川県、福井県
近畿地方	京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県、大阪府
中国地方	鳥取県、島根県、岡山県、広島県
四国地方	香川県、愛媛県、徳島県、高知県
九州北部地方	山口県、福岡県、大分県、佐賀県、熊本県、長崎県
九州南部地方	宮崎県、鹿児島県
沖縄地方	沖縄県

- Q10(大雨警報が発表された時にとる行動「その他行う行動」)、Q11(大雨特別警報が発表された時にとる行動「その他行う行動」)、Q13(「特別警報発表時の呼びかけに対する印象「その他の意見」)の記載内容は、巻末に一覧記載する。

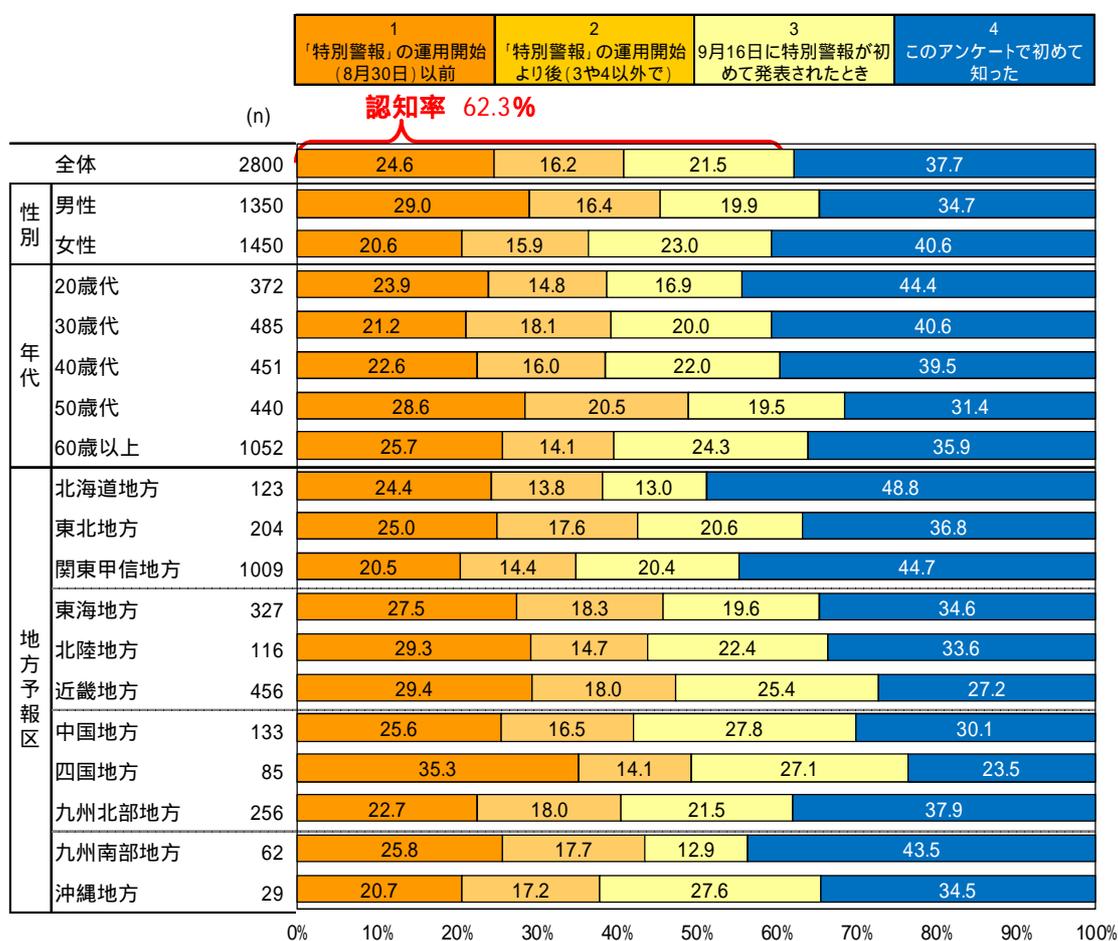
調査結果のまとめ

1. 特別警報の認知状況

(1) 「特別警報」の認知/認知時期

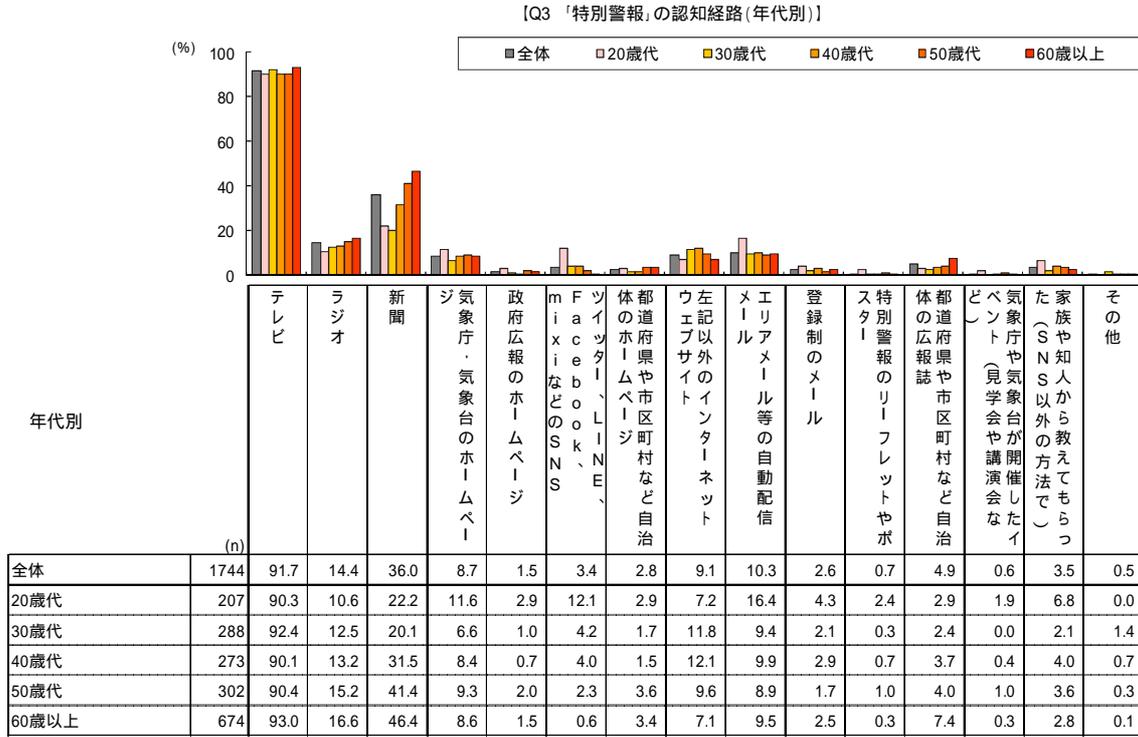
- ・ 回答者全体では、「特別警報」という言葉を知っている割合は62.3%。
- ・ 認知時期は、「特別警報の運用開始以前(平成25年8月30日以前)」が24.6%、台風第18号の接近によって京都・滋賀・福井の各府県に初めて特別警報が発表された9月16日に初めて知った人が21.5%である。
- ・ 年代別にみると、40歳代以下は、各年代の約4割が「このアンケートで初めて知った」と回答している。(「このアンケートで初めて知った」=20歳代:44.4%、30歳代40.6%、40歳代39.5%)
- ・ 地域別にみると、北海道地方と関東甲信地方、九州南部地方の認知率が低い。(「このアンケートで初めて知った」=北海道地方:48.8%、関東甲信地方:44.7%、九州南部地方:43.5%)。

【Q2 「特別警報」という言葉の認知状況 (性別・年代別・地域別)】

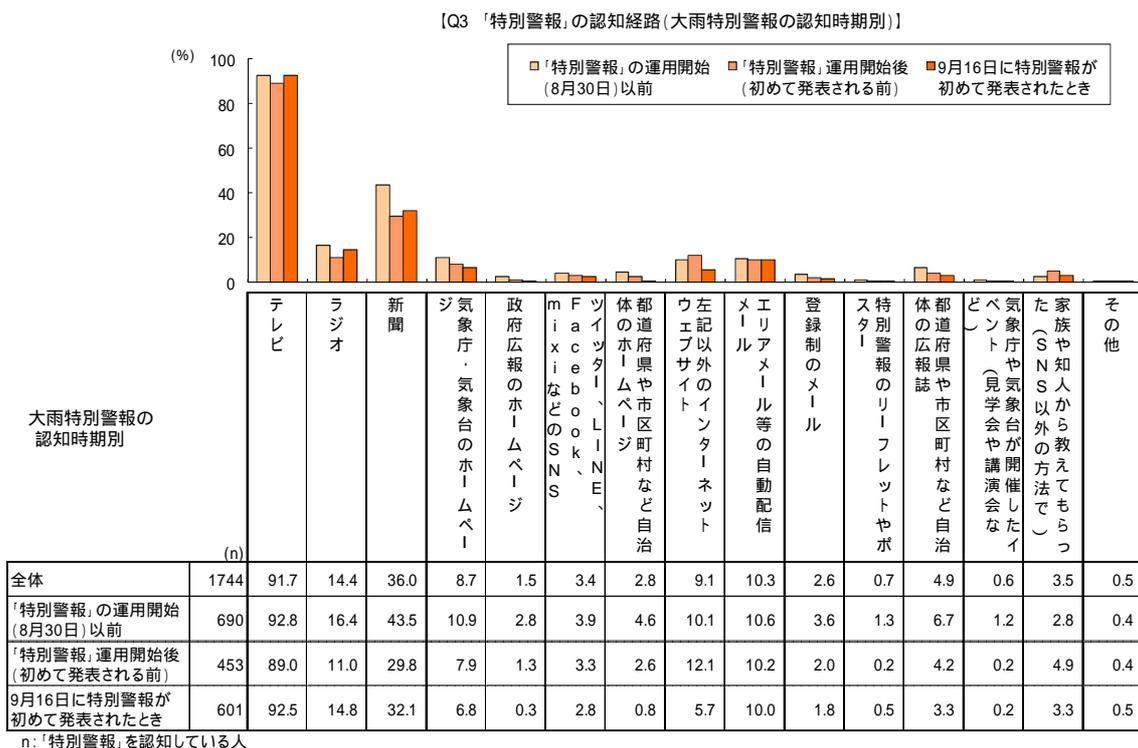


(2) 「特別警報」の認知経路

- 「特別警報」という言葉を見聞きした媒体は「テレビ」(91.7%)が最も多く、次いで「新聞」(36.0%)。
- 新聞で「特別警報」を見聞きした割合は、30歳代以下の若年層では低く、年代が上がるにつれて上昇する
- 20代は、「ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS」(12.1%)で見聞きした割合が1割。他の年代よりもやや多い。
- 家族や知人から聞いたという、口コミ的な認知の割合が3.5%ある。SNSも加えると横のつながりによる認知が一定程度存在する。



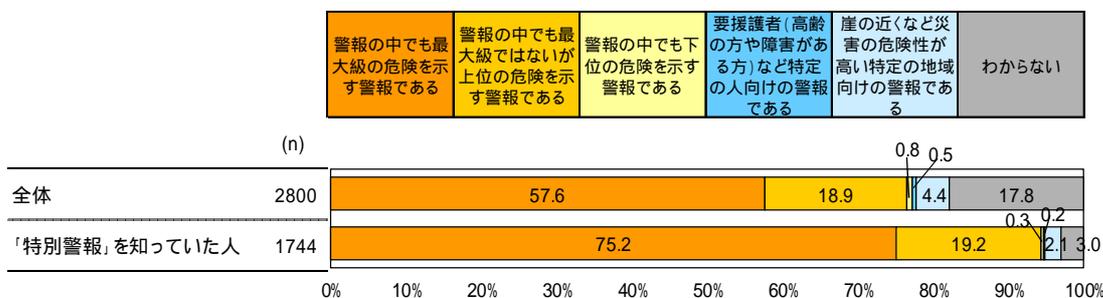
- 「特別警報」の認知時期による認知経路を見ると、「特別警報の運用開始(8月30日)以前」に知った人は、「テレビ」に次いで「新聞」(48.5%)が多い。



(3) 「特別警報」の意味に関する理解

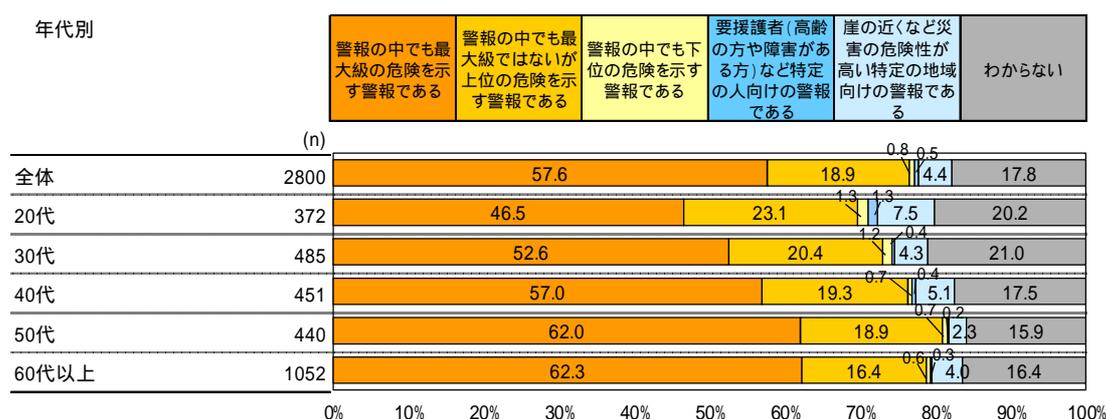
- 「特別警報はどのような警報だと思うか」との問いに対して、このアンケートで初めて特別警報を知った人を含む全体で見ると「警報の中でも最大級の危険を示す警報である」と正しく理解している人の割合は57.6%であった。
- アンケートより前に「特別警報」を知っていた人に限ると、75.2%が正しく理解していたが、「最大級ではないが上位の危険を示す警報である」との回答も2割いる。

【Q4 「特別警報」はどのような警報か】



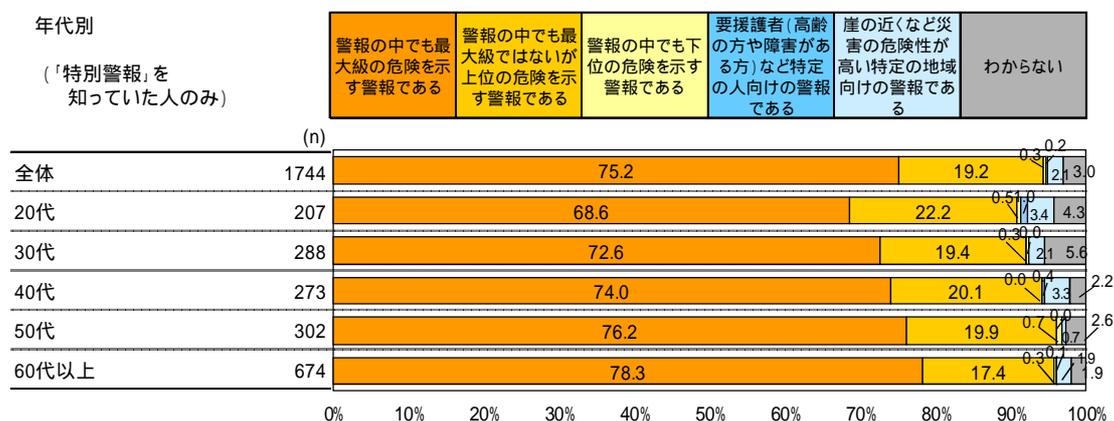
- 年代別にみると、50代以上は6割が正しく回答。年代が下がるにつれて正しく理解している割合が下がり、20代では半数を割る。

【Q4 「特別警報」はどのような警報か】



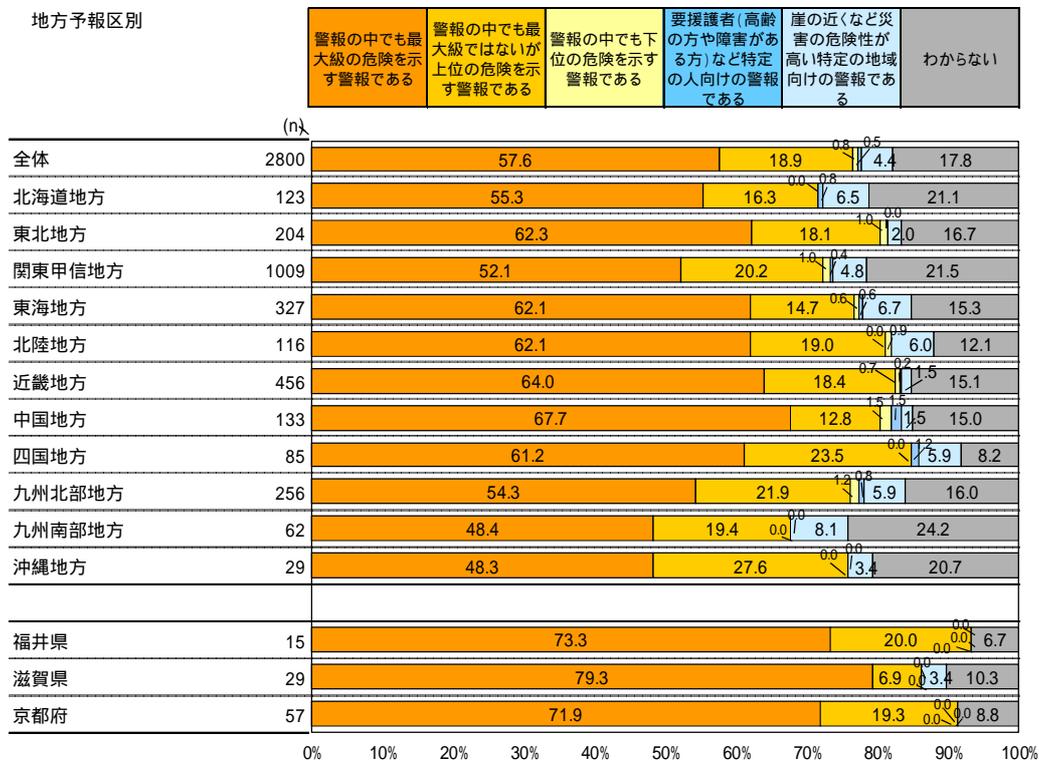
- 特別警報を知っていた人に限ると、20代でも68.6%が正しく理解している。

【Q4 「特別警報」はどのような警報か】



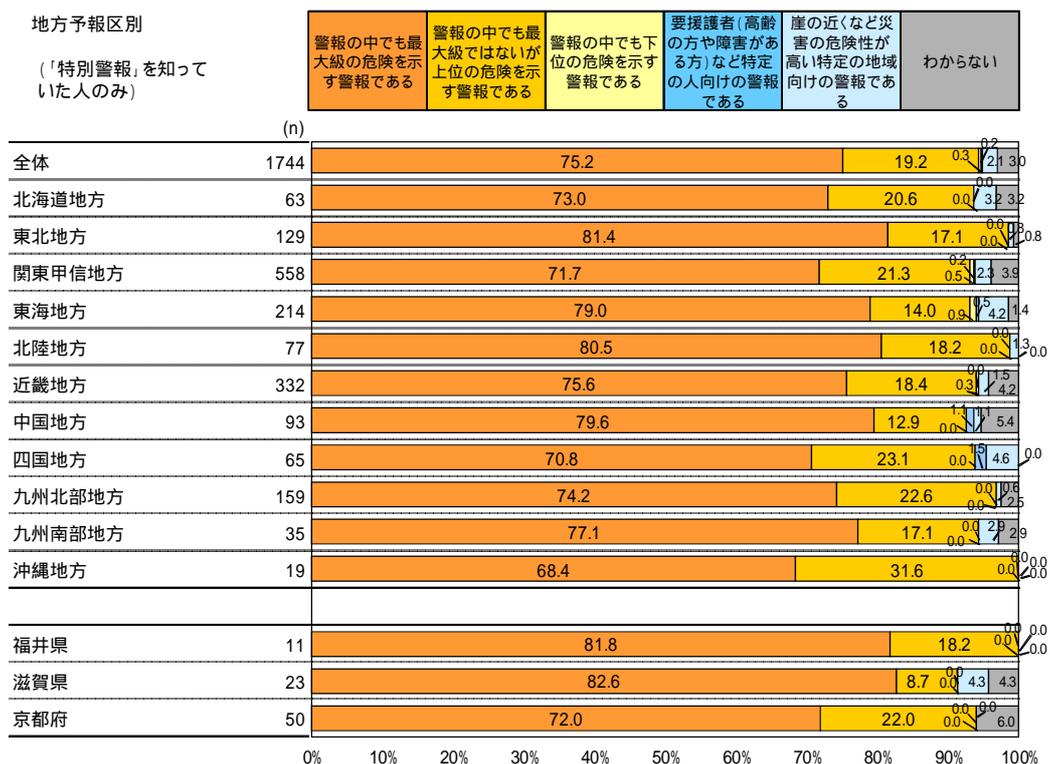
- ・地域別にみると、九州南部地方(48.4%)、関東甲信地方(52.1%)が全体に比べて正しく理解している人の割合がやや低い。
- ・大雨特別警報が発表された京都府・滋賀県・福井県では正しく理解している人の割合が7割を超える。

【Q4 「特別警報」はどのような警報か】



- ・特別警報を認知していた人に限ると、沖縄を除く地方予報区で正しく理解している人の割合が7割を超える。

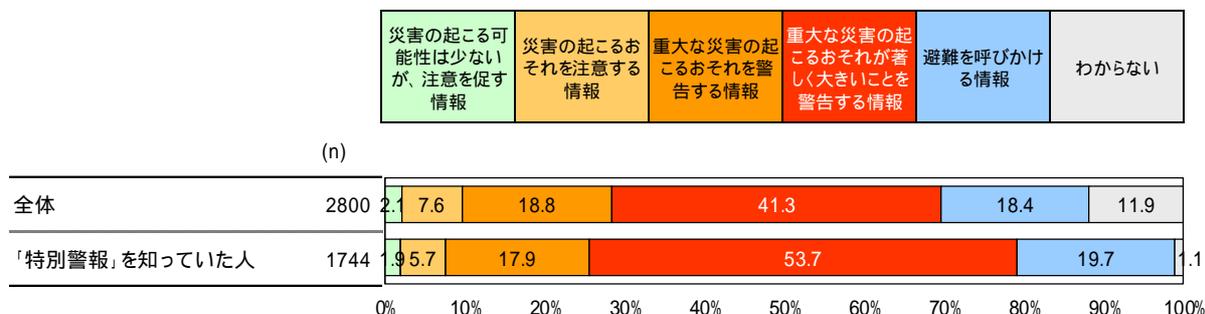
【Q4 「特別警報」はどのような警報か】



(4) 「特別警報」と災害の関連性に関する理解

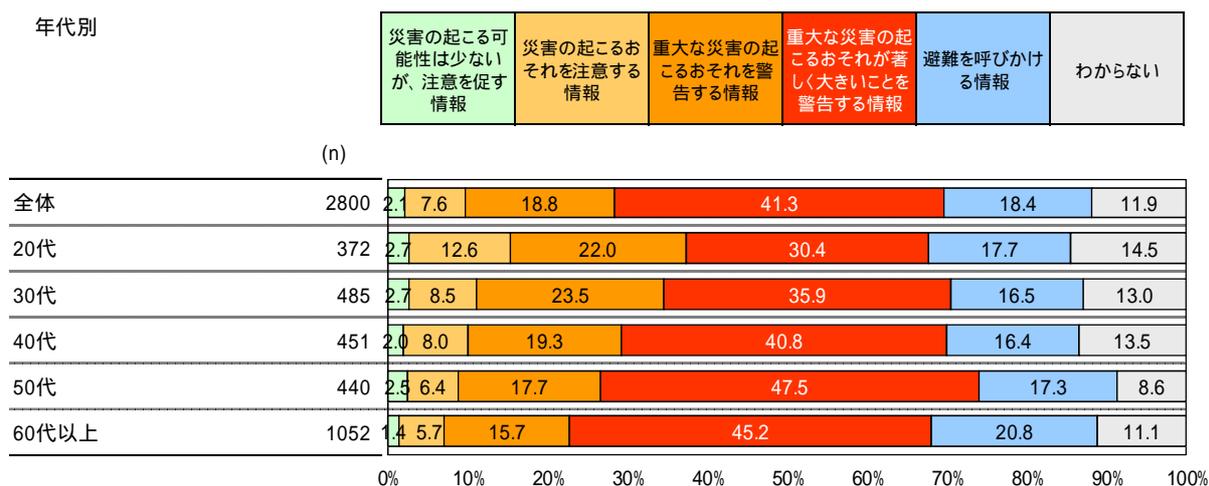
- 特別警報は「重大な災害の起こるおそれが著しく大きいことを警告する情報」であることを正しく理解している割合は全体の41.3%。
- 特別警報を知っていた人に限ると、53.7%が正しく理解しているが、「避難を呼びかける情報」(19.7%)、「重大な災害の起こるおそれを警告する情報 (= 警報の定義)」(17.9%)と理解している人がそれぞれ約2割いる。

【Q5 「特別警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報か】



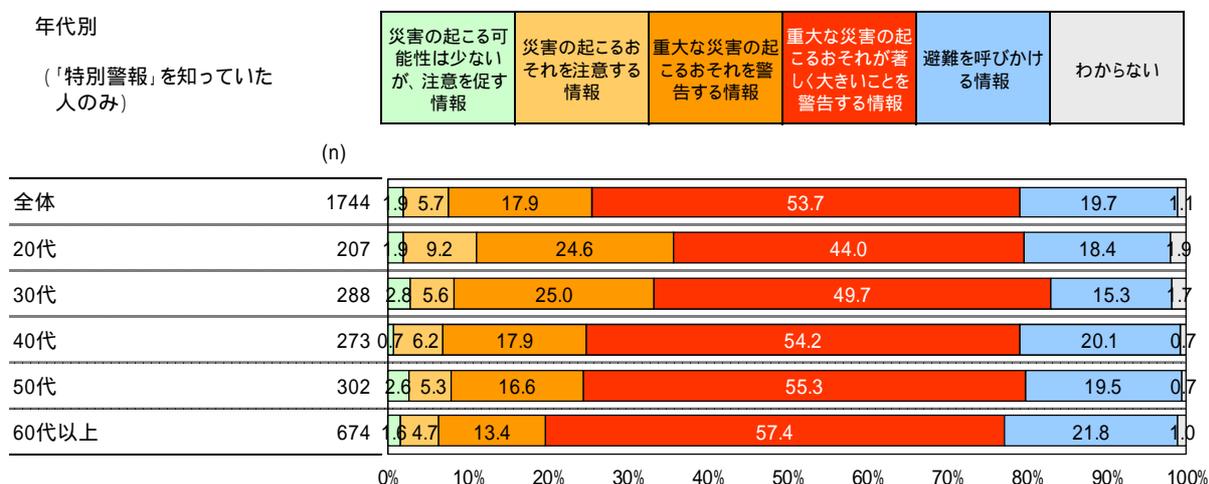
- 年代別にみると、30代以下は正しく理解している割合が40%を下回る。(20代 = 30.4%、30代 = 35.9%)

【Q5 「特別警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報か】



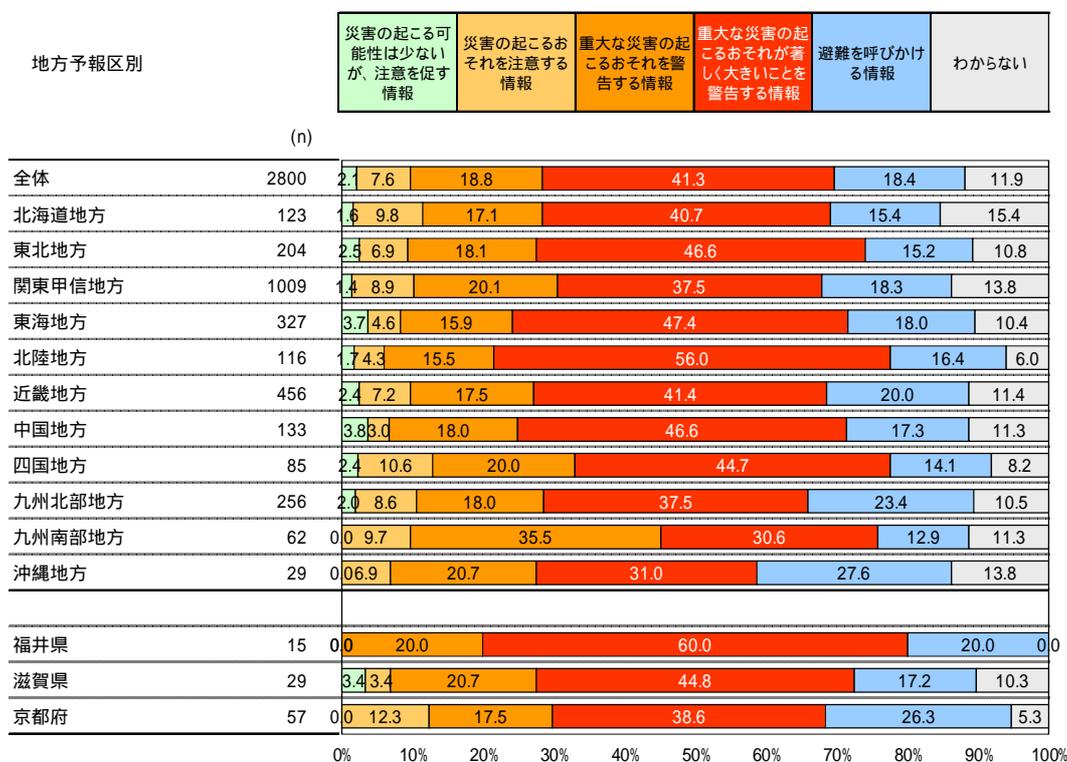
- 「特別警報」を知っていた人に限ると、40代以上では正しく理解している割合が50%を超える。

【Q5 「特別警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報か】



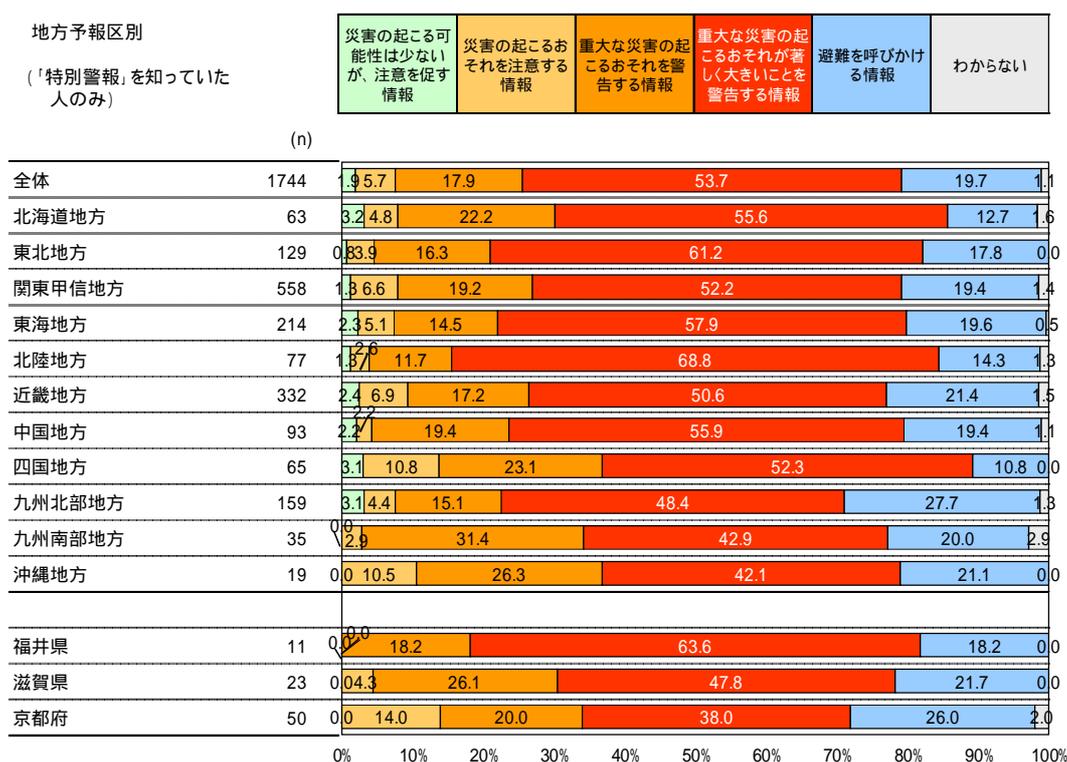
- ・ 地域別にみると、正しく理解している割合は、九州南部地方(30.6%)、九州北部地方(37.5%)、関東甲信地方(37.5%)を除き、4割を超えている。
- ・ 特別警報が発表された京都府は、26.3%が「避難を呼びかける情報」と認識しており、他の地方に比べてやや高い。

【Q5 「特別警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報か】



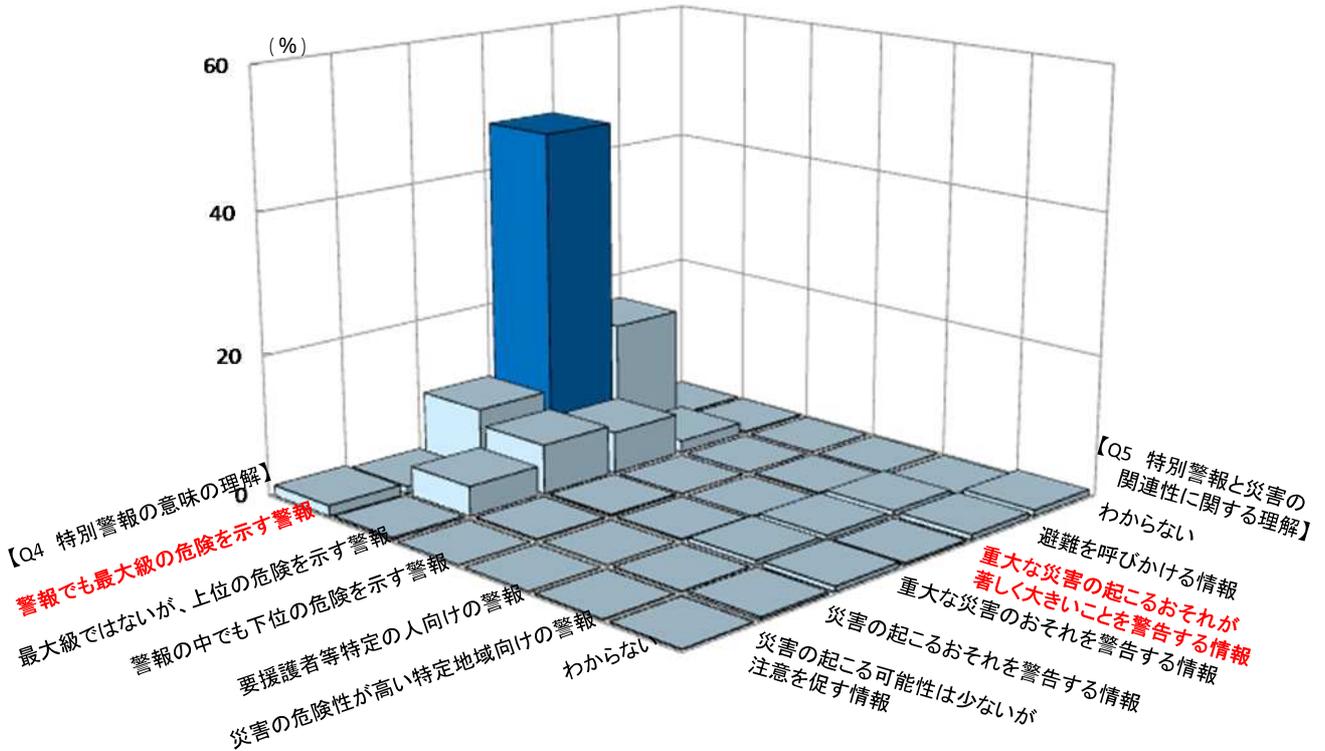
- ・ 「特別警報」を知っていた人に限ると、九州北部地方、九州南部地方を除いて正しく理解している割合が5割を超える。

【Q5 「特別警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報か】



- 特別警報を知っていた人のうち、特別警報の意味と災害との関連の両方を正しく理解している人の割合は46.9%。

【Q4 特別警報の意味に関する理解 × Q5 特別警報と災害の関連性に関する理解】



n=1744 (特別警報を知っていた人)

		Q5 特別警報は、災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか						
		少 な 害 の 起 こ る 注 意 可 能 な 情 報 は	災 害 の 起 こ る 注 意 可 能 な 情 報 を	重 大 な 災 害 の 起 こ る 可 能 性 は 少 な い が	そ れ が 大 き い こ と を 警 告 す る 情 報	重 大 な 災 害 の 起 こ る お そ れ を 警 告 す る 情 報	避 難 を 呼 び か け る 情 報	わ か ら な い
Q4 警 報 特 別 警 報 だ と 思 い ま す か よ う な	警報の中でも最大級の危険を示す警報である	1.5	1.0	9.2	46.9	16.4	0.1	
	警報の中でも最大級ではないが上位の危険を示す警報である	0.3	4.2	7.0	5.8	1.7	0.2	
	警報の中でも下位の危険を示す警報である	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	
	要援護者(高齢の方や障害がある方)など特定の人向けの警報である	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	
	崖の近くなど災害の危険性が高い特定の地域向けの警報である	0.1	0.1	0.6	0.6	0.7	0.0	
	わからない	0.1	0.3	0.7	0.3	0.7	0.9	
							計	100.0

(5)現象別の特別警報の認知

- ・ 特別警報を知っていた人のうち、対象となる現象ごとに特別警報の存在を知っていたかを聞いたところ、「大雨特別警報」(88.4%)は9割近い認知率であり、「暴風特別警報」(78.4%)は8割近い。
- ・ 地方予報区別にみると、「大雪」「暴風雪」は北海道での認知率が高い。

[Q6 現象別の「特別警報」の存在認知(地方別)]

気象		大雨	暴風	高潮	波浪	大雪	暴風雪
(n)							
全体	1744	88.4	78.4	59.7	45.4	42.7	49.1
地方予報区別	北海道地方	63	90.5	82.5	66.7	50.8	68.3
	東北地方	129	92.2	80.6	53.5	41.1	48.8
	関東甲信地方	558	89.2	80.6	61.1	46.4	45.5
	東海地方	214	88.8	83.6	65.0	49.1	39.3
	北陸地方	77	89.6	81.8	44.2	32.5	46.8
	近畿地方	332	86.1	74.1	54.8	44.0	38.3
	中国地方	93	84.9	74.2	55.9	48.4	43.0
	四国地方	65	83.1	69.2	56.9	49.2	43.1
	九州北部地方	159	87.4	74.8	67.3	43.4	35.2
	九州南部地方	35	100.0	74.3	65.7	51.4	48.6
沖縄地方	19	78.9	78.9	78.9	36.8	31.6	

地震・津波・噴火		地震(地震動)	津波	噴火	
(n)					
全体	1744	70.0	80.5	49.0	
地方予報区別	北海道地方	63	77.8	84.1	57.1
	東北地方	129	69.8	81.4	46.5
	関東甲信地方	558	69.9	79.7	51.4
	東海地方	214	70.1	80.4	46.3
	北陸地方	77	59.7	76.6	46.8
	近畿地方	332	67.8	79.2	42.5
	中国地方	93	61.3	73.1	45.2
	四国地方	65	72.3	83.1	46.2
	九州北部地方	159	79.2	87.4	56.6
	九州南部地方	35	71.4	85.7	68.6
沖縄地方	19	78.9	84.2	47.4	

全体 + 10ポイント以上

全体 - 10ポイント以下

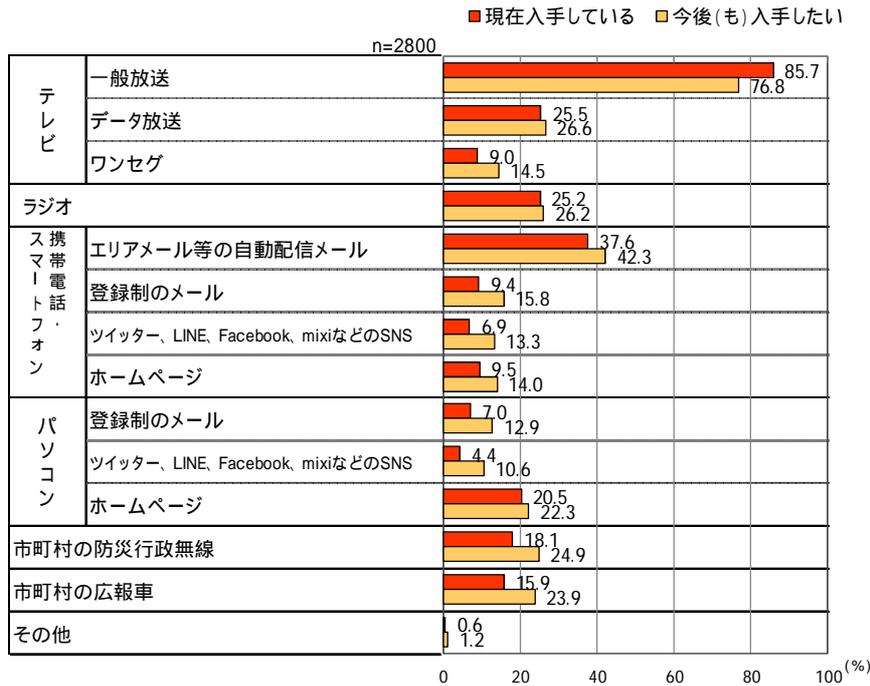
n=「特別警報」を認知していた人

2. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

(1) 気象に関する警報の入手手段(現在入手している / 今後入手したい)

- 現在の入手手段は「テレビの一般放送」(85.7%)が最も多い。「データ放送」(25.5%)も含むと、テレビから気象情報を取得している人が多い。
- 携帯電話・スマートフォンの「エリアメール等の自動配信メール」(37.6%)からの情報取得は、テレビの一般放送に次いで多い。
- 今後希望する入手手段も「テレビの一般放送」(76.8%)、「エリアメール等の自動配信メール」(42.3%)など、現在利用している手段の利用意向が高い。

【Q7 気象に関する警報(特別警報を含む)の入手手段 / 今後入手したい手段】



- 年代別にみると、30歳代以下ではテレビに次いで、「エリアメール等の自動配信メール」での入手が約4割と高い。

【Q7 気象に関する警報(特別警報を含む)の入手手段 / 今後入手したい手段(年代別)】

		年代別									
		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上	
		現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい
n=		372	372	485	485	451	451	440	440	1052	1052
テレビ	一般放送	81.7	75.5	83.7	76.9	83.4	73.6	85.9	76.4	89.0	78.8
	データ放送	25.0	26.6	28.9	26.6	30.4	30.2	24.8	26.6	22.3	25.1
	ワンセグ	9.1	13.2	10.7	12.0	12.0	16.0	8.9	14.3	6.8	15.5
ラジオ		13.4	15.1	18.4	18.8	23.7	24.4	26.1	28.2	32.8	33.5
スマートフォン	エリアメール等の自動配信メール	39.0	43.5	42.1	42.1	38.8	46.8	40.9	48.9	33.3	37.3
	登録制のメール	8.1	12.6	9.1	13.2	10.4	17.3	12.3	19.3	8.3	16.0
	ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS	16.4	22.8	11.1	14.2	5.3	13.1	4.8	11.4	3.2	10.4
	ホームページ	15.6	18.0	15.5	16.5	9.8	14.0	8.6	12.7	4.8	12.1
パソコン	登録制のメール	4.8	8.9	3.7	7.0	6.7	11.3	8.9	13.4	8.7	17.5
	ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS	8.3	13.4	5.8	9.5	4.0	10.0	3.2	10.0	2.9	10.7
	ホームページ	17.7	21.0	20.6	19.6	23.9	28.2	22.7	22.5	18.9	21.5
市町村の防災行政無線		8.9	16.9	15.3	18.8	14.6	23.3	20.0	27.5	23.3	30.2
市町村の広報車		8.6	14.8	9.1	14.4	10.9	18.8	15.9	25.5	23.9	33.0
その他		0.8	0.5	0.6	0.6	1.1	2.7	0.9	1.6	0.3	0.9

< 参考比較 >

- 平成22年度に実施した「防災気象情報の利活用状況等に関する調査」結果では、現在入手している経路では「テレビ」が9割で最も多く、次いで「パソコン向けのホームページ」(32.0%)であった。
- 今回実施した調査では、平成22年度実施調査に比べて多くの項目で利用率があがった。特に今回携帯電話(スマートフォン)のメールは利用率が47.7%で半数近くが利用している。

< 参考 > 平成22年度実施調査結果との比較

【気象に関する警報(特別警報を含む)の現在の入手経路】

n	テレビ	ラジオ	携帯電話のメール	携帯電話向けのホームページ	パソコンへのメール	パソコン向けのホームページ	市町村の防災行政無線	市町村の広報車	その他
今回調査	2631 84.3 *	25.0	47.7 **	13.8	12.2	22.4	24.6	23.0	1.2
平成22年度実施調査	4112 92.3	20.6	10.7	8.2	4.1	32.0	9.7	6.3	0.9

【気象に関する警報(特別警報を含む)を今後入手したい経路】

n	テレビ	ラジオ	携帯電話のメール	携帯電話向けのホームページ	パソコンへのメール	パソコン向けのホームページ	市町村の防災行政無線	市町村の広報車	その他
今回調査	2631 76.8 *	26.2	42.3 **	13.3	14.0	12.9	10.6	22.3	24.9
平成22年度実施調査	4112 83.3	24.5	38.1	11.6	16.6	28.9	20.6	23.1	0.8

n: 20歳から69歳以下の男女

今回調査と平成22年度調査は選択肢が異なるため、参考比較としています。

平成22年度実施調査の選択肢

今回調査の選択肢

テレビ	←→	テレビ	一般放送 データ放送 ワンセグ
ラジオ	←→	ラジオ	
携帯電話のメール	←→	携帯電話・スマートフォン	エリアメール等の自動配信メール 登録制のメール ホームページ
携帯電話向けのホームページ	←→		
パソコンへのメール	←→		登録制のメール
パソコン向けのホームページ	←→		ホームページ
市町村の防災行政無線	←→		市町村の防災行政無線
市町村の広報車	←→		市町村の広報車
その他	←→		その他

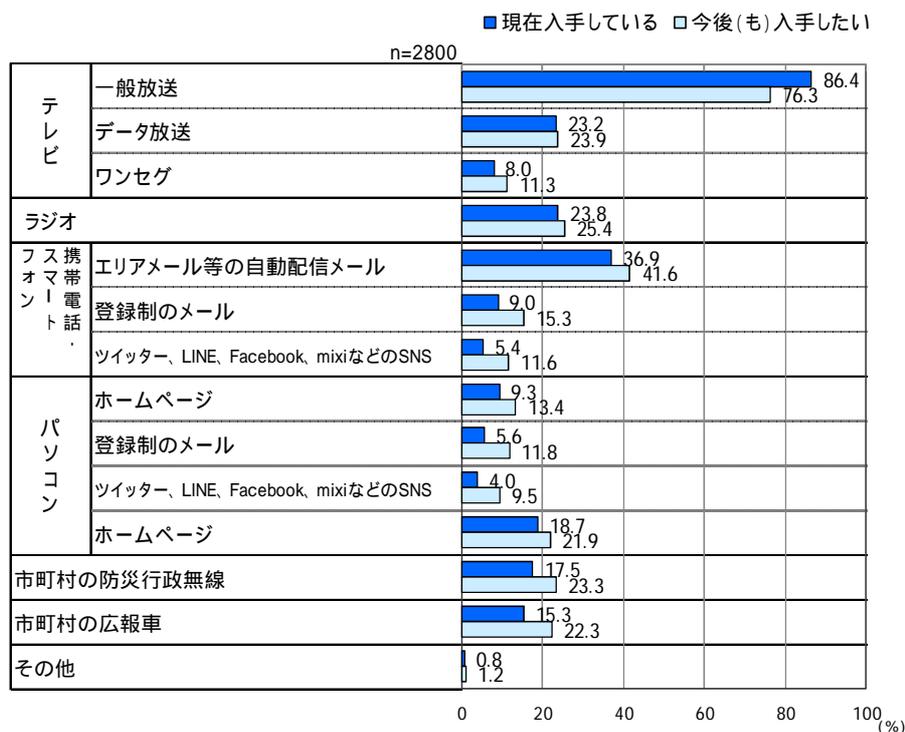
* 「一般放送」「データ放送」「ワンセグ」のいずれかを回答

** 携帯電話・スマートフォンの「エリアメール等の自動配信メール」「登録制のメール」のいずれかを回答

(2)地震・津波・火山に関する情報の入手手段(現在入手している / 今後入手したい)

- 地震・津波・火山に関する情報の入手手段は、「テレビの一般放送」(86.4%)が最も多く、次いで「エリアメール等の自動配信メール」(36.9%)。
- 今後の入手手段も、「テレビの一般放送」(76.3%)、「携帯電話・スマートフォンの」エリアメール等自動配信メール」(41.6%)が多い。
- 年代別の傾向も含め、気象に関する警報の入手手段とほぼ同様の傾向が見られる。

【Q8 地震・津波・火山に関する情報の入手手段 / 今後入手したい手段】



【Q8 地震・津波・火山に関する情報の入手経路 / 今後入手したい経路(年代別)】

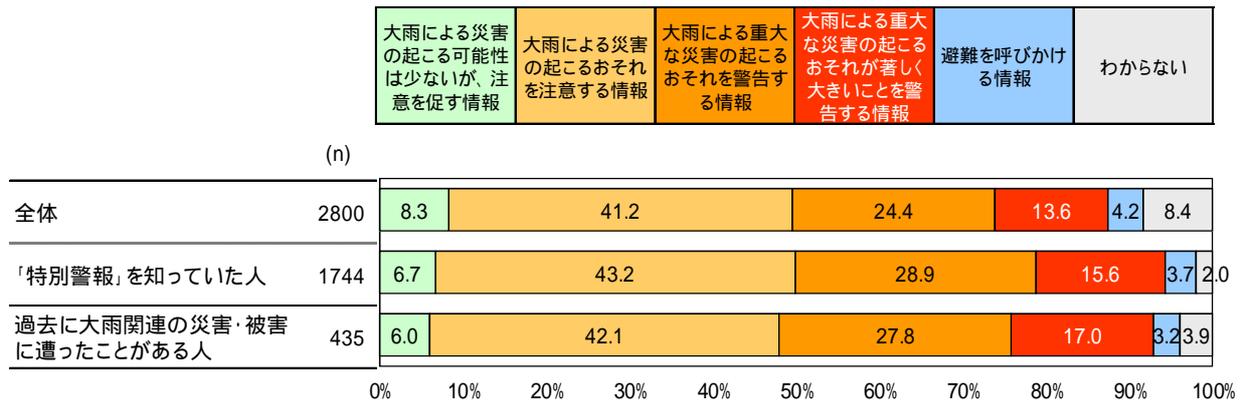
		年代別									
		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳以上	
		現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい	現在入手	今後入手したい
n=		372	372	485	485	451	451	440	440	1052	1052
テレビ	一般放送	80.9	70.4	83.7	77.3	84.5	72.3	86.8	74.8	90.2	80.1
	データ放送	23.7	23.1	23.9	23.1	29.3	26.2	21.1	24.8	21.0	23.1
	ワンセグ	8.3	10.5	7.6	7.8	11.1	11.8	8.4	11.8	6.5	12.8
ラジオ		13.2	16.9	15.9	16.9	20.2	20.8	25.7	27.5	32.0	33.4
携帯電話・スマートフォン	エリアメール等の自動配信メール	40.3	43.3	40.8	43.1	39.7	44.1	40.0	47.3	31.3	36.8
	登録制のメール	8.1	12.6	9.1	13.0	9.8	15.3	12.7	20.2	7.3	15.3
	ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS	15.1	20.7	7.8	11.5	4.4	10.4	4.5	10.5	1.7	9.3
	ホームページ	14.8	16.1	15.5	15.5	10.0	14.0	9.1	13.0	4.4	11.4
パソコン	登録制のメール	3.2	7.8	3.5	5.8	5.8	11.5	7.0	12.7	6.8	15.7
	ツイッター、LINE、Facebook、mixiなどのSNS	8.9	11.6	5.6	8.9	4.0	10.4	3.6	9.8	1.8	8.7
	ホームページ	18.8	19.9	20.2	21.9	21.7	23.9	19.1	22.0	16.5	21.7
	市町村の防災行政無線	8.9	15.6	14.4	19.4	14.9	19.1	18.2	24.5	22.8	29.2
	市町村の広報車	7.8	14.8	8.9	14.2	9.3	15.3	13.6	20.5	24.0	32.4
	その他	0.8	0.8	0.6	0.6	1.3	1.6	1.1	3.0	0.5	0.8

3. 大雨警報 / 大雨特別警報の内容理解と大雨特別警報発表時にとる行動

(1) 大雨警報と災害の関連性に関する理解

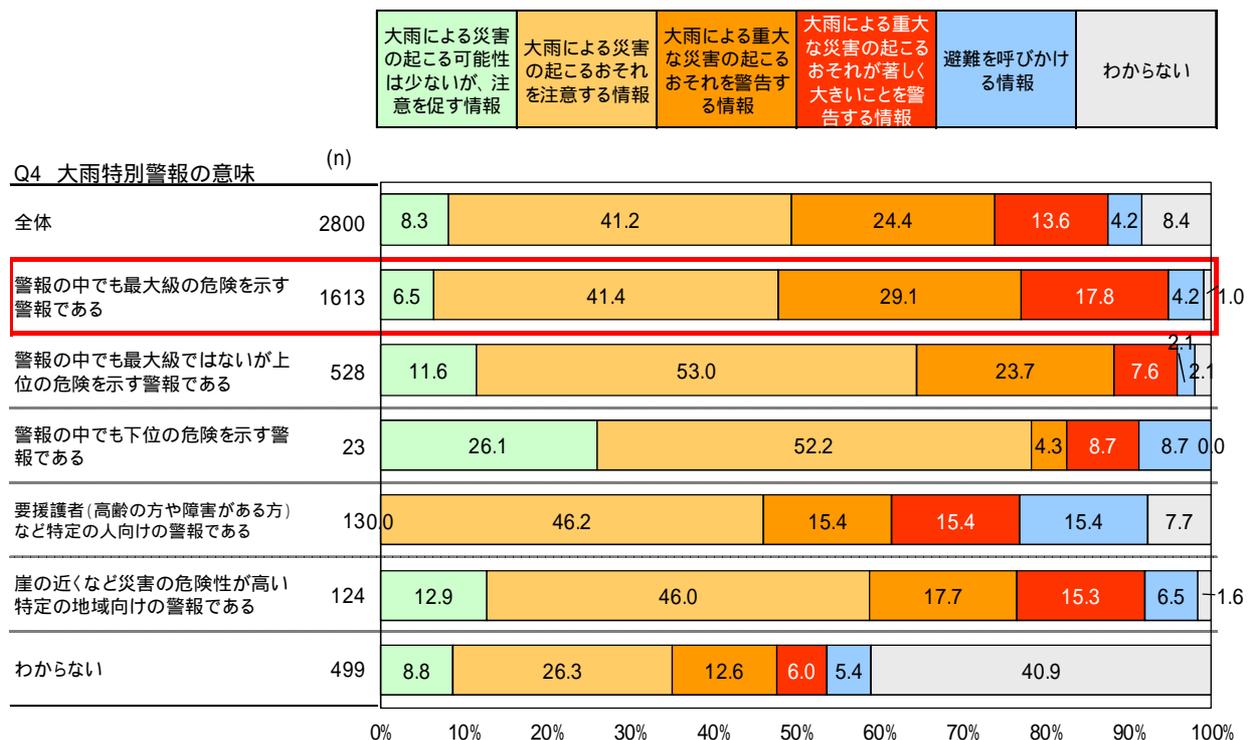
- 大雨警報の意味として「大雨による重大な災害の起こるおそれを警告する情報」と正しく理解している人は24.4%。大雨注意報の意味である「災害の起こるおそれを注意する情報」(41.2%)と理解している人が最も多い。
- 過去に大雨関連の災害・被害(土砂崩れ、洪水または浸水)に遭った経験がある人のうち約4割が、大雨警報は「災害の起こるおそれを注意する情報」(42.1%)と認識している。

【Q9 「大雨警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか】



- 大雨**特別**警報の意味の理解別にみると、大雨特別警報を「重大な災害の起こるおそれが著しく大きいことを警告する情報」と回答した人の41.4%が「大雨による災害の起こるおそれを注意する情報」と回答している。

【Q9 「大雨警報」は災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか】

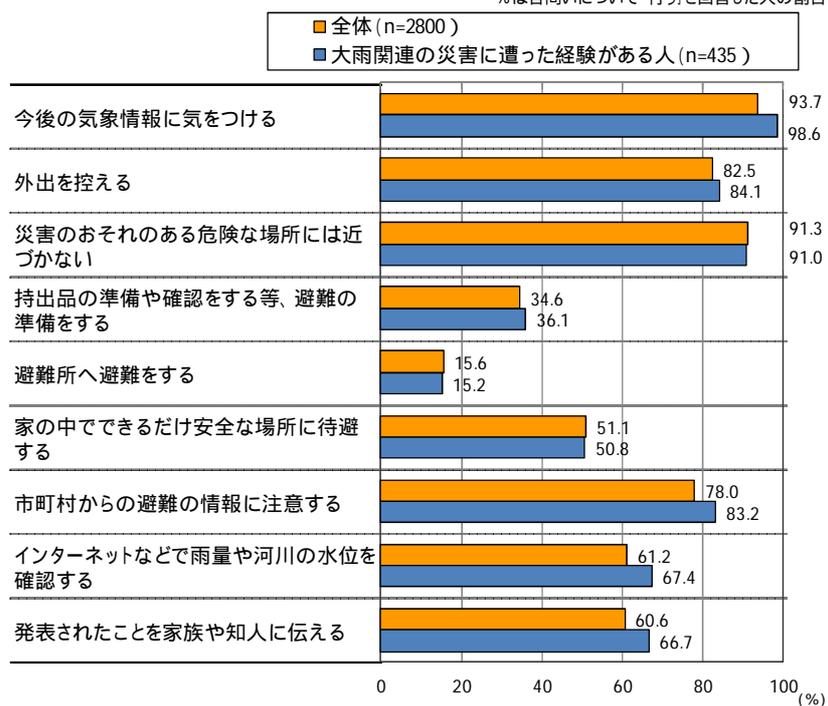


(2)大雨警報が発表された時にとる行動

- 住んでいる市町村に大雨警報が発表された場合「今後の気象情報に気をつける」(93.7%)、「災害のおそれのある危険な場所には近づかない」(91.8%)は9割を超える。「外出を控える」(82.5%)、「市町村からの避難の情報に注意する」(78.0%)など災害のおそれが拡大した場合に備えた行動も8割程度が意識している。「持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする」(34.6%)は、3割を超える程度。
- 回答者全体と、過去に大雨関連の災害(土砂災害、洪水、浸水など)に遭った経験がある人で取る行動に大きな違いはない。

【Q10 住んでいる市町村に大雨警報が発表された場合の行動】

%は各問いについて「行う」と回答した人の割合



< 参考比較 >

- 平成22年度に実施した「防災気象情報の利活用状況等に関する調査」結果では、住んでいる市町村の大雨警報が発表された場合の行動で「避難の準備又は避難をする」を選択した人は19.0%。
- 今回調査では、避難の準備をする、または避難をすると回答した割合は34.9%。

【住んでいる市町村に大雨警報が発表された場合の行動】

n	今後の気象情報に気をつける	外出を控える	災害のおそれのある危険な場所には近づかない	避難の準備又は避難をする	家の中でできるだけ安全な場所に待避する	市町村からの避難の情報を注意する	インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する	家族や表されたことを家族や知人に伝える	その他	特に何もしない
今回調査 2631 「行う」と回答した割合	93.5	82.1	91.2	34.9*	50.4	77.4	60.9	59.5	-	3.9
平成22年度実施調査 4112 とる行動として選択した割合	82.6	71.4	63.2	19.0*	-	38.4	29.9	31.6	0.5	3.2

n: 20歳から69歳以下の男女

今回調査と平成22年度調査は聴取形式が異なるため、参考比較としています。

平成22年度実施調査 : 住んでいる市町村に大雨警報が発表された場合の行動を複数選択式で回答
 今回調査 : 住んでいる市町村に大雨警報が発表された場合の行動について、それぞれ「行う」「行わない」「わからない」を1つだけ回答。上記の結果は、「行う」と回答した割合

平成22年度実施調査の選択肢
(あてはまる項目を選択)

今回調査の項目
(各項目につき「行う」「行わない」「わからない」から単一回答)

今後の気象情報に気をつける	←→	今後の気象情報に気をつける
外出を控える	←→	外出を控える
災害のおそれのある危険な場所には近づかない	←→	災害のおそれのある危険な場所には近づかない
避難の準備又は避難をする	←→	持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする 避難所へ避難をする
		家の中でできるだけ安全な場所に待避する
市町村からの避難の情報を注意する	←→	市町村からの避難の情報を注意する
インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する	←→	インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する
発表されたことを家族や知人に伝える	←→	発表されたことを家族や知人に伝える
その他		
特に何もしない	←→	上記の項目いずれも「行う」を選択していない

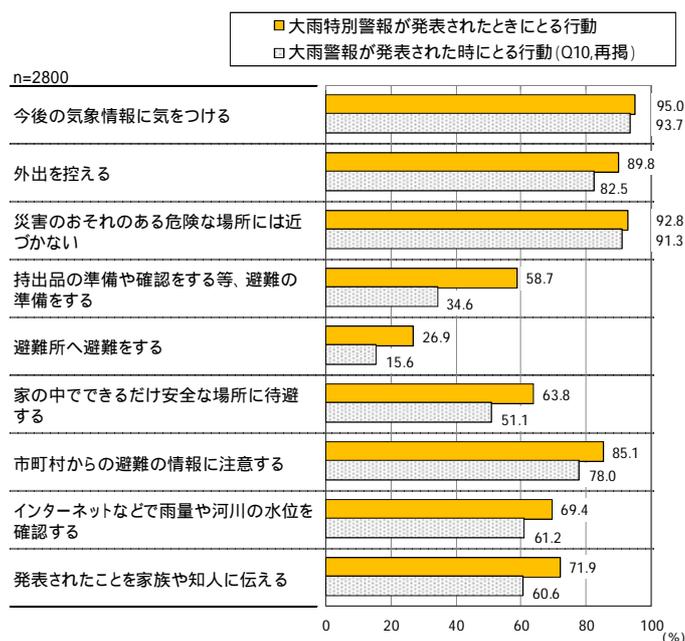
* 「持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする」「避難所へ避難をする」のいずれかを回答

(3) 市町村に大雨**特別**警報が発表された時にとる行動

- 住んでいる市町村に大雨**特別**警報が発表された場合にとる行動は、「災害のおそれのある危険な場所には近づかない」(92.8%)、「外出を控える」(89.8%)が約9割。
- 「避難所へ避難する」(26.9%)と回答した人は3割弱にとどまっている一方、6割の人が「家の中でできるだけ安全な場所に待避する」(63.8%)と簡単にできる待避行動を開始すると回答した。6割近くの人が、警報発表時に行うべき「持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする」(58.7%)と回答している。
- 大雨警報発表時の行動と比べると「持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする」は24.1ポイント上昇(34.6%→58.7%)するが、他の項目の上昇は10ポイント前後にとどまる。「家の中でできるだけ安全な場所に待避する」、「避難所へ避難をする」といった待避行動もそれぞれ10ポイント前後の上昇にとどまる。

[Q11 住んでいる市町村に大雨**特別**警報が発表された場合の行動]

%は各問いについて「行う」と回答した人の割合

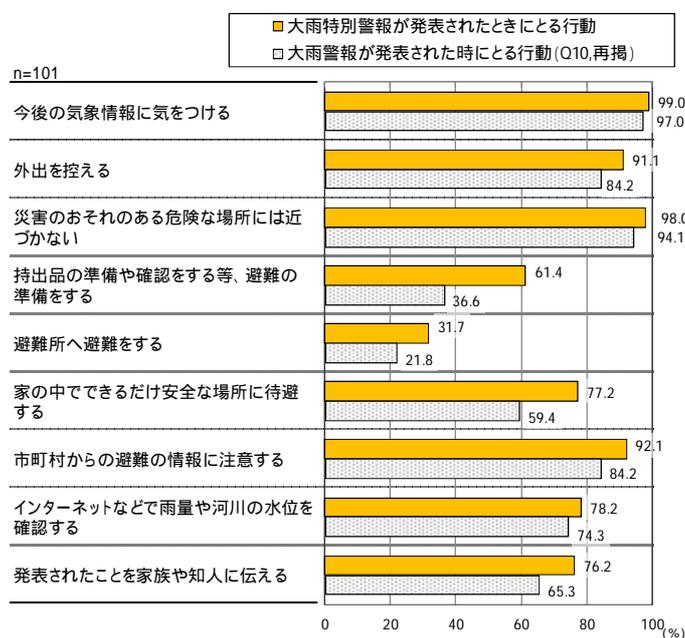


- 大雨特別警報が発表された京都府・滋賀県・福井県で見ると「持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする」は61.4%で、警報発表時(36.6%)と比べて24.8ポイント増加。

[Q11 住んでいる市町村に大雨**特別**警報が発表された場合の行動]

(福井県、滋賀県、京都府計)

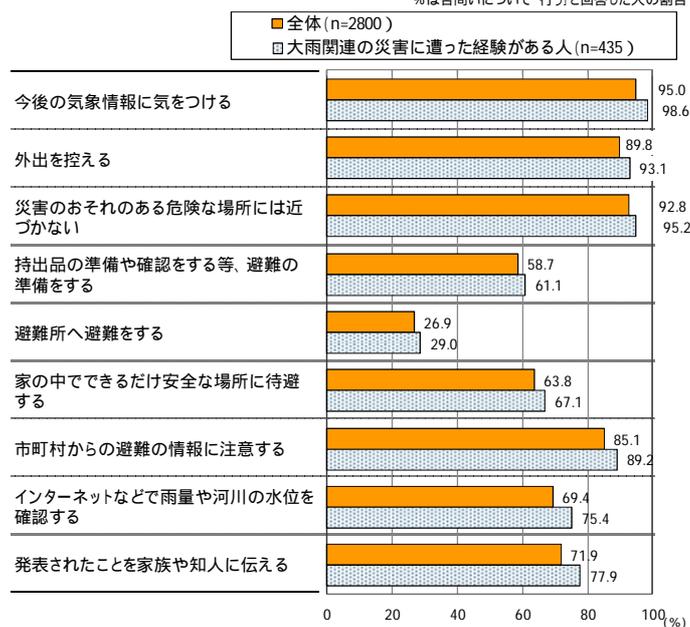
%は各問いについて「行う」と回答した人の割合



- 回答者全体と、過去に大雨関連の災害に遭った経験がある人がとる行動に大きな違いはない。

【Q11 住んでいる市町村に大雨特別警報が発表された場合の行動】

%は各問いについて「行う」と回答した人の割合

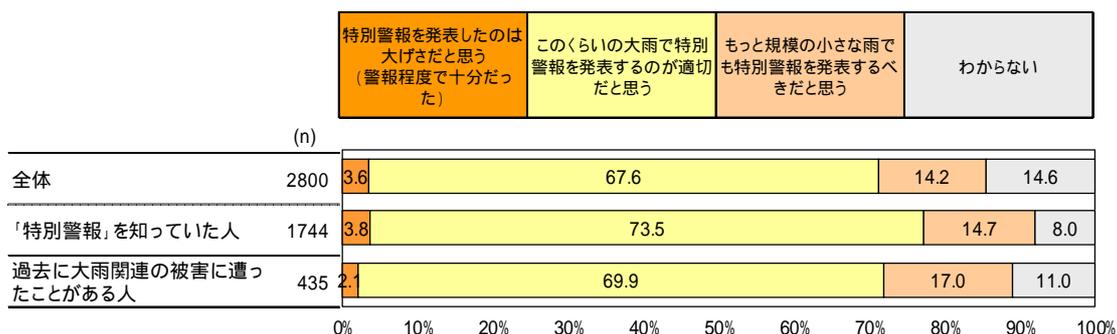


4. 大雨特別警報に対する評価・意見

(1) 平成25年9月に発表した大雨特別警報に対する評価

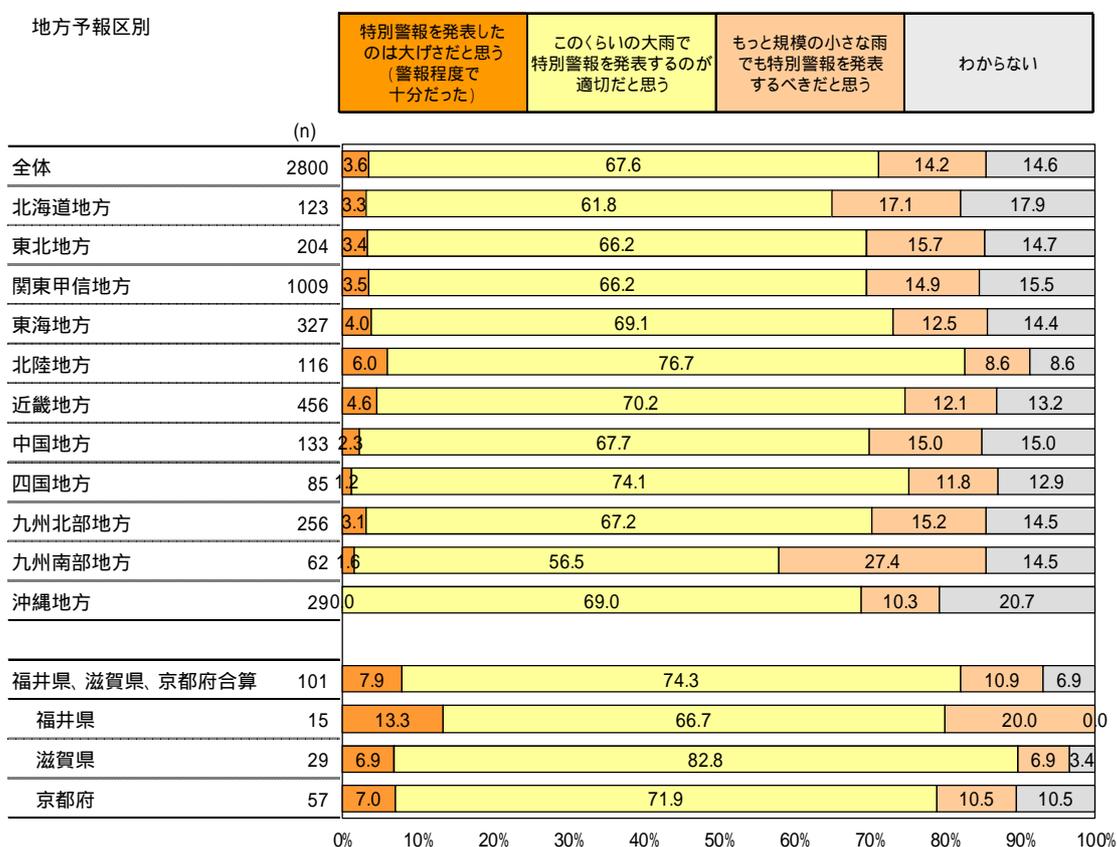
- 平成25年9月の台風第18号接近に伴い、京都府・滋賀県・福井県に大雨特別警報が発表されたことについて、「このくらいの大雨で特別警報を発表するのが適切だと思う」が67.6%で最も多い。「もっと規模の小さな雨でも特別警報を発表するべきだと思う」(14.2%)が1割。
- 特別警報を知っていた人では73.5%が「このくらいの大雨で特別警報を発表するのが適切だと思う」と回答している。
- 過去に大雨関連の被害に遭ったことがある人では69.9%が「このくらいの大雨で特別警報を発表するのが適切だと思う」と回答している。

[Q12 2013年9月の台風第18号接近時に大雨特別警報を発表したのは適切であったか]



- 地域別では、大きな違いは見られない。
- 大雨特別警報が発表された京都府・滋賀県・福井県では、他地域に比べて「特別警報を発表したのは大げさだと思う(警報程度で十分だった)」が多い

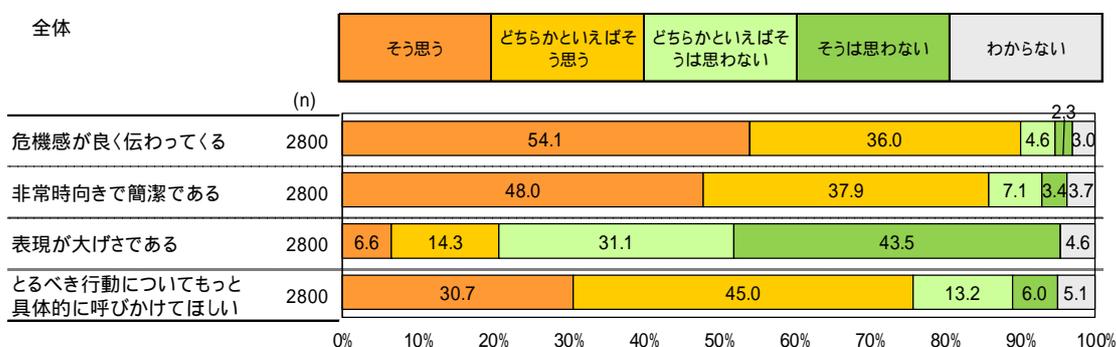
[Q12 2013年9月の台風第18号接近時に大雨特別警報を発表したのは適切であったか]



(2) 特別警報発表時の呼びかけに対する印象

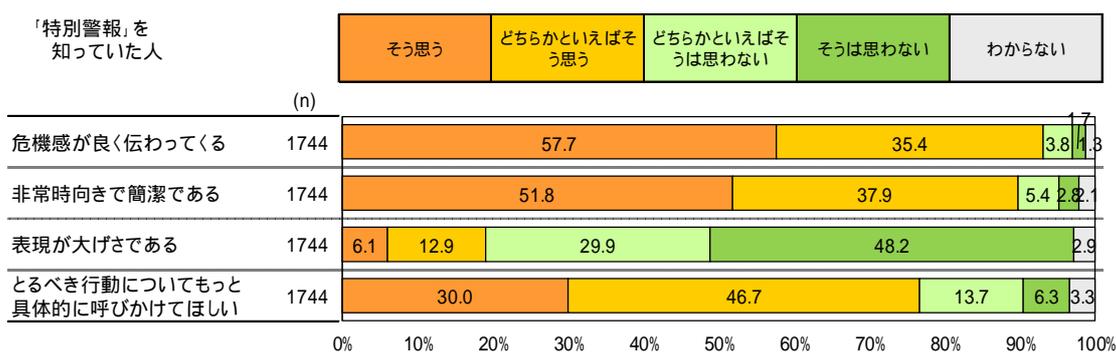
- 大雨特別警報が発表された時、気象庁が「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけたことについて、「危機感が良く伝わってくる」「非常時向きで簡潔である」については、約半数の人が「そう思う」と回答した。「とるべき行動についてもっと具体的に呼びかけてほしい」は「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答が7割にのぼる。

【Q13 大雨特別警報発表時の呼びかけ「ただちに命を守る行動をとってください」に対する印象】



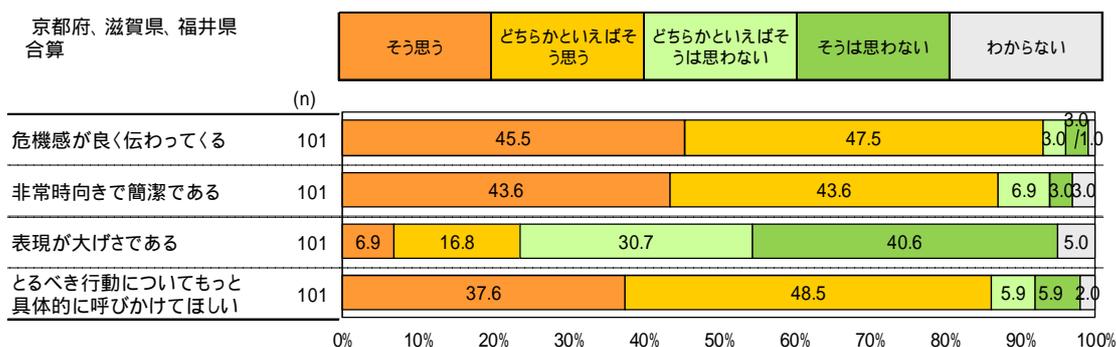
- 「特別警報」を知っていた人にしぼっても、全体の評価とほぼ同様の傾向を示す。

【Q13 大雨特別警報発表時の呼びかけ「ただちに命を守る行動をとってください」に対する印象】



- 大雨特別警報が発表された京都府・滋賀県・福井県では、「危機感が良く伝わってくる」について「どちらかといえばそう思う」が47.5%で「そう思う」よりも多くなった。(全体は「そう思う」= 45.5%、「どちらかといえばそう思う」= 36.0%)
- 「とるべき行動についてもっと具体的に呼びかけてほしい」は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせて86.1%がそう思うと回答(全体は75.7%)している。

【Q13 大雨特別警報発表時の呼びかけ「ただちに命を守る行動をとってください」に対する印象】



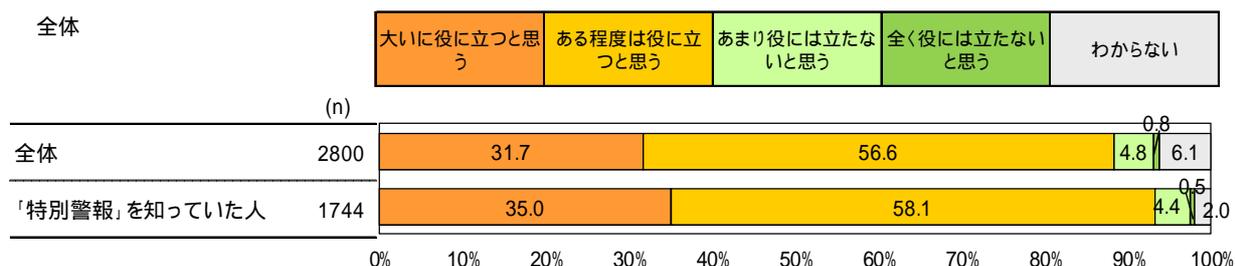
(3) 特別警報の有用性に関する評価

- 特別警報は役に立つか*を聞いたところ、「大いに役に立つと思う」が31.7%、「ある程度は役に立つと思う」まで含めると88.3%が役に立つと回答した。

*以下の質問に対する回答

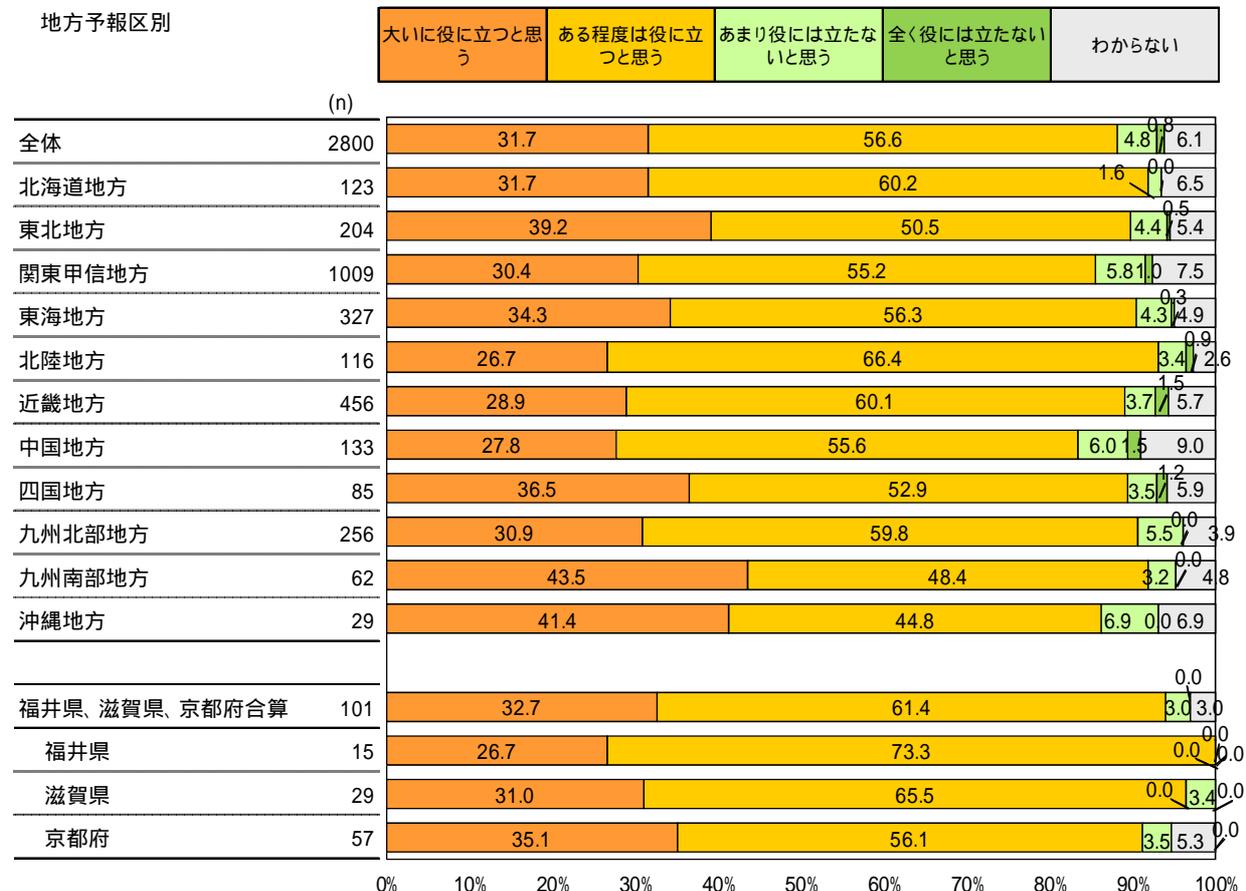
「特別警報を公表した時には、すでに災害が発生している地域もあったといわれています。特別警報は、警報 (= 重大災害のおそれあり) 発表後、さらに事態が進展し、重大な災害のおそれが“著しく大きく”なった時に発表されるものだからです。このような特別警報ですが、被害を軽減するのに役に立つと思いますか。」

【Q14 警報発表の後に重大災害のおそれが著しく大きくなった時に発表される特別警報は被害を軽減するのに役立つか】



- 地域別にみると、いずれも8割以上は役に立つ(大いに役に立つ、ある程度は役に立つ)と回答。
- 平成25年9月に大雨特別警報が発表された京都府・滋賀県・福井県は約9割が役に立つと回答している

【Q14 警報発表の後に重大災害のおそれが著しく大きくなった時に発表される特別警報は被害を軽減するのに役立つか】



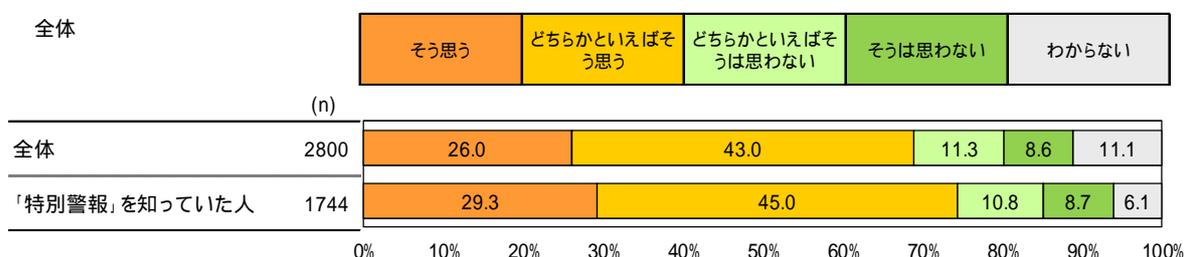
(4)大雨特別警報の発表地域細分化に関する意見

- ・ 特別警報発表の条件について、空振りが増えても狭い範囲の雨の場合にも発表するように緩和すべきか*と聞いたところ、「そう思う」が26.0%。どちらかといえばそう思うを含めて69.0%がそう思うと回答している。
- ・ そうは思わない(どちらかといえばそうは思わないとそうは思わない)との回答は19.9%。

*以下の質問への回答

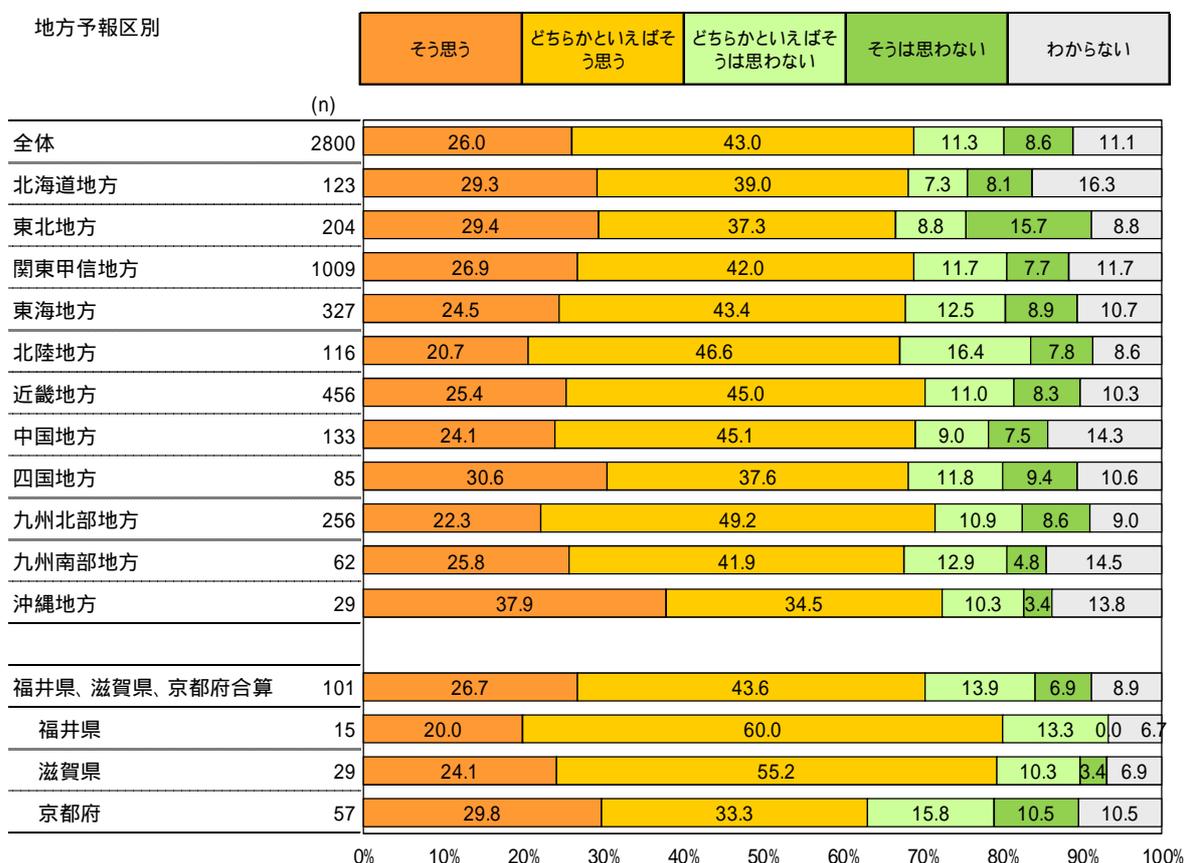
「10月16日に、伊豆大島で豪雨があり、死者・行方不明者40人以上に上る災害が発生しました。この時に気象庁は大雨警報は発表しましたが、大雨特別警報を発表しませんでした。これは、この雨が狭い範囲で発生し、特別警報を発表する条件を満たさなかったためです。この、伊豆大島での災害を契機として、狭い範囲で発生する雨の場合にも特別警報を出すべきだとの意見があります。その一方で、このように条件を緩和すると、特別警報が出て結果的に大きな災害にならないという「空振り」が増え、特別警報の信頼性が落ちることを懸念する声もあります。(現在は、特別警報が出ている場合、大きな災害にならないことはほぼありません)あなたは、既に警報が発表され厳重な警戒を呼びかけている中で、空振りが増えても、狭い範囲の雨の場合にも発表するように特別警報の条件を緩和すべきだと思いますか。」

【Q15 空振りが増えても狭い範囲の雨の場合にも発表するよう特別警報の条件を緩和すべきか】



- ・ 地域別に大きな違いはみられない。
- ・ 大雨特別警報が発表された京都府は、「そうは思わない」「どちらかといえばそうは思わない」と「そうは思わない」は26.3%で全体よりもやや多い。

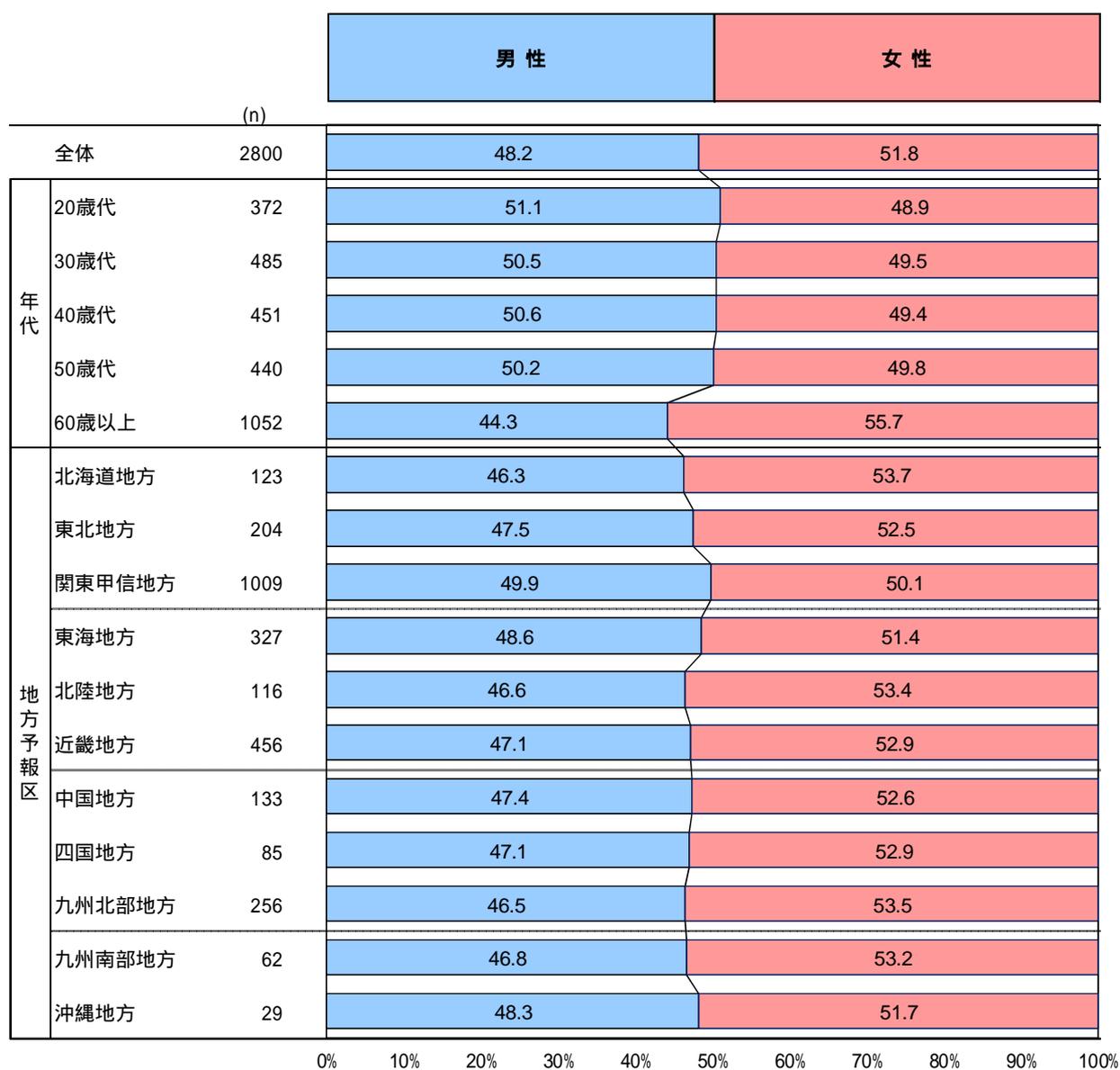
【Q15 空振りが増えても狭い範囲の雨の場合にも発表するよう特別警報の条件を緩和すべきか】



調査結果

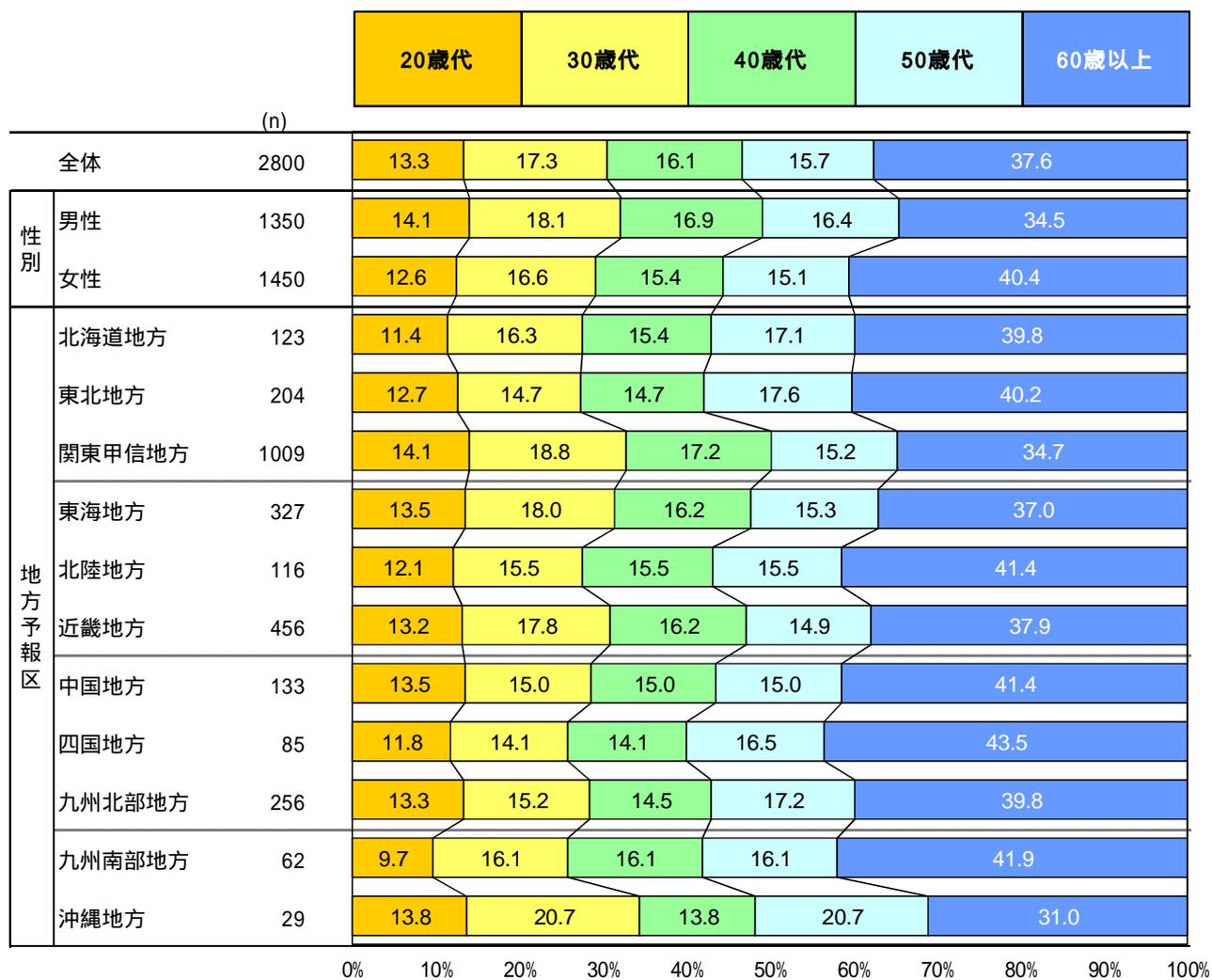
1. 回答者属性

性別(アンケートモニター情報) n=2800



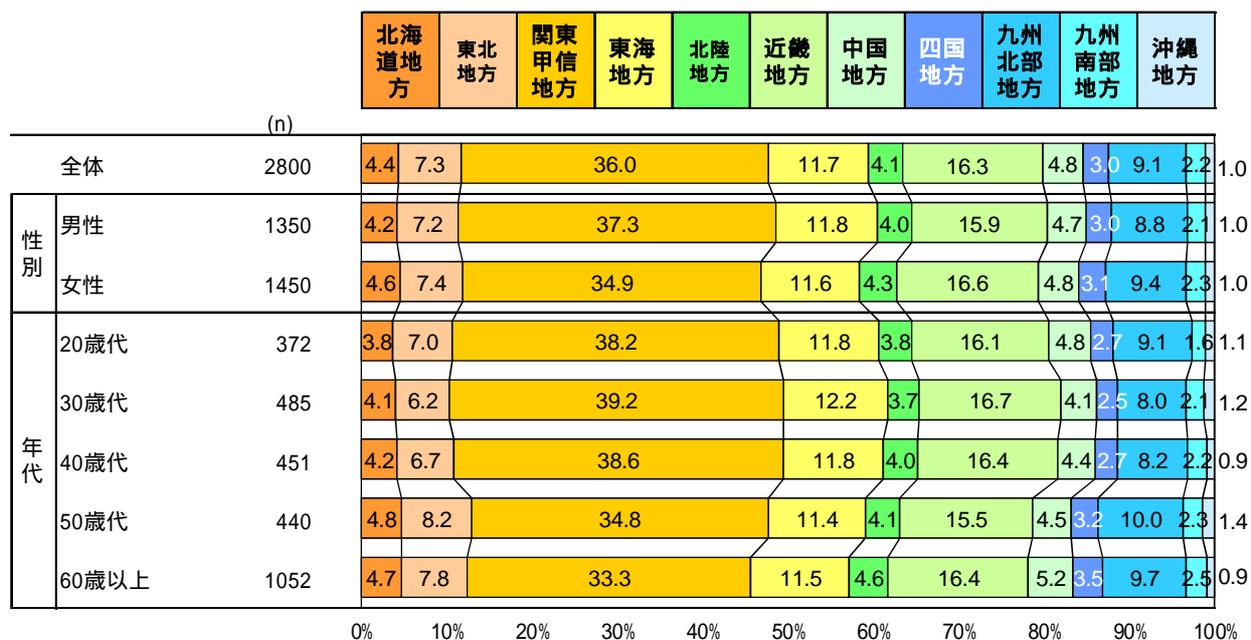
1. 回答者属性

年代(アンケートモニター情報) n=2800



1. 回答者属性

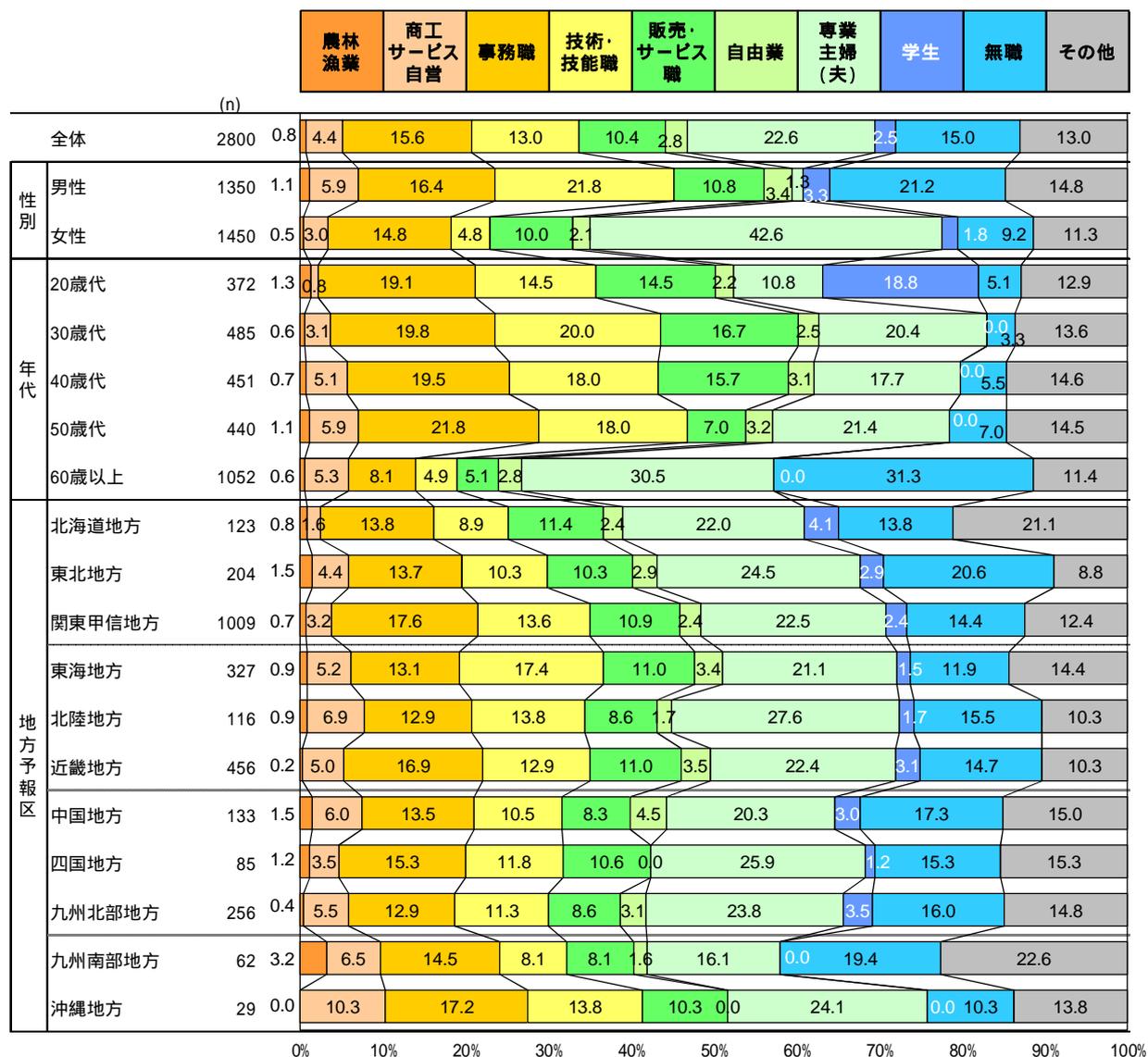
エリア別(アンケートモニター情報) n=2800



1. 回答者属性

職業(Q1) n=2800

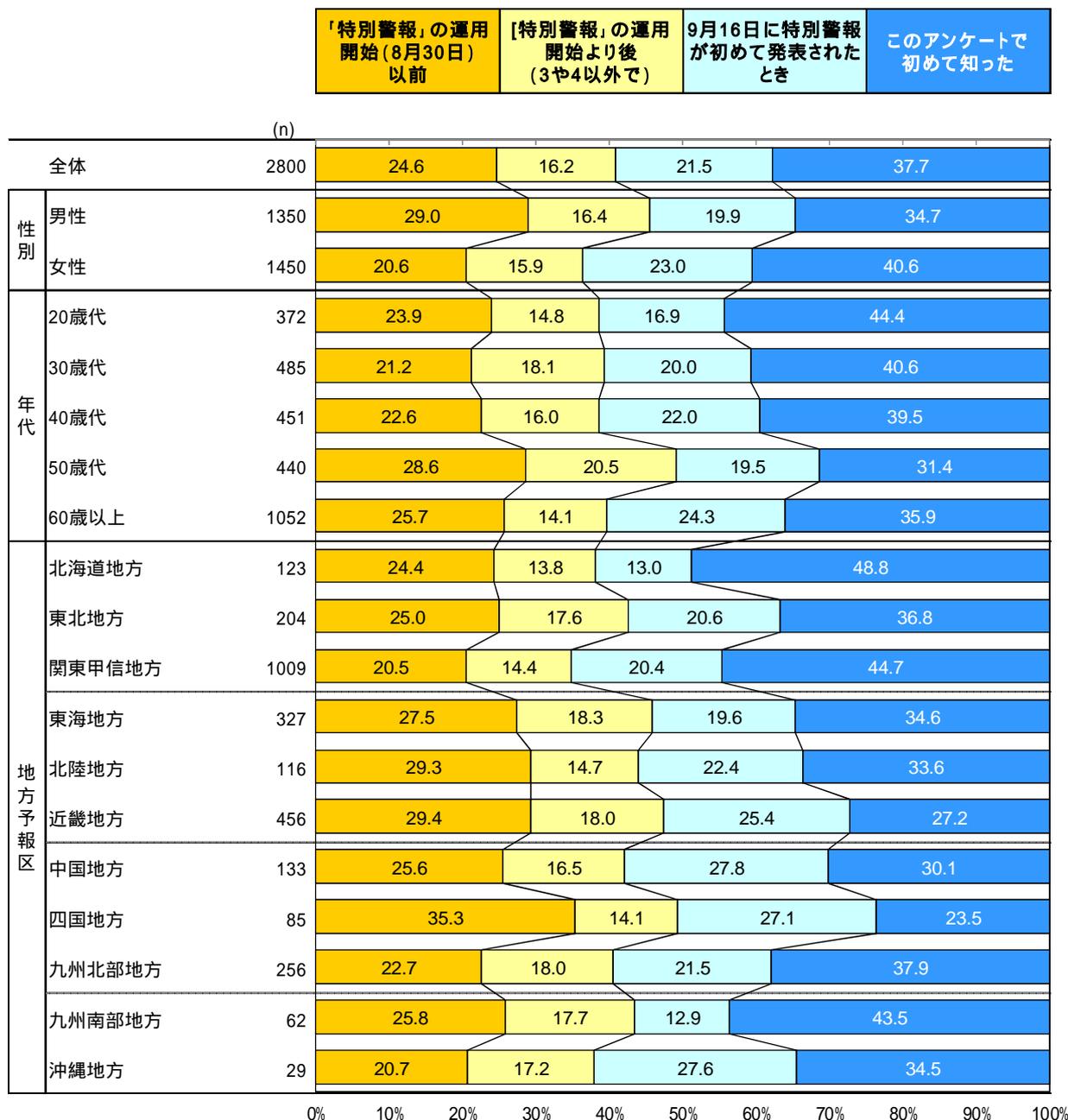
最初にあなたの職業を教えてください



2. 特別警報の認知状況

1. 認知時期(Q2) n=2800

「特別警報」は、平成25年(2013年)8月30日に運用が始まりました。また、最初の「特別警報」は、平成25年9月16日に、京都府、滋賀県、及び福井県を対象に発表されました。あなたが、「特別警報」という言葉を最初に見聞きしたのはいつですか。「特別警報」の内容や意味については知らなくても結構です。

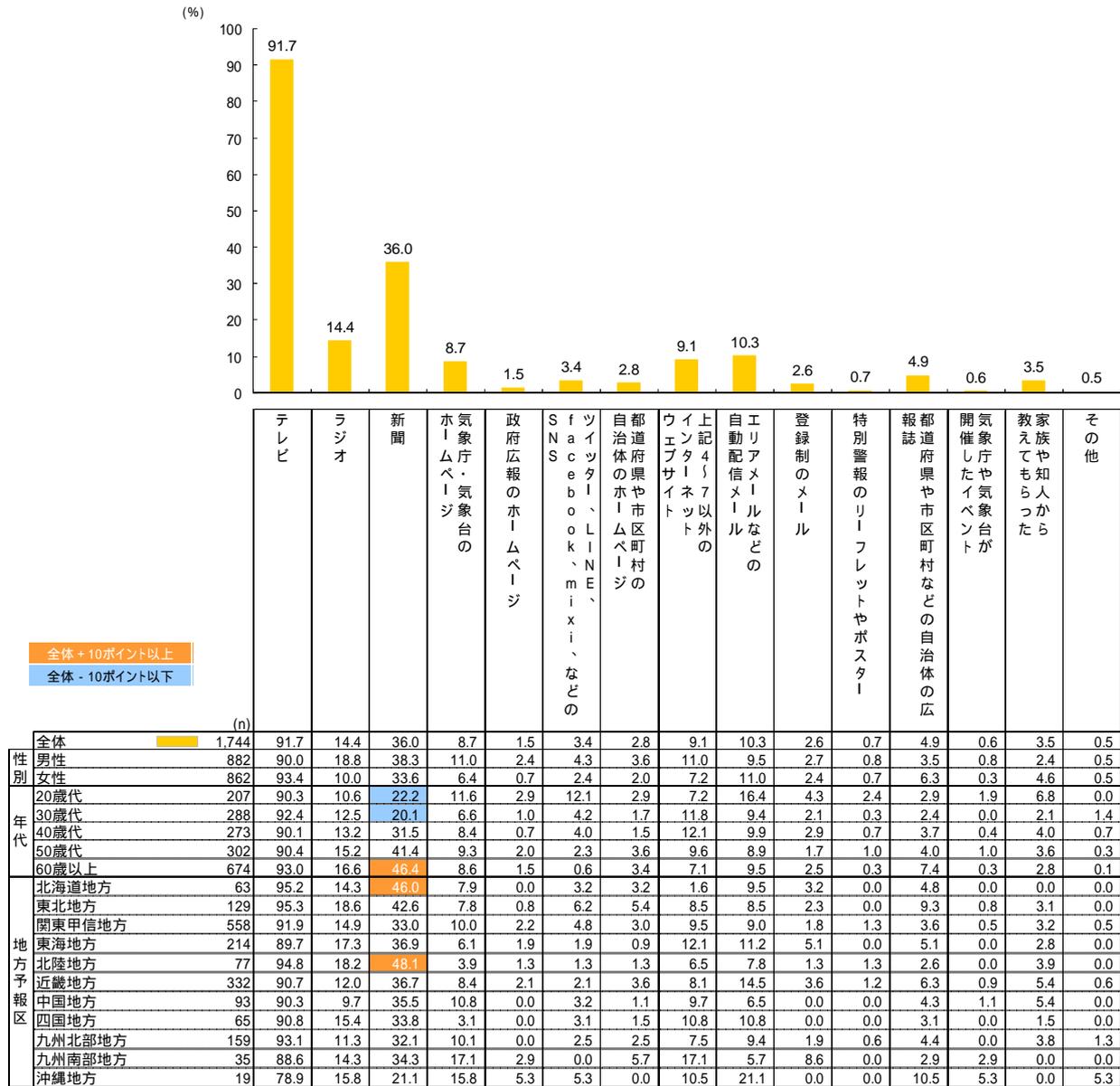


2. 特別警報の認知状況

2. 認知経路(Q3) n=1744

あなたがこれまでに「特別警報」という言葉を見聞きした媒体を全て選んでください。

- 1 自動配信メール: 特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール: 一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことが出来る。



2. 特別警報の認知状況

2. 認知経路(Q3：その他)

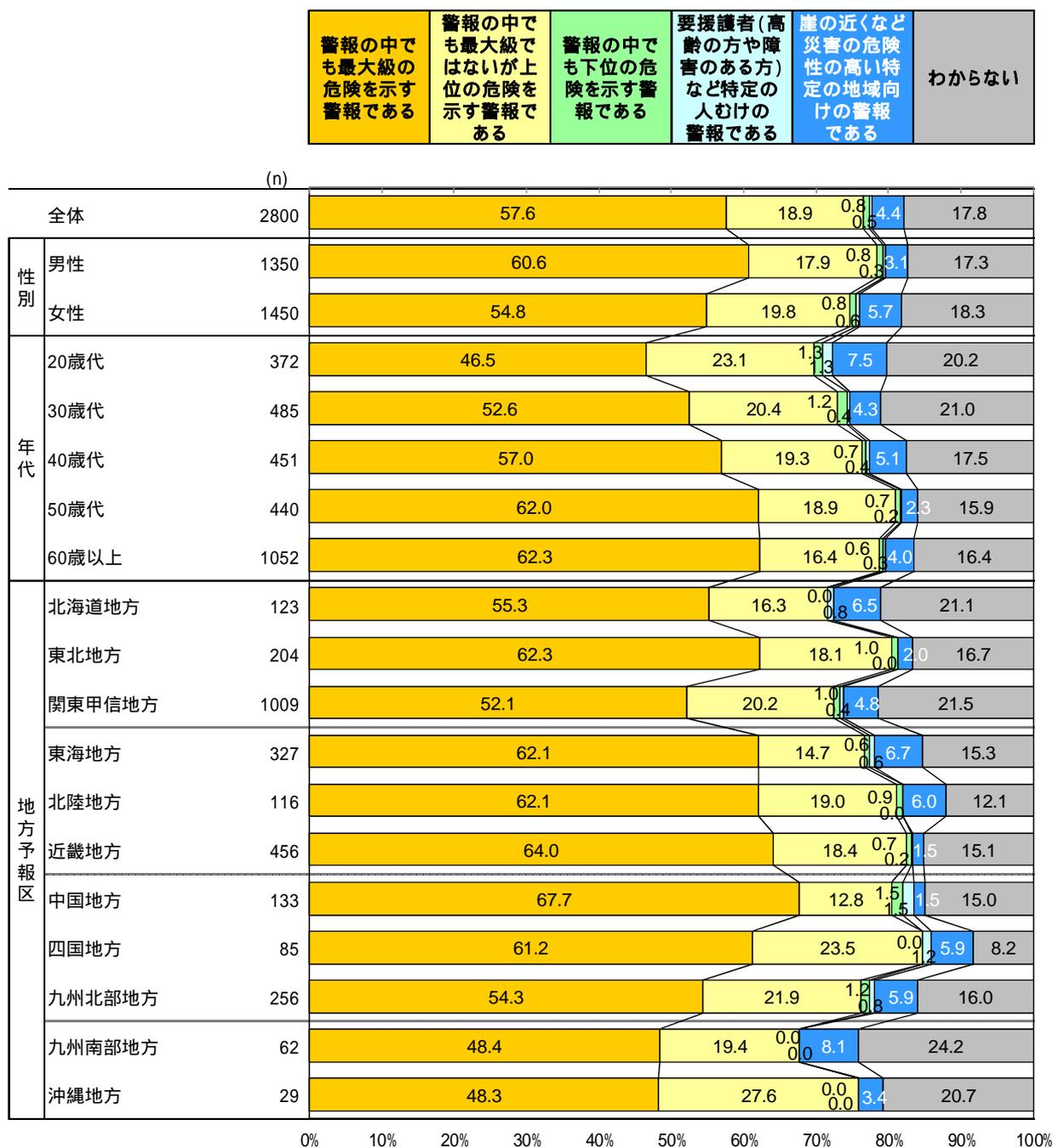
あなたがこれまでに「特別警報」という言葉を見聞きした媒体を全て選んでください。

「その他」
インターネットのニュース
スマホ、携帯の設定画面
ニュースウォッチ9
テレビ
ウエザーニュース
災害アプリ
会社

2. 特別警報の認知状況

3. 特別警報の意味に関する理解(Q4) n=2800

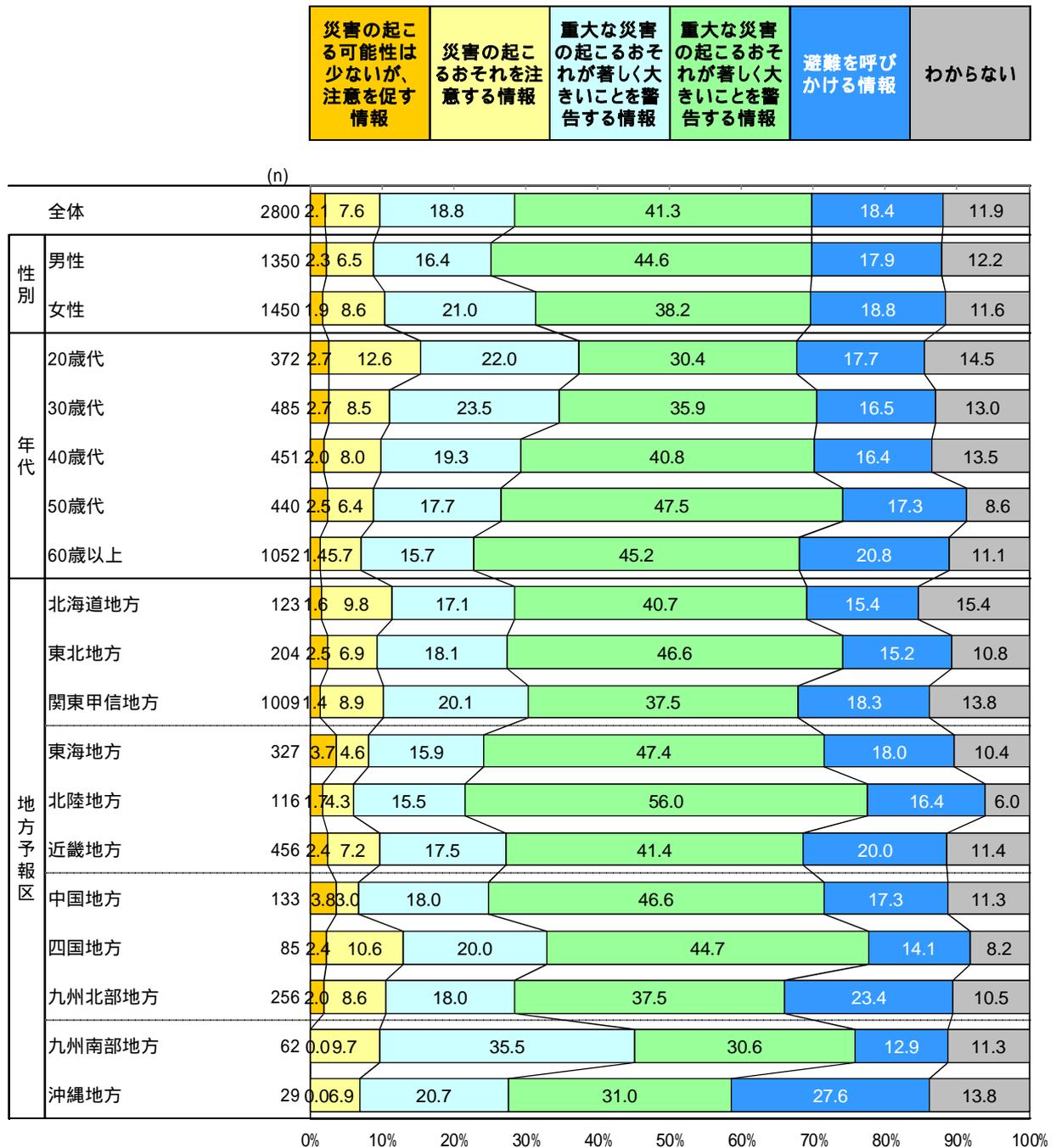
特別警報は、その名前のとおり警報の一種ですが、どのような警報だと思いますか。



2. 特別警報の認知状況

4. 特別警報と災害の関連性に関する理解 (Q5) n=2800

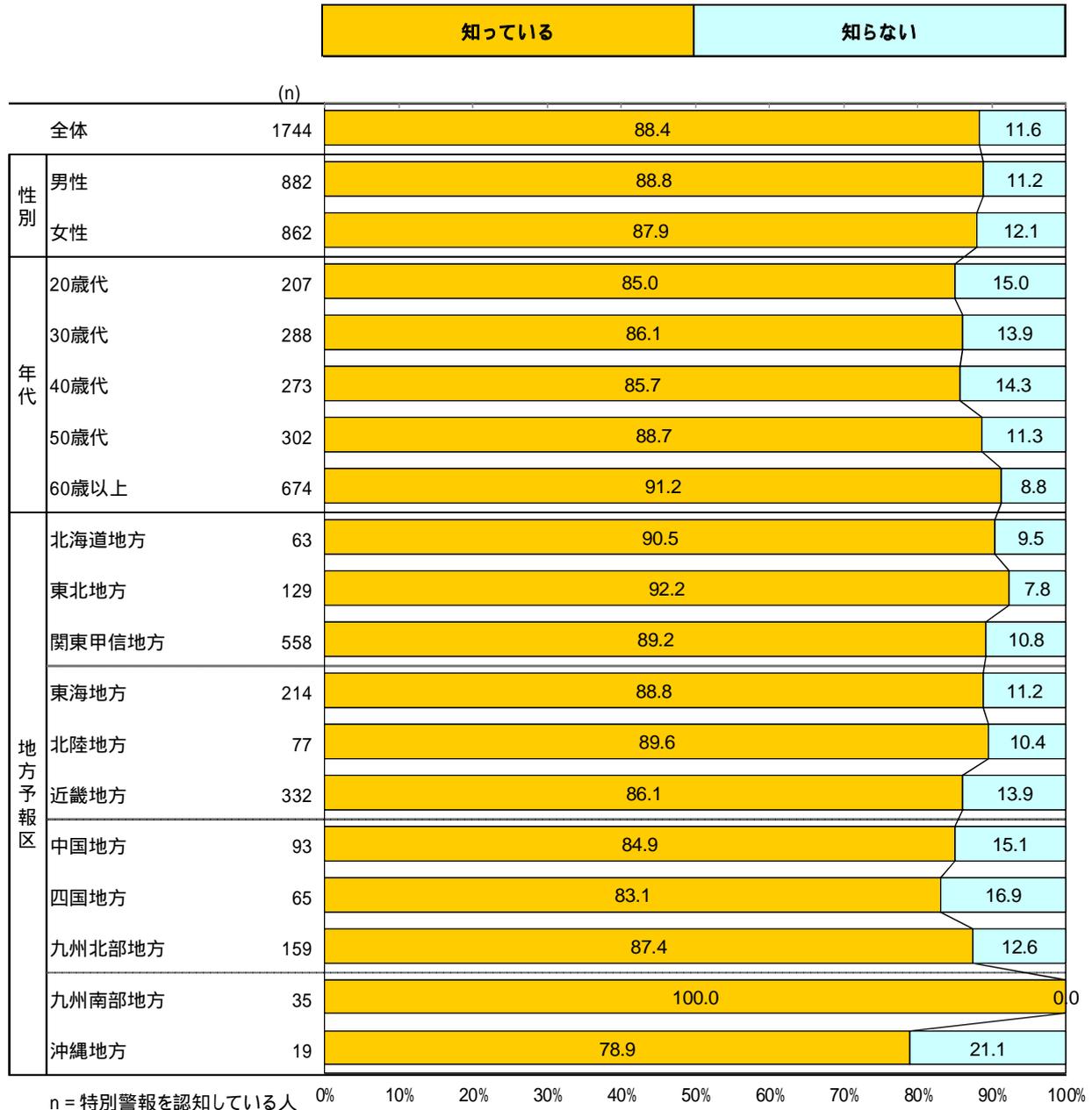
特別警報は、災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知（Q6：大雨） n=1744

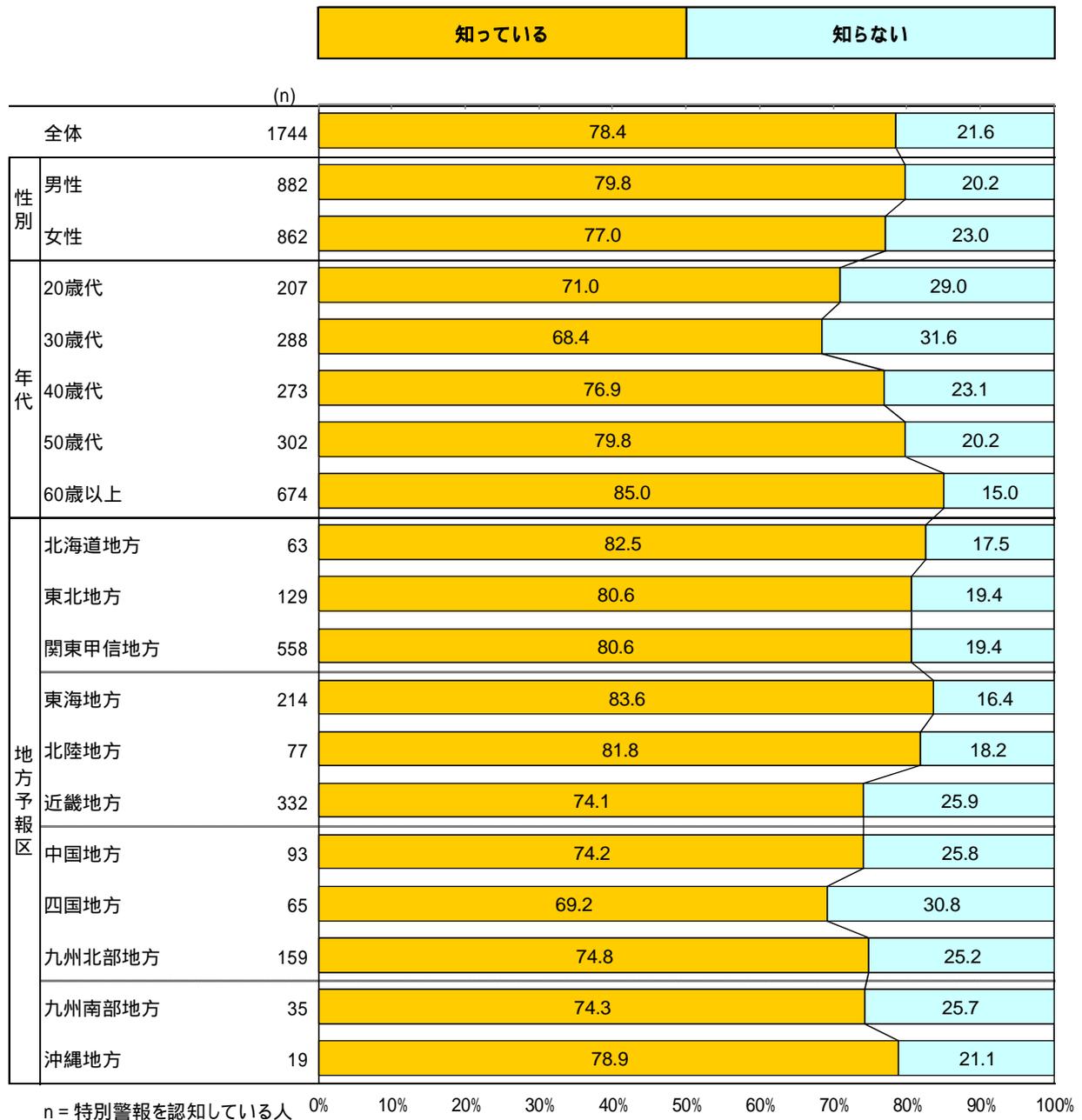
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた / いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5. 現象別の特別警報の認知 (Q6: 暴風) n=1744

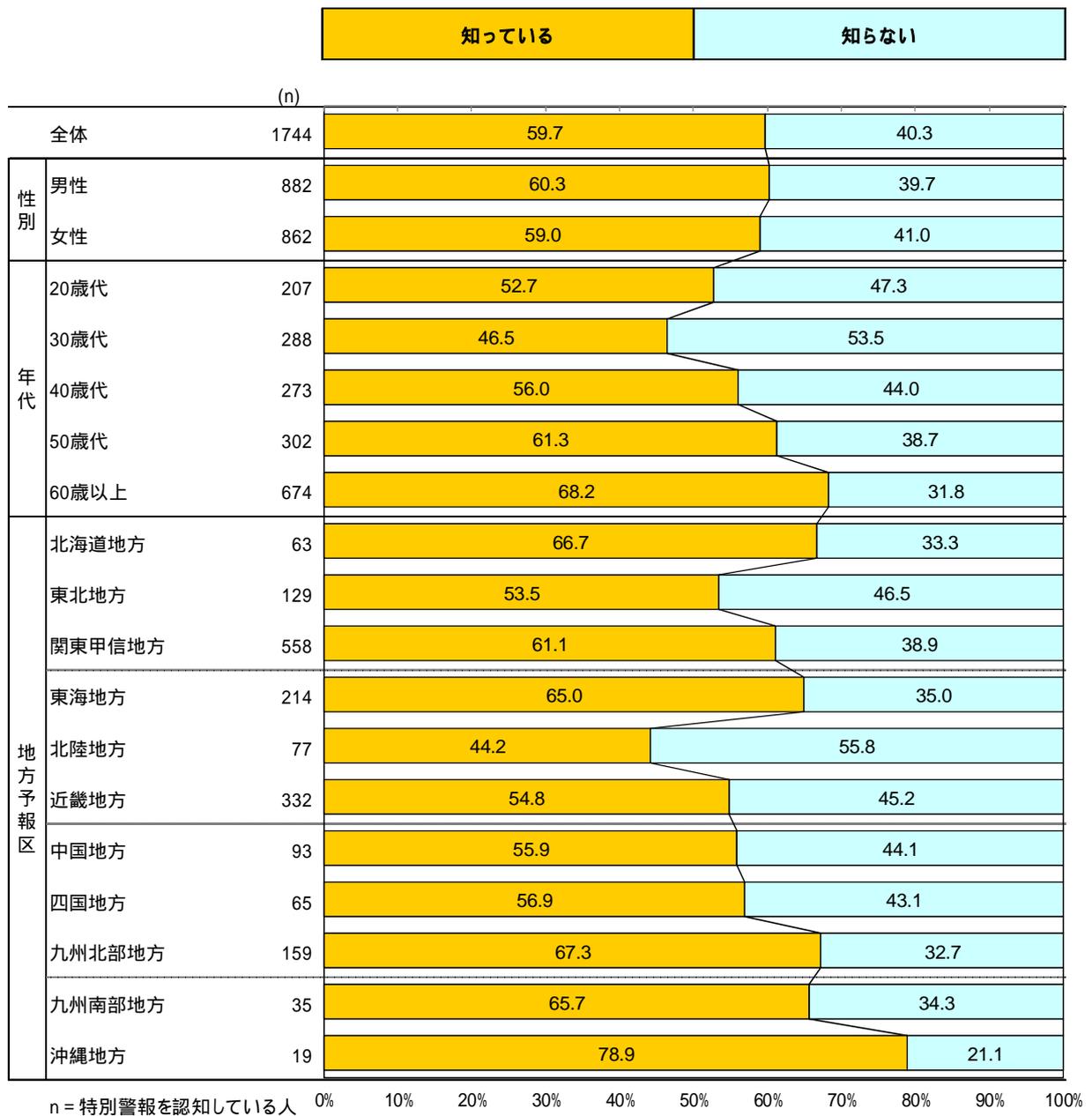
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた / いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知（Q6：高潮） n=1744

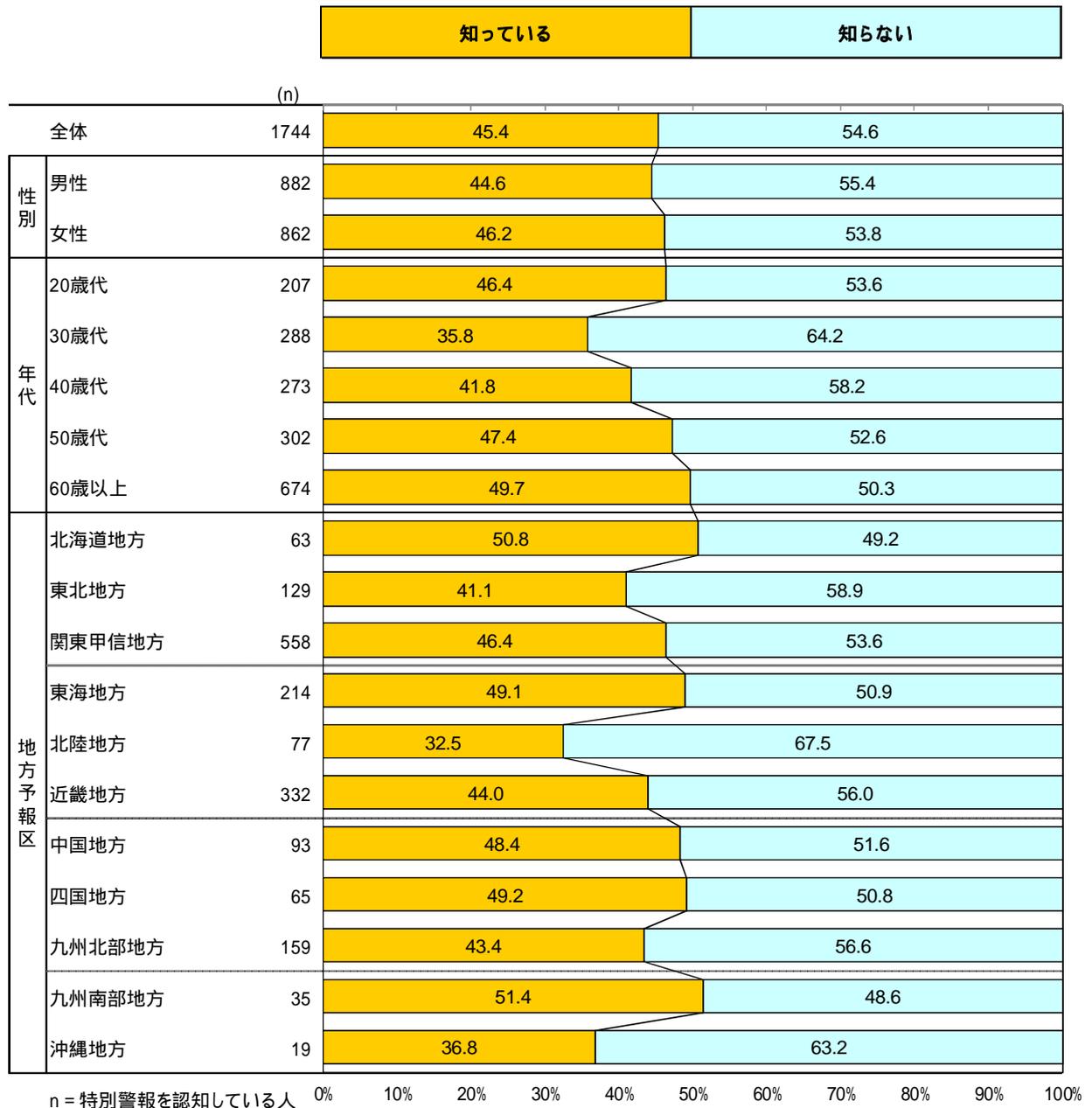
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた／いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知（Q6：波浪） n=1744

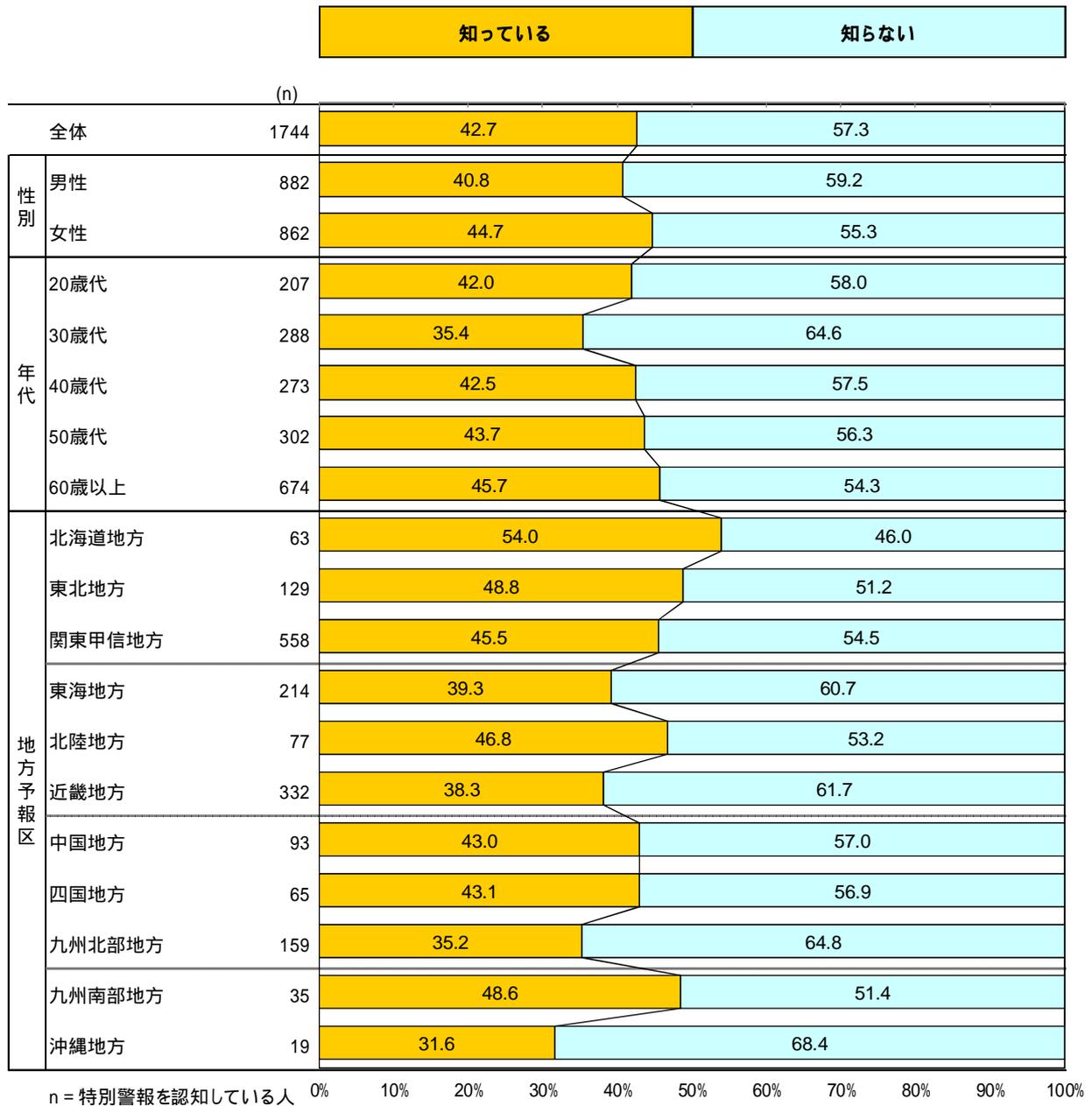
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた／いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知 (Q6: 大雪) n=1744

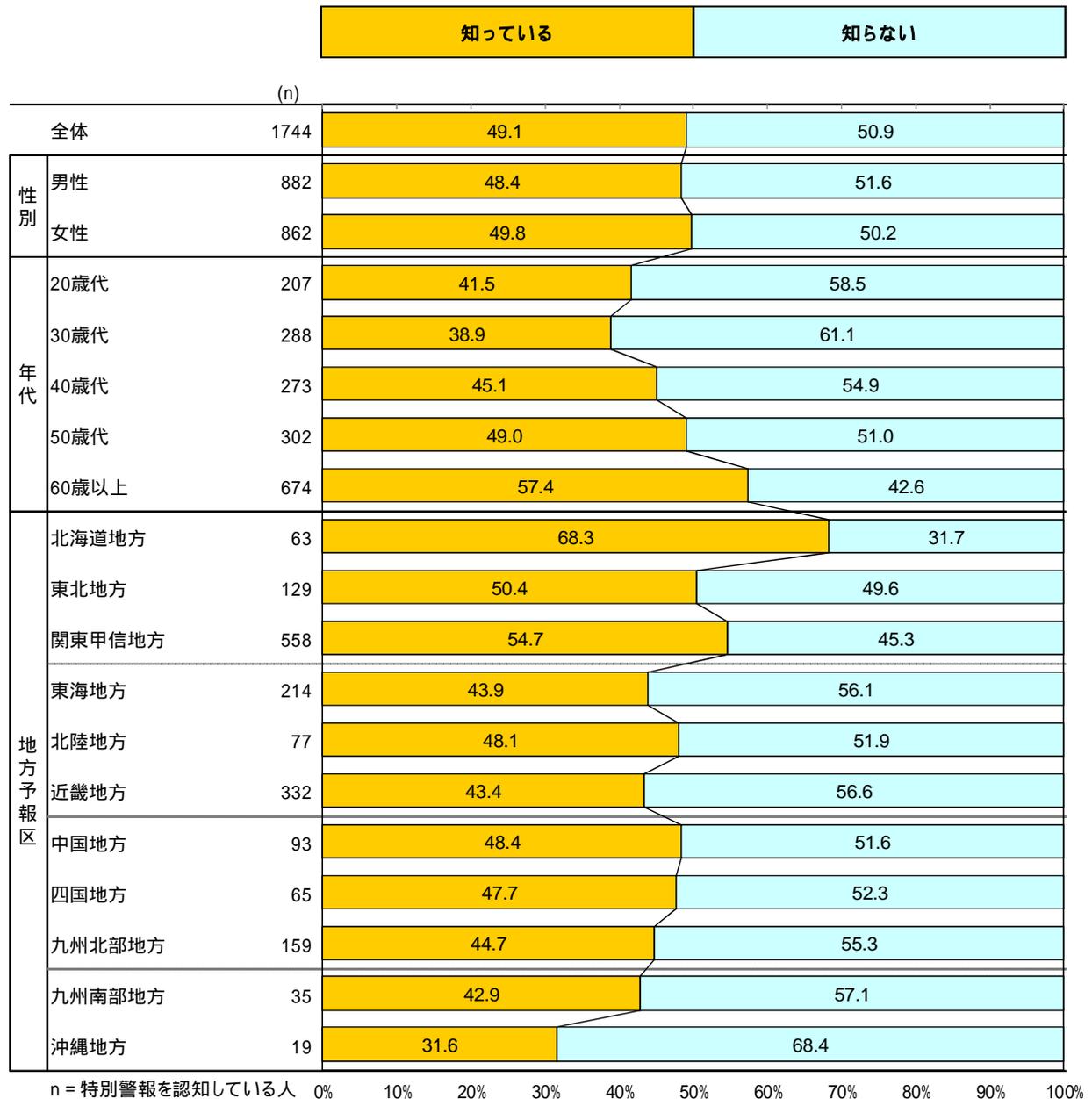
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた/いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5. 現象別の特別警報の認知 (Q6: 暴風雪) n=1744

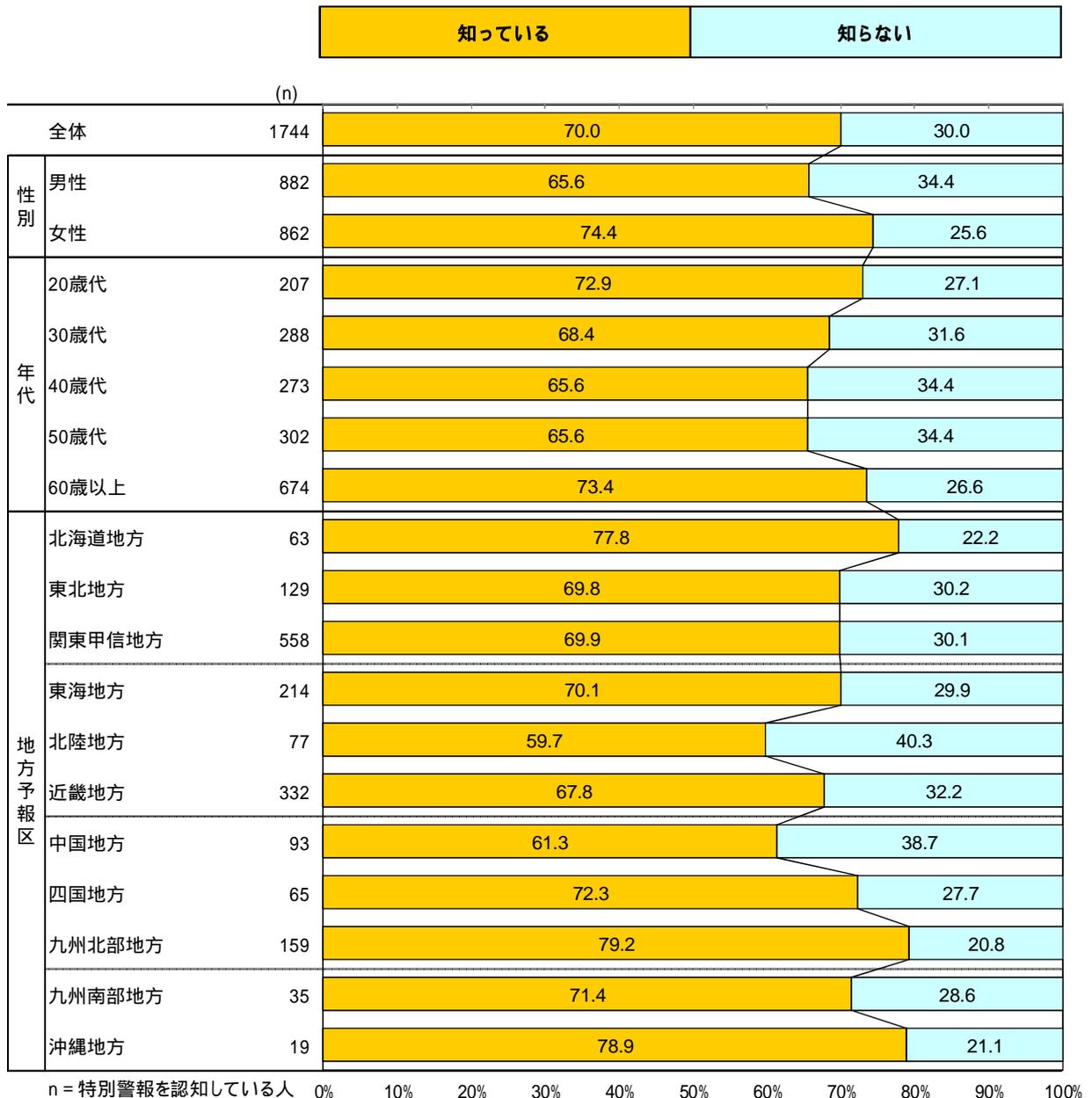
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた / いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知 (Q6: 地震(地震動)) n=1744

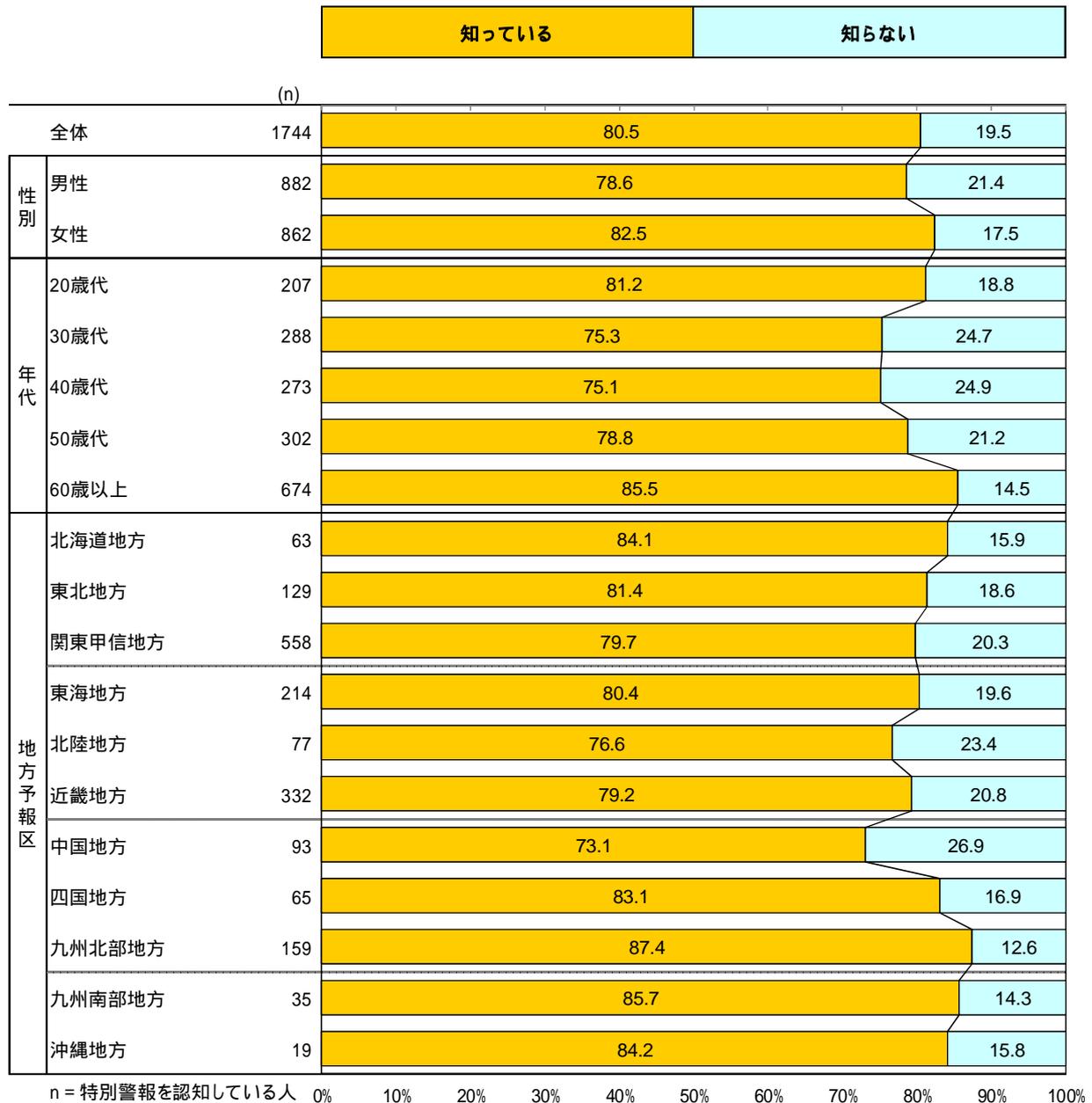
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた/いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知（Q6：津波） n=1744

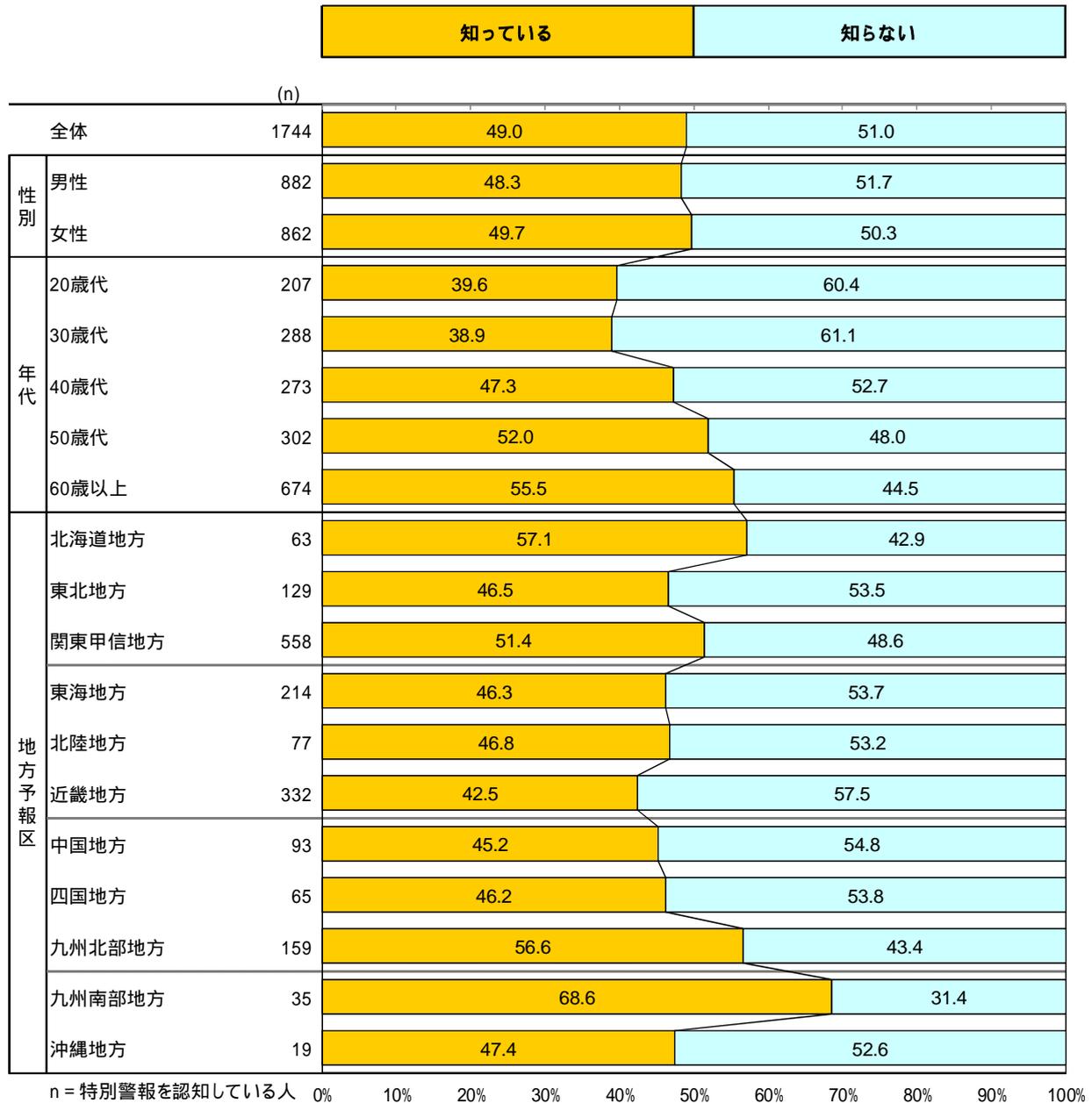
特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた／いなかったをお答え下さい。



2. 特別警報の認知状況

5.現象別の特別警報の認知（Q6：噴火） n=1744

特別警報は以下の表に掲げる現象に対して発表されますが、あなたはこのアンケートを見る前にそのことを知っていましたか。現象毎に知っていた／いなかったをお答え下さい。

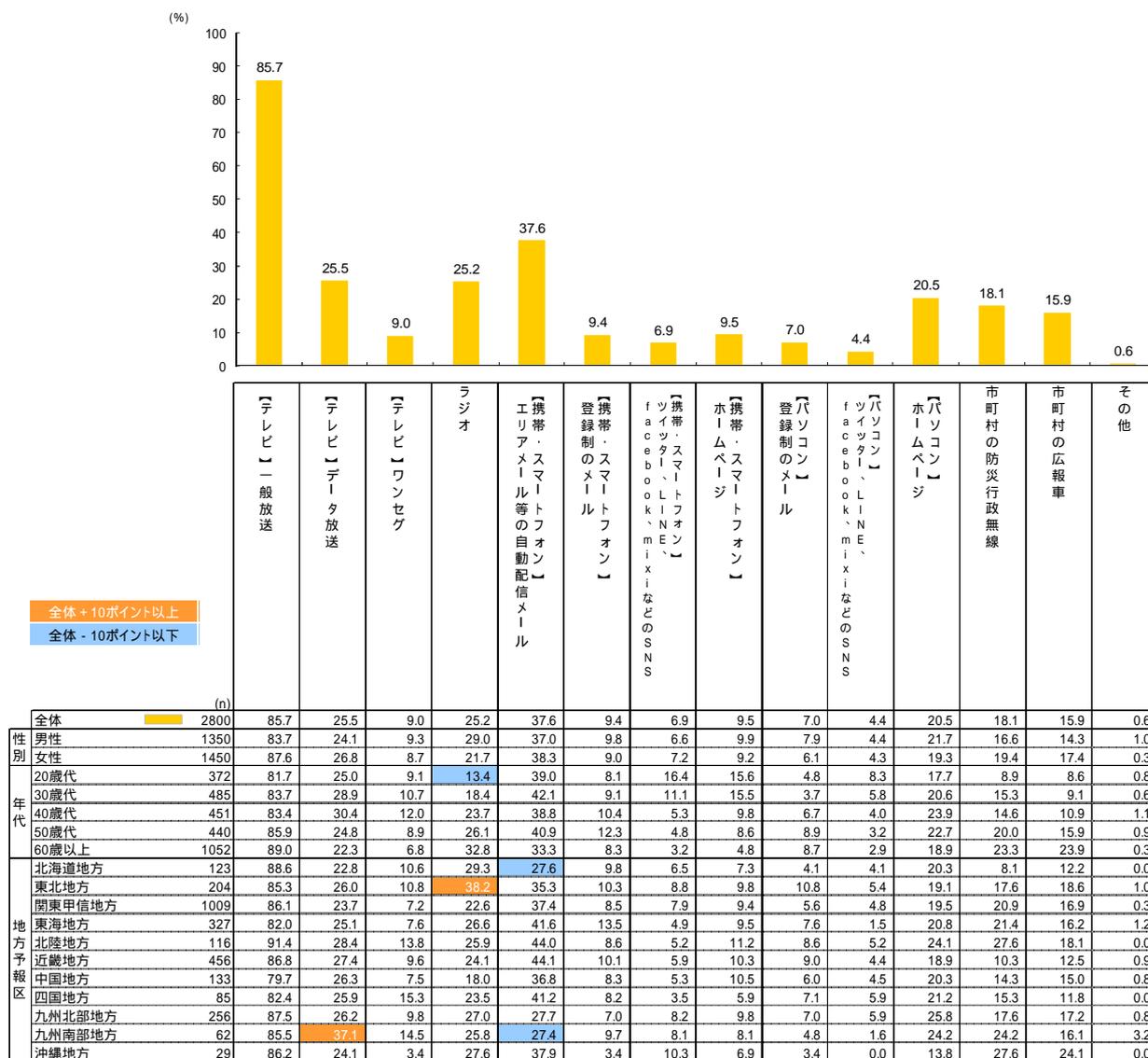


3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

1. 気象に関する警報の入手手段 (Q7:現在入手している) n=2800

あなたは、大雨警報などの気象に関する警報(特別警報を含む)を、何から入手していますか。また、今後も含めて、何から入手したいですか。あてはまるものを全てを選んでください。

- 1 自動配信メール:特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール:一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことができる。



3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

1. 気象に関する警報の入手手段 (Q7:現在入手している その他)

あなたは、大雨警報などの気象に関する警報(特別警報を含む)を、何から入手していますか。また、今後も含めて、何から入手したいですか。あてはまるものを全てを選んでください。

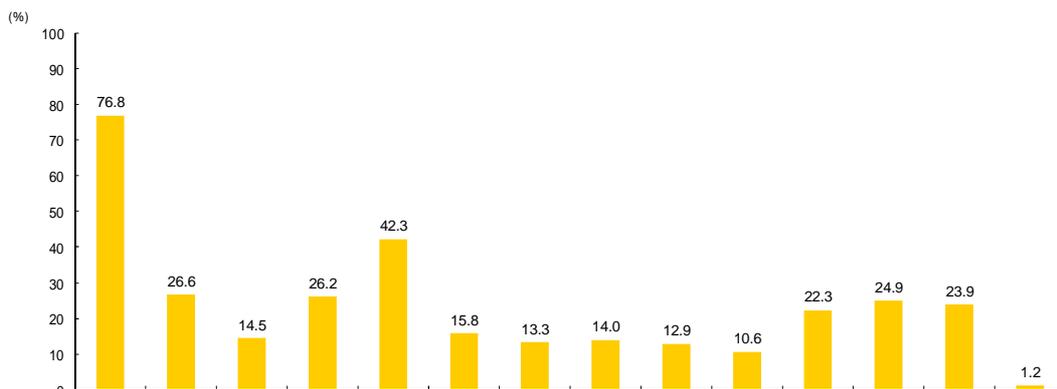
「その他」
気象庁のホームページ
友人、知人からの自宅近辺の情報
パソコン オンラインニュース
スマートフォンのアプリ
アプリ
人づて
家族や友人
消防団
大雨
同僚同士の緊急網連絡書

3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

1. 気象に関する警報の入手手段 (Q7: 今後(も)入手したい) n=2800

あなたは、大雨警報などの気象に関する警報(特別警報を含む)を、何から入手していますか。また、今後も含めて、何から入手したいですか。あてはまるものを全てを選んでください。

- 1 自動配信メール: 特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール: 一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことができる。



		【テレビ】一般放送	【テレビ】データ放送	【テレビ】ワンセグ	ラジオ	【携帯・スマートフォン】エリアメール等の自動配信メール	【登録制のメール】	【携帯・スマートフォン】ツイッタ、LINE、Facebook、mixiなどのSNS	【携帯・スマートフォン】ホームページ	【パソコン】登録制のメール	【パソコン】ツイッタ、LINE、Facebook、mixiなどのSNS	【パソコン】ホームページ	市町村の防災行政無線	市町村の広報車	その他	
		<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 全体 + 10ポイント以上 全体 - 10ポイント以下 </div>														
		(n)														
全体		2800	76.8	26.6	14.5	26.2	42.3	15.8	13.3	14.0	12.9	10.6	22.3	24.9	23.9	1.2
性別	男性	1350	73.6	26.5	15.5	28.9	41.7	17.0	13.6	15.8	14.6	11.7	24.2	24.0	22.1	1.3
	女性	1450	79.9	26.7	13.5	23.7	42.8	14.6	13.0	12.4	11.3	9.7	20.6	25.8	25.6	1.1
年代	20歳代	372	75.5	26.6	13.2	15.1	43.5	12.6	22.8	18.0	8.9	13.4	21.0	16.9	14.8	0.5
	30歳代	485	76.9	26.6	12.0	18.8	42.1	13.2	14.2	16.5	7.0	9.5	19.6	18.8	14.4	0.6
	40歳代	451	73.6	30.2	16.0	24.4	46.8	17.3	13.1	14.0	11.3	10.0	28.2	23.3	18.8	2.7
	50歳代	440	76.4	26.6	14.3	28.2	48.9	19.3	11.4	12.7	13.4	10.0	22.5	27.5	25.5	1.6
	60歳以上	1052	78.8	25.1	15.5	33.5	37.3	16.0	10.4	12.1	17.5	10.7	21.5	30.2	33.0	0.9
地方予報区	北海道地方	123	77.2	22.8	18.7	26.0	34.1	13.8	8.9	9.8	10.6	8.1	21.1	13.8	17.9	0.8
	東北地方	204	78.9	24.0	16.2	34.8	41.2	14.2	13.2	13.2	13.7	10.8	16.7	22.1	23.5	1.0
	関東甲信地方	1009	79.3	25.3	11.7	24.2	43.6	15.7	14.1	13.6	12.0	9.9	21.6	26.4	23.3	0.9
	東海地方	327	68.5	27.5	11.9	31.2	47.1	20.5	13.1	14.7	15.3	11.6	22.6	27.8	26.0	2.1
	北陸地方	116	84.5	28.4	21.6	32.8	50.0	18.1	13.8	14.7	12.9	9.5	21.6	32.8	23.3	0.0
	近畿地方	456	76.5	28.1	15.8	22.1	44.3	16.2	13.6	13.8	13.4	10.7	20.8	20.4	23.7	1.1
	中国地方	133	70.7	30.1	18.8	24.8	39.1	16.5	14.3	17.3	15.8	11.3	21.8	22.6	24.8	2.3
	四国地方	85	75.3	29.4	18.8	21.2	40.0	10.6	9.4	12.9	11.8	9.4	25.9	21.2	17.6	0.0
	九州北部地方	256	77.3	25.8	14.8	25.8	34.4	12.9	12.9	15.6	12.1	12.9	30.1	27.0	24.6	1.2
九州南部地方	62	72.6	35.5	19.4	30.6	25.8	12.9	12.9	16.1	11.3	12.9	29.0	32.3	35.5	4.8	
沖縄地方	29	79.3	31.0	13.8	31.0	48.3	13.8	10.3	17.2	13.8	13.8	24.1	37.9	37.9	0.0	

3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

1. 気象に関する警報の入手手段 (Q7: 今後(も)入手したい その他)

あなたは、大雨警報などの気象に関する警報(特別警報を含む)を、何から入手していますか。また、今後も含めて、何から入手したいですか。あてはまるものを全てを選んでください。

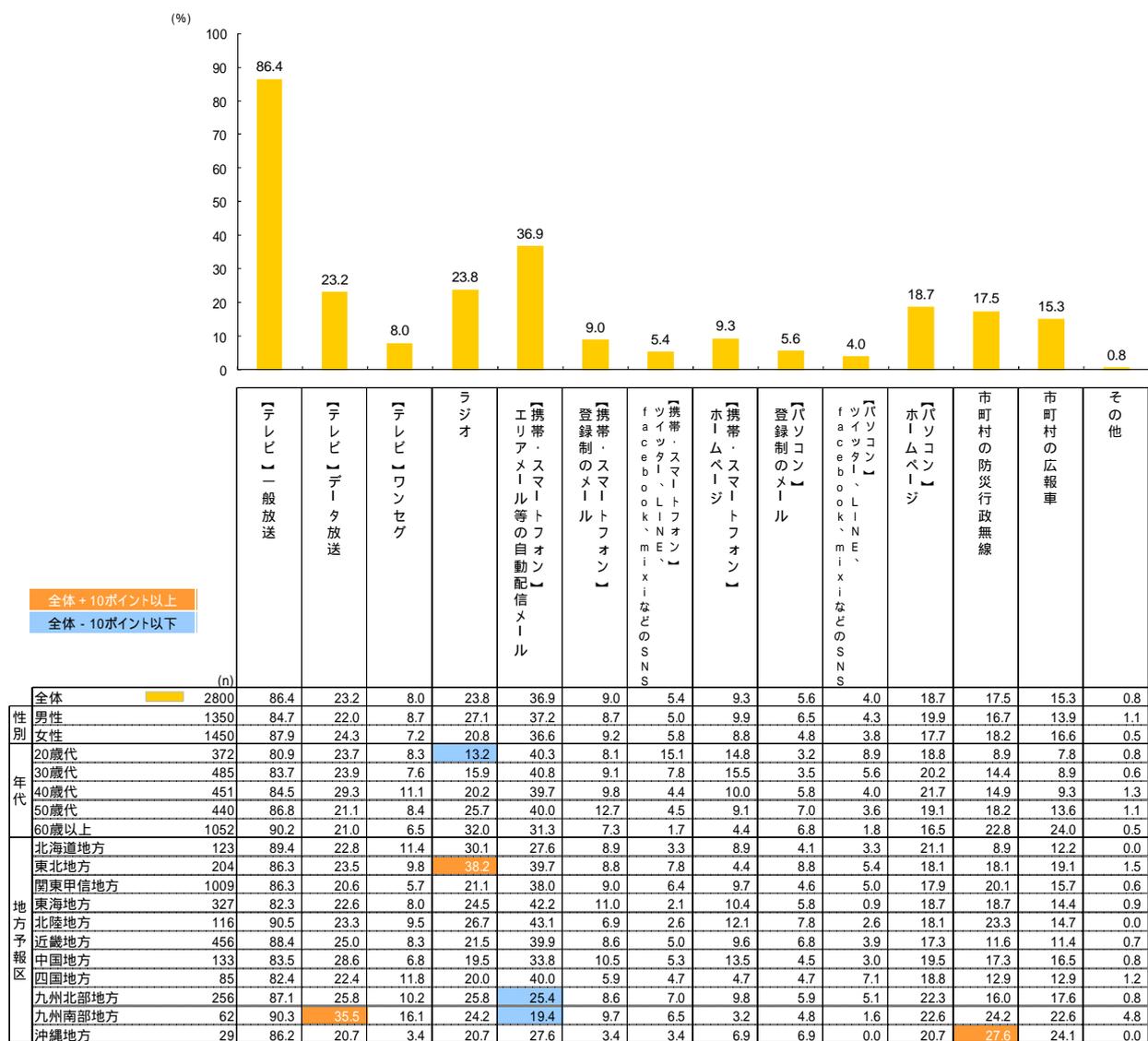
「その他」
気象庁のホームページ
パソコン オンラインニュース
地域の放送設備
スマートフォンのアプリ
地震
家族や友人
消防などの呼び掛け
回覧板
テレビ
地震
人伝
自治会

3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

2.地震・津波・火山に関する情報の入手手段（Q8:現在入手している） n=2800

あなたは、津波警報、噴火警報、緊急地震速報などの地震・津波・火山に関する情報を、何から入手していますか。また、今後何から入手したいですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 自動配信メール:特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール:一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことが出来る。



3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

2.地震・津波・火山に関する情報の入手手段 (Q8:現在入手している その他)

あなたは、津波警報、噴火警報、緊急地震速報などの地震・津波・火山に関する情報を、何から入手していますか。また、今後何から入手したいですか。あてはまるものを全て選んでください。

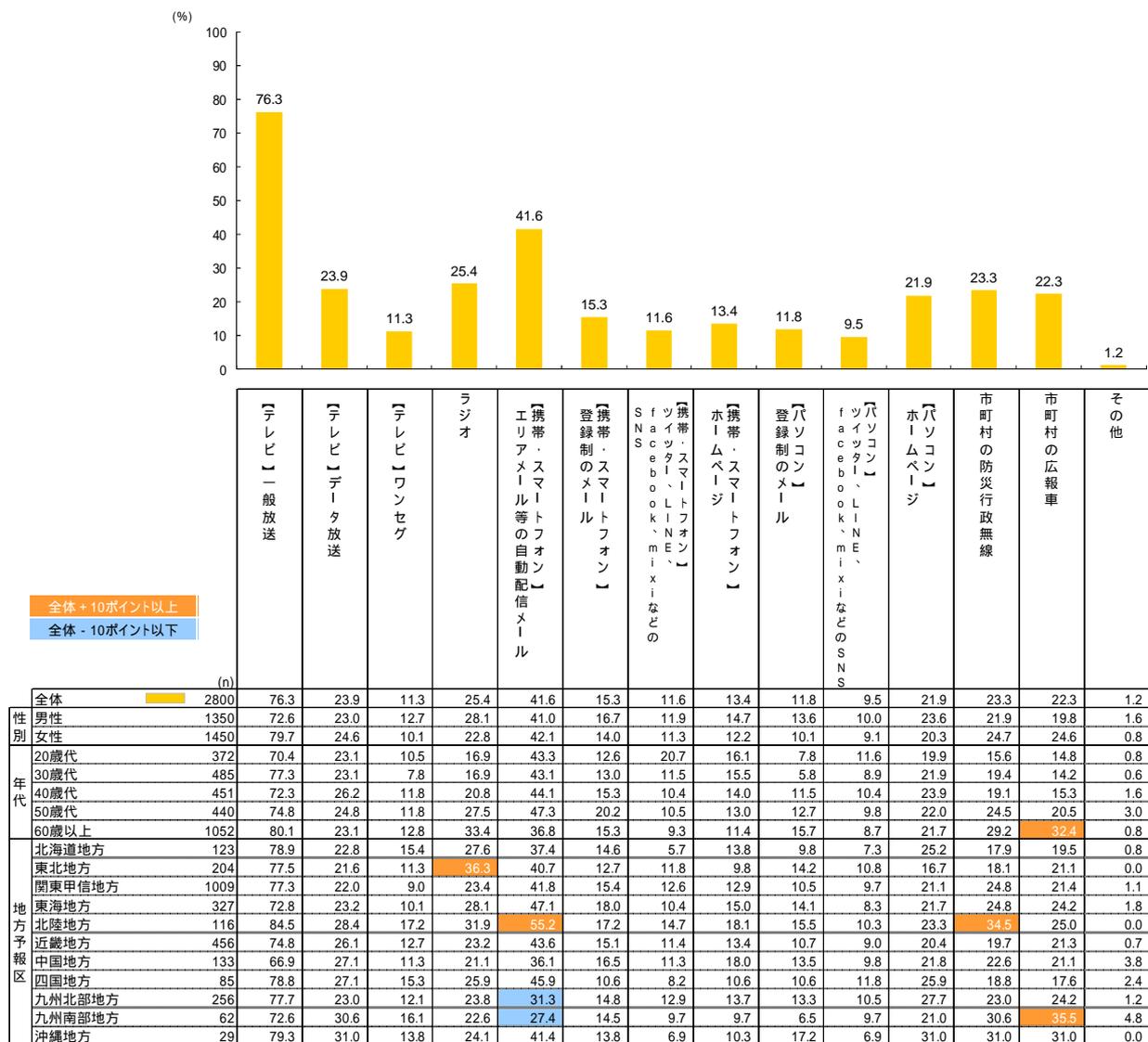
「その他」
アプリ
気象庁のホームページ
友人、知人からの自宅近辺の情報
アマチュア無線
スマートフォンのアプリ
人づて
家族や友人
消防団
消防などの呼び掛け
地震津波
会社
人伝

3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

2.地震・津波・火山に関する情報の入手手段 (Q8:今後(も)入手したい) n=2800

あなたは、津波警報、噴火警報、緊急地震速報などの地震・津波・火山に関する情報を、何から入手していますか。また、今後何から入手したいですか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 自動配信メール:特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。
- 2 登録制のメール:一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことが出来る。



3. 気象警報、地震・津波・火山情報の入手手段

2. 地震・津波・火山に関する情報の入手手段 (Q8: 今後(も)入手したい その他)

あなたは、津波警報、噴火警報、緊急地震速報などの地震・津波・火山に関する情報を、何から入手していますか。また、今後何から入手したいですか。あてはまるものを全て選んでください。

1 自動配信メール: 特定の範囲内にある携帯電話やスマートフォンに一齐にメール配信するサービス。受信する/しないは選択できるが、受信する情報の種類は選べない。

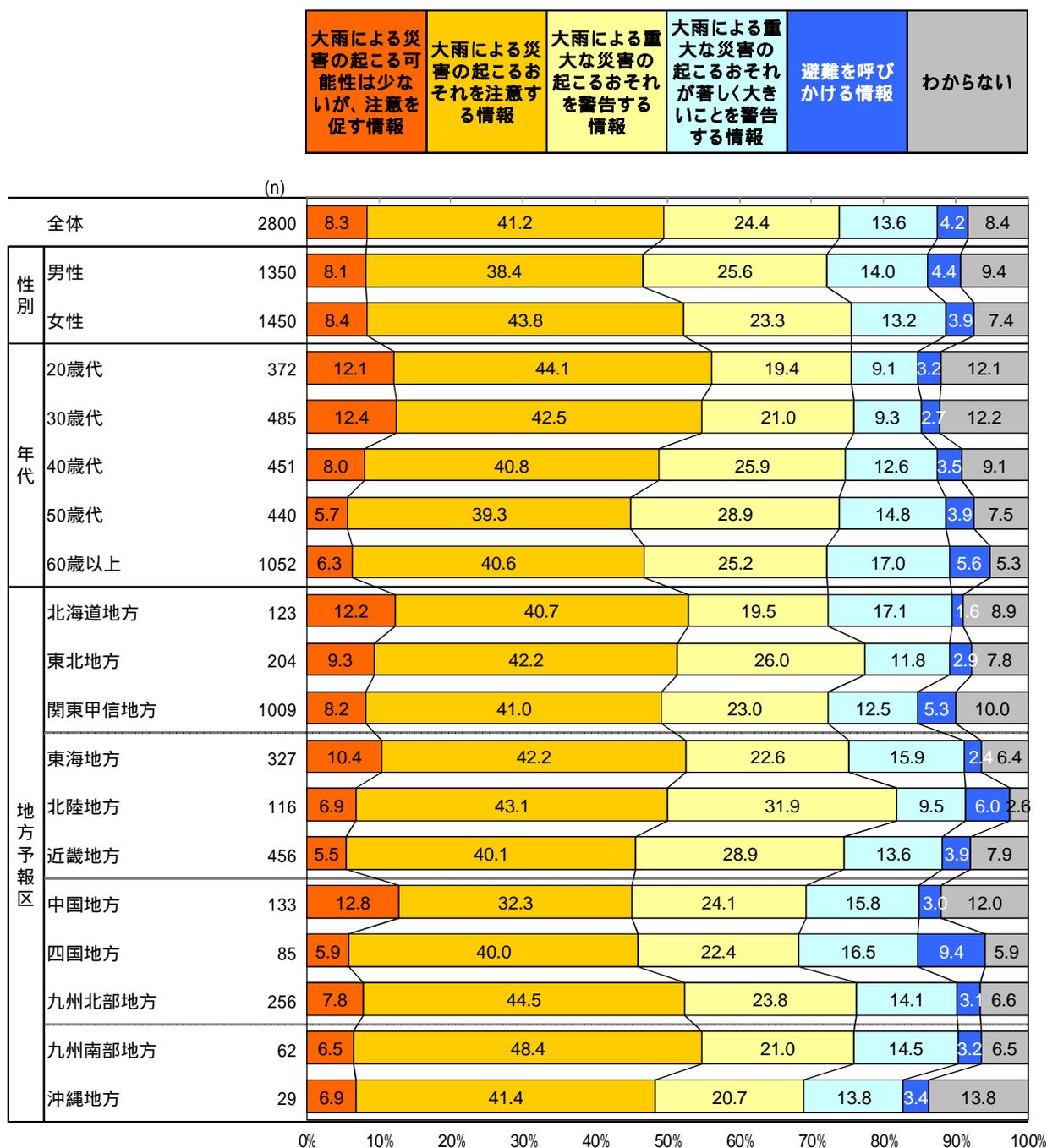
2 登録制のメール: 一部の行政機関や気象情報サイト等が実施している、予め登録した利用者に気象情報等をメールで配信するサービス。一般に、受信する情報の種類や対象となる地域を選ぶことが出来る。

「その他」
気象庁のホームページ
アマチュア無線
地域の放送
スマートフォンのアプリ
近所の方の呼びかけ
サイレン
地震
仕事仲間
地震
町内会
回覧板
自治会の放送
地震
テレビ
人伝

4. 大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

1. 大雨警報と災害の関連性に関する理解(Q9) n=2,800

大雨警報(特別警報ではない)についてお尋ねします。大雨警報は、災害と関連してどのようなことを呼びかける情報だと思いますか。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動(Q10:今後の気象情報に気をつける) n=2800

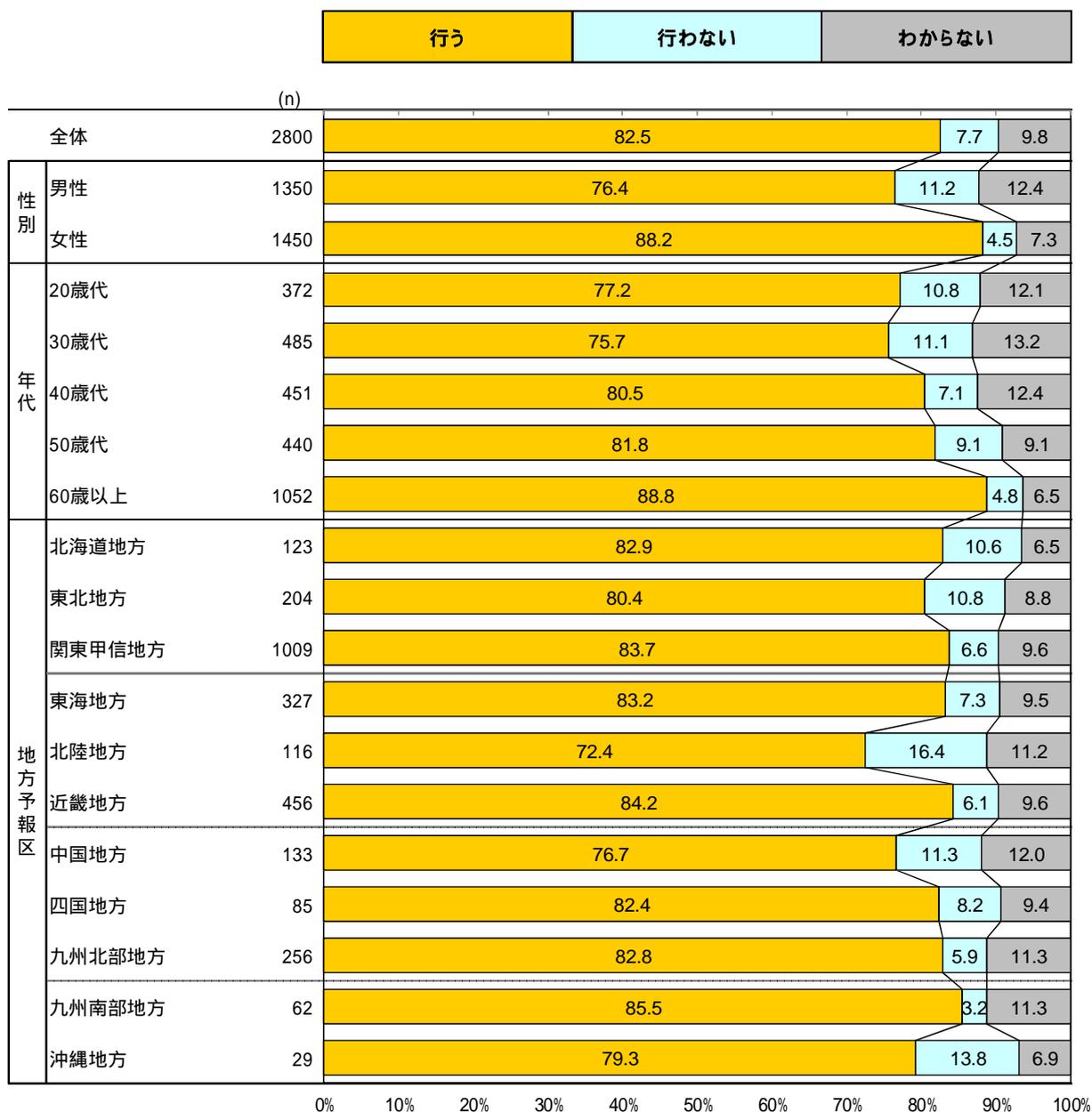
あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動(Q10:外出を控える) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動

(Q10: 災害のおそれのある危険な場所には近づかない) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

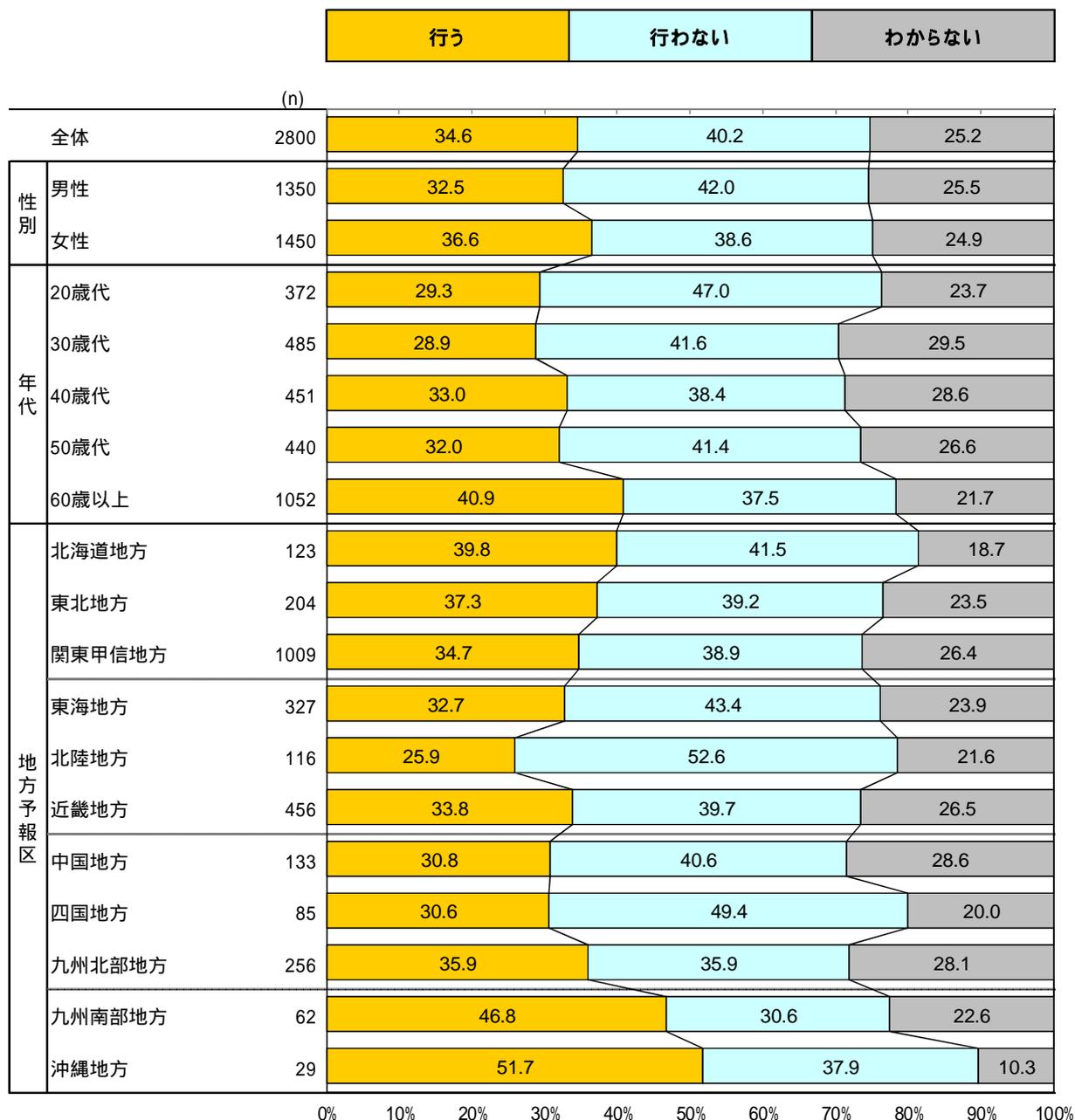


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動

(Q10: 持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする) n=2800

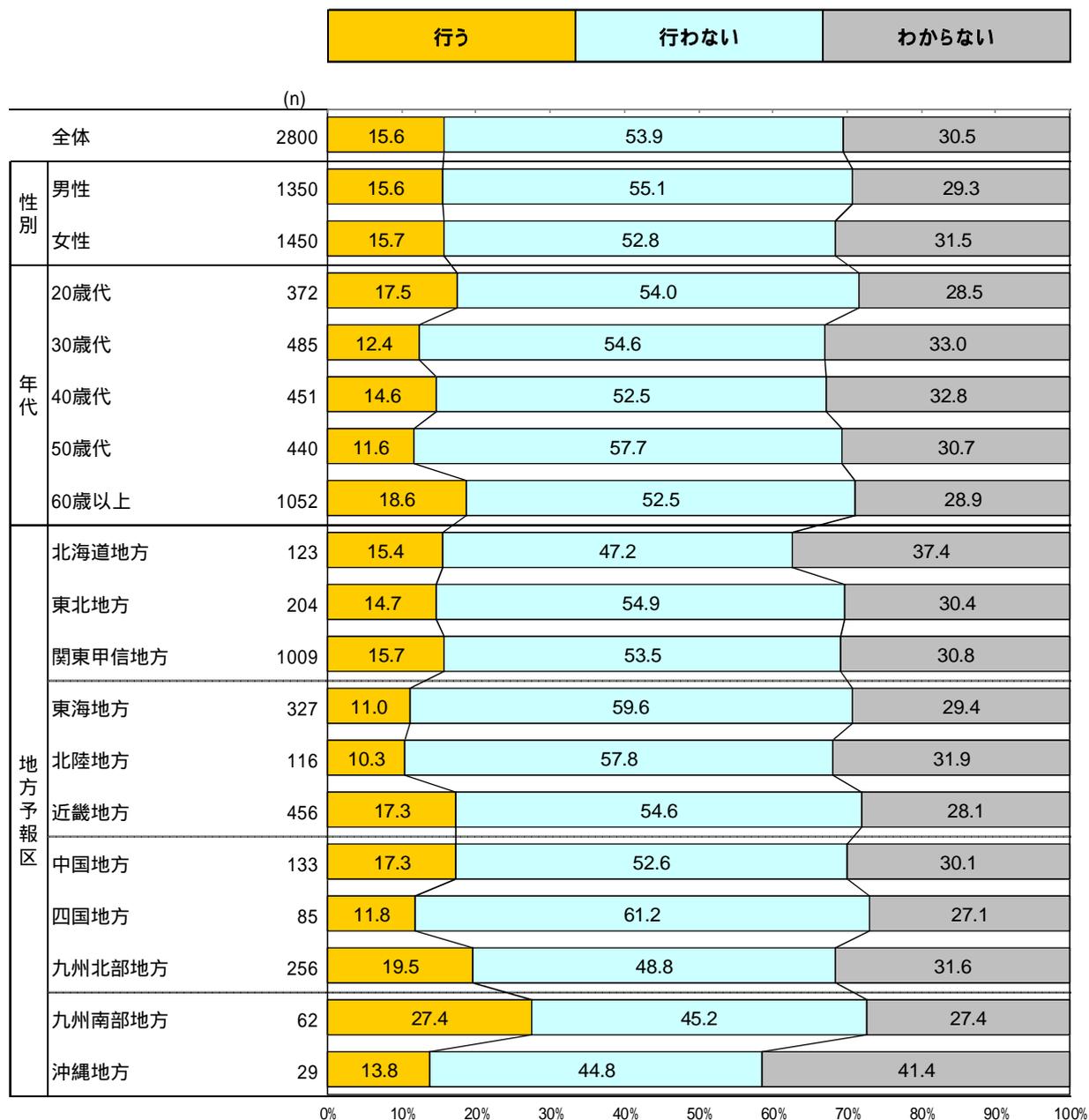
あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動(Q10:避難所へ避難をする) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

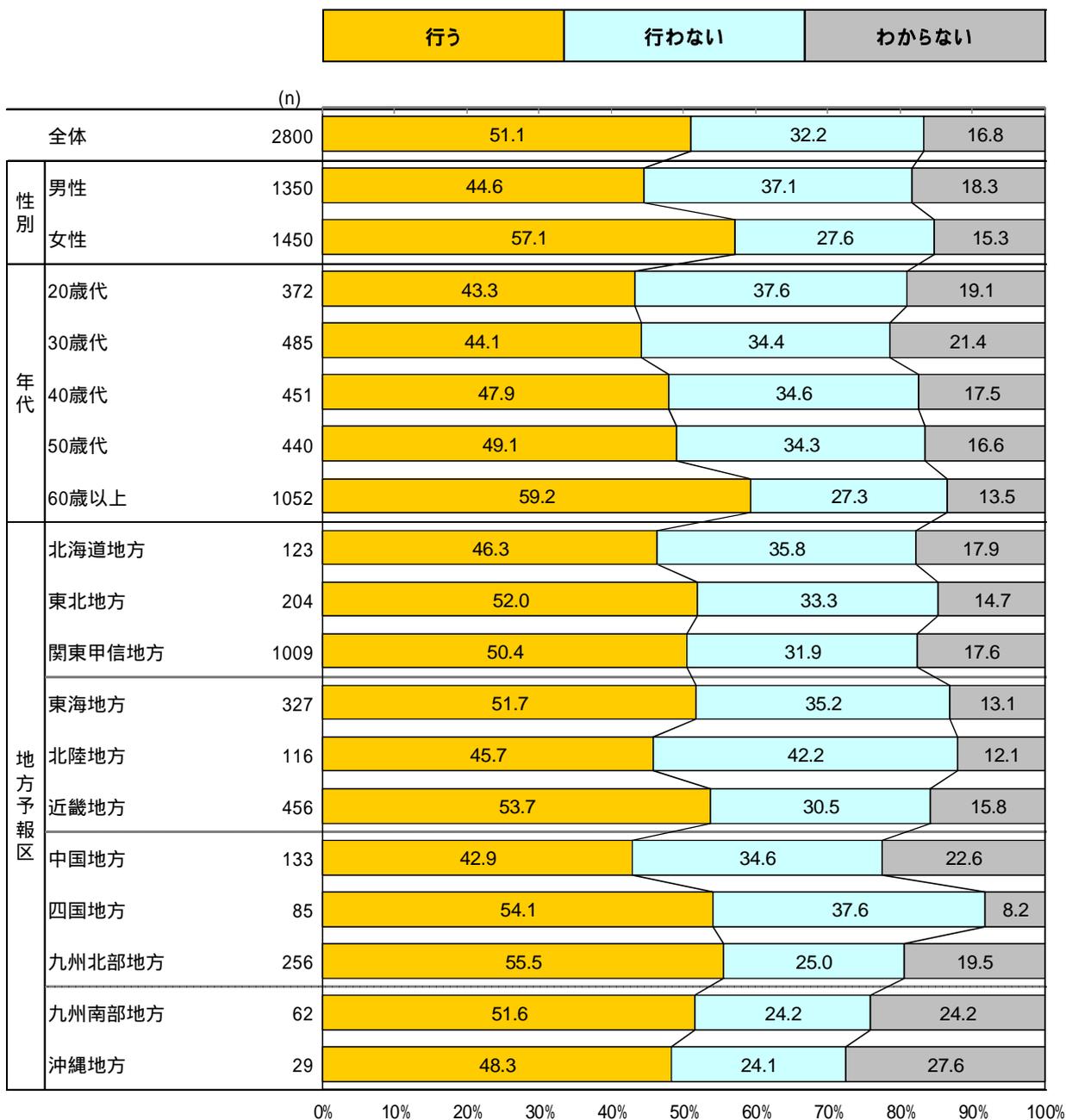


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動

(Q10:家の中でできるだけ安全な場所に待避する) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動

(Q10:市町村からの避難の情報に注意する) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

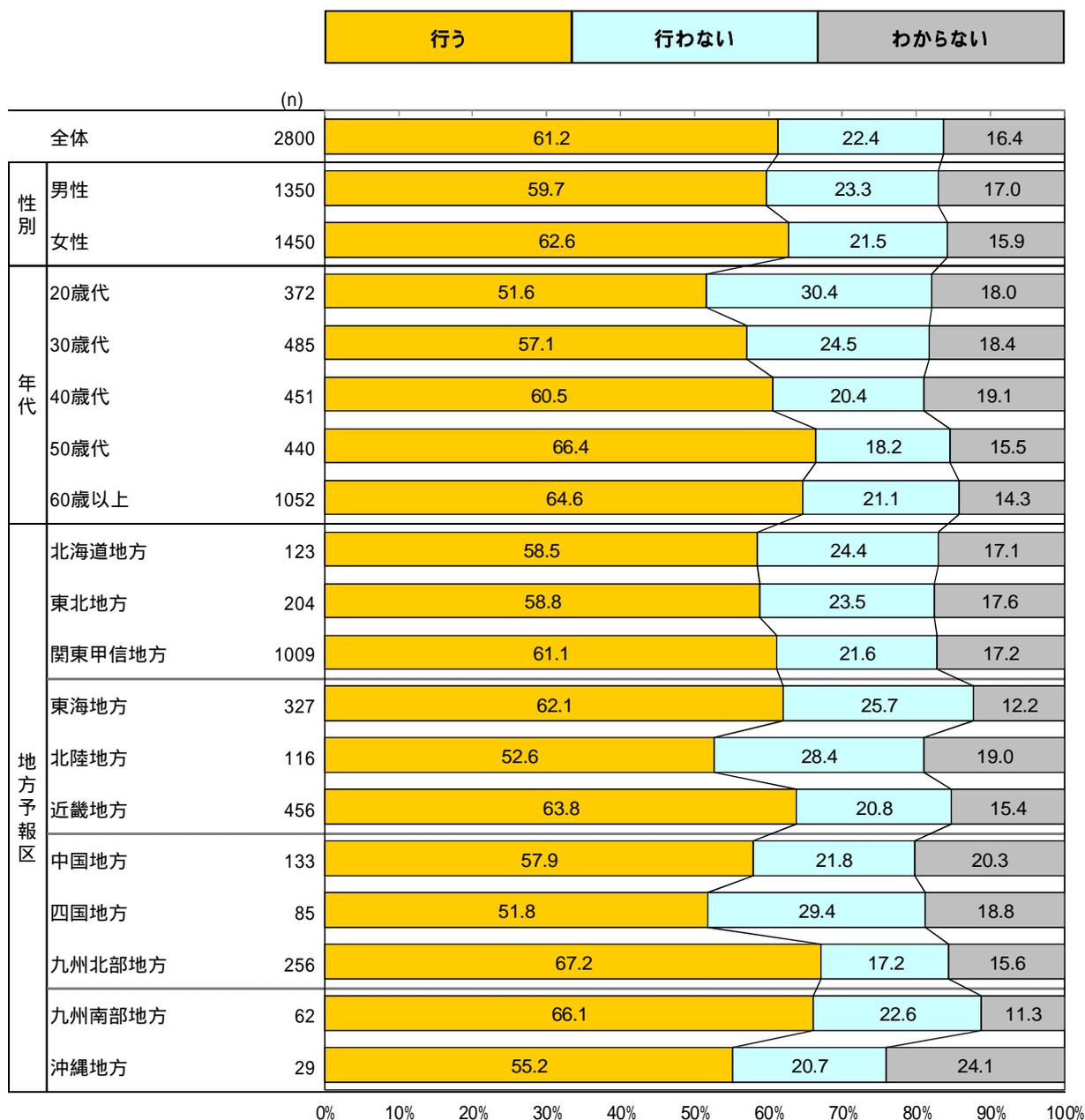


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動

(Q10: インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

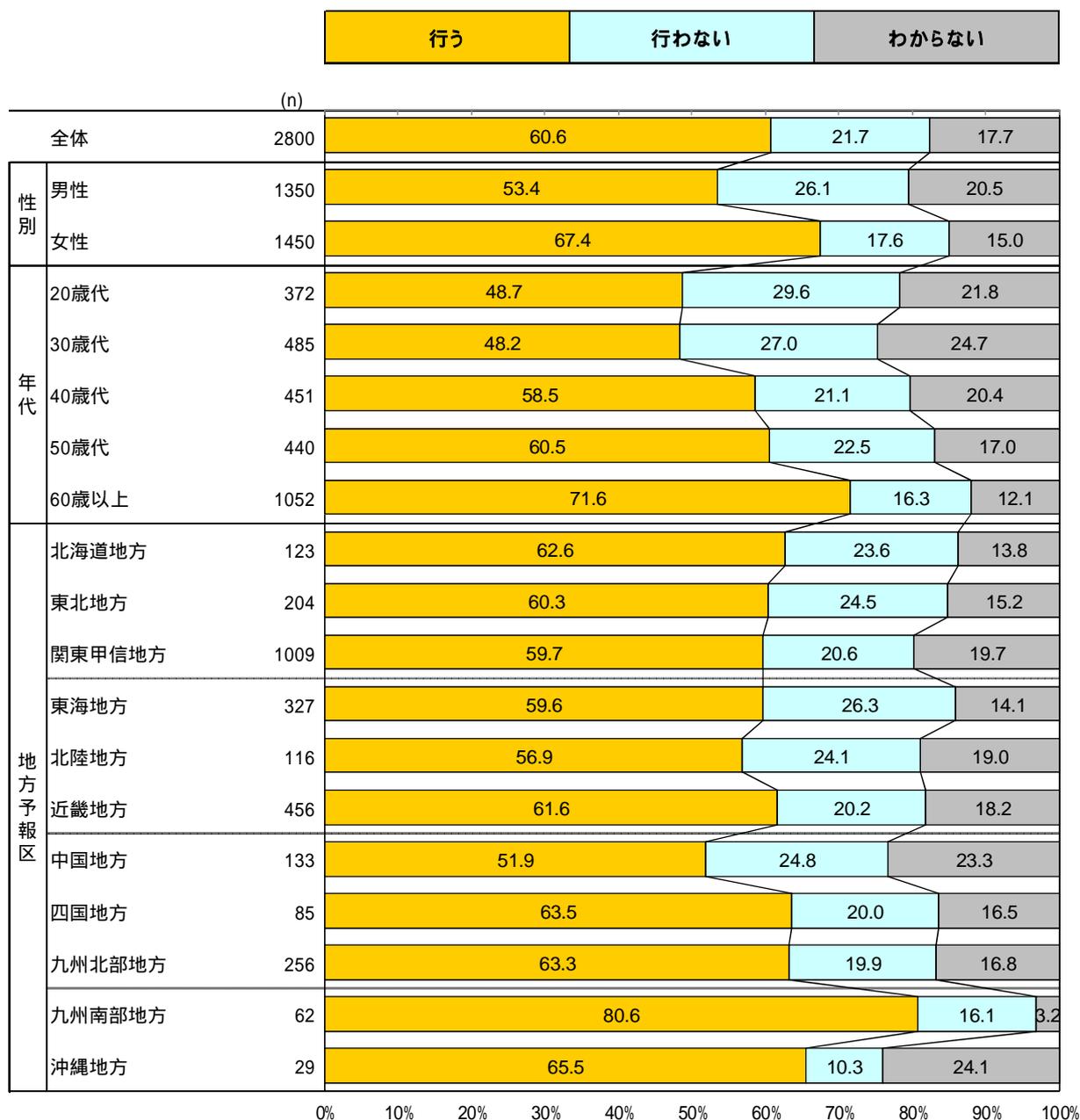


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動

(Q10: 発表されたことを家族や知人に伝える) n=2800

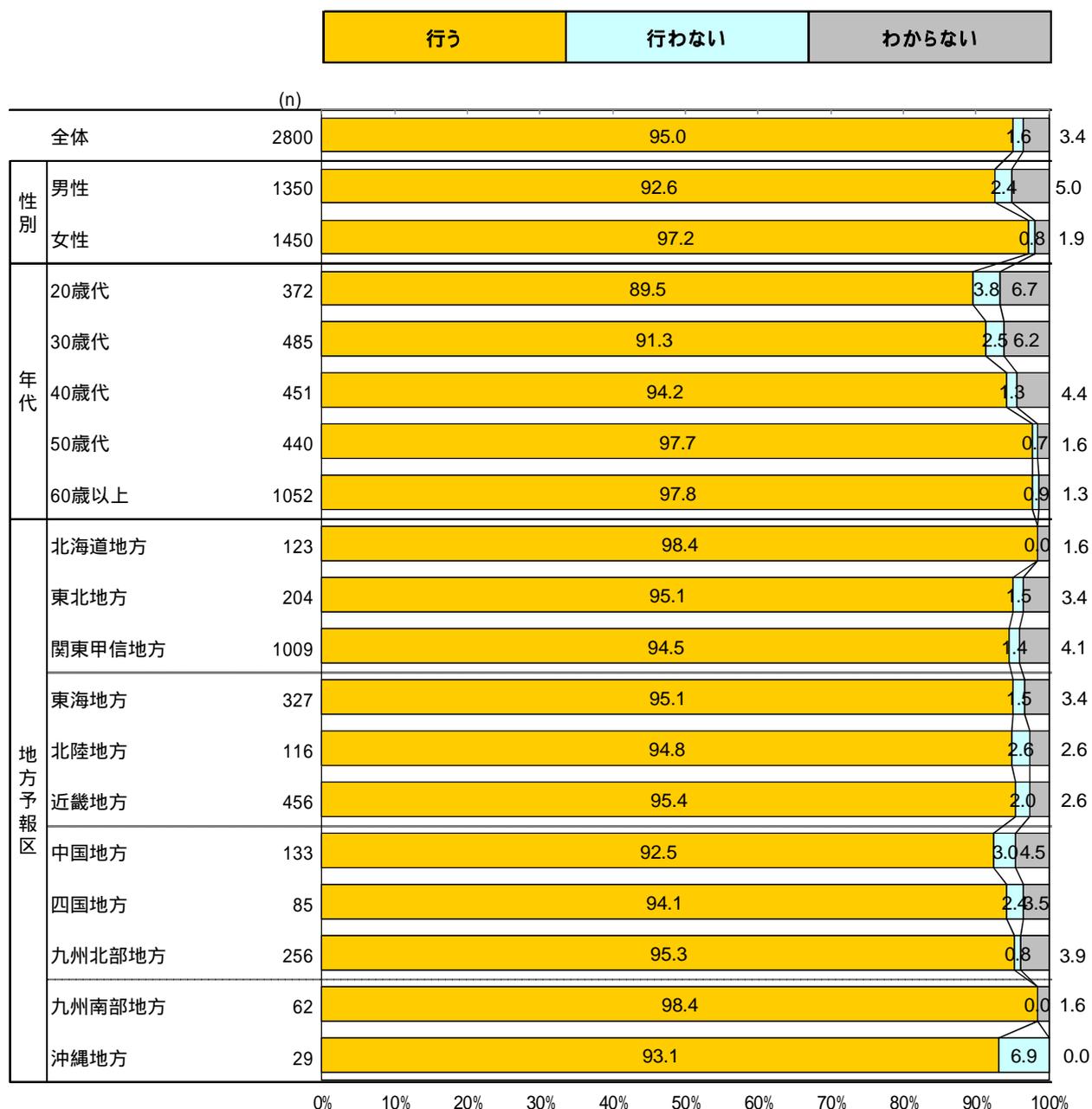
あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3. 大雨特別警報が発表された時にとる行動(Q11:今後の気象情報に気をつける) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動(Q11:外出を控える) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動

(Q11:災害のおそれのある危険な場所には近づかない) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

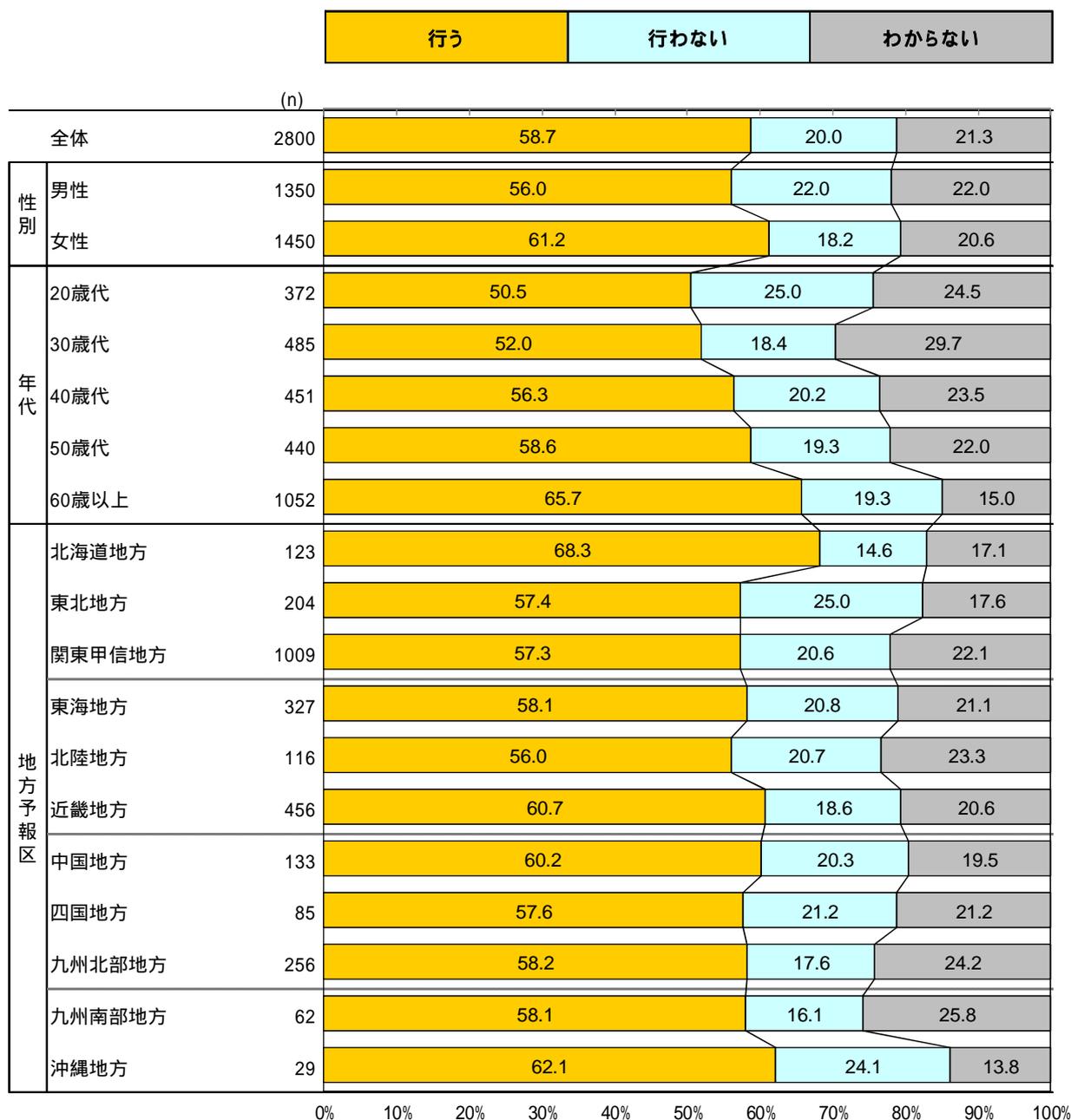


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動

(Q11:持出品の準備や確認をする等、避難の準備をする) n=2800

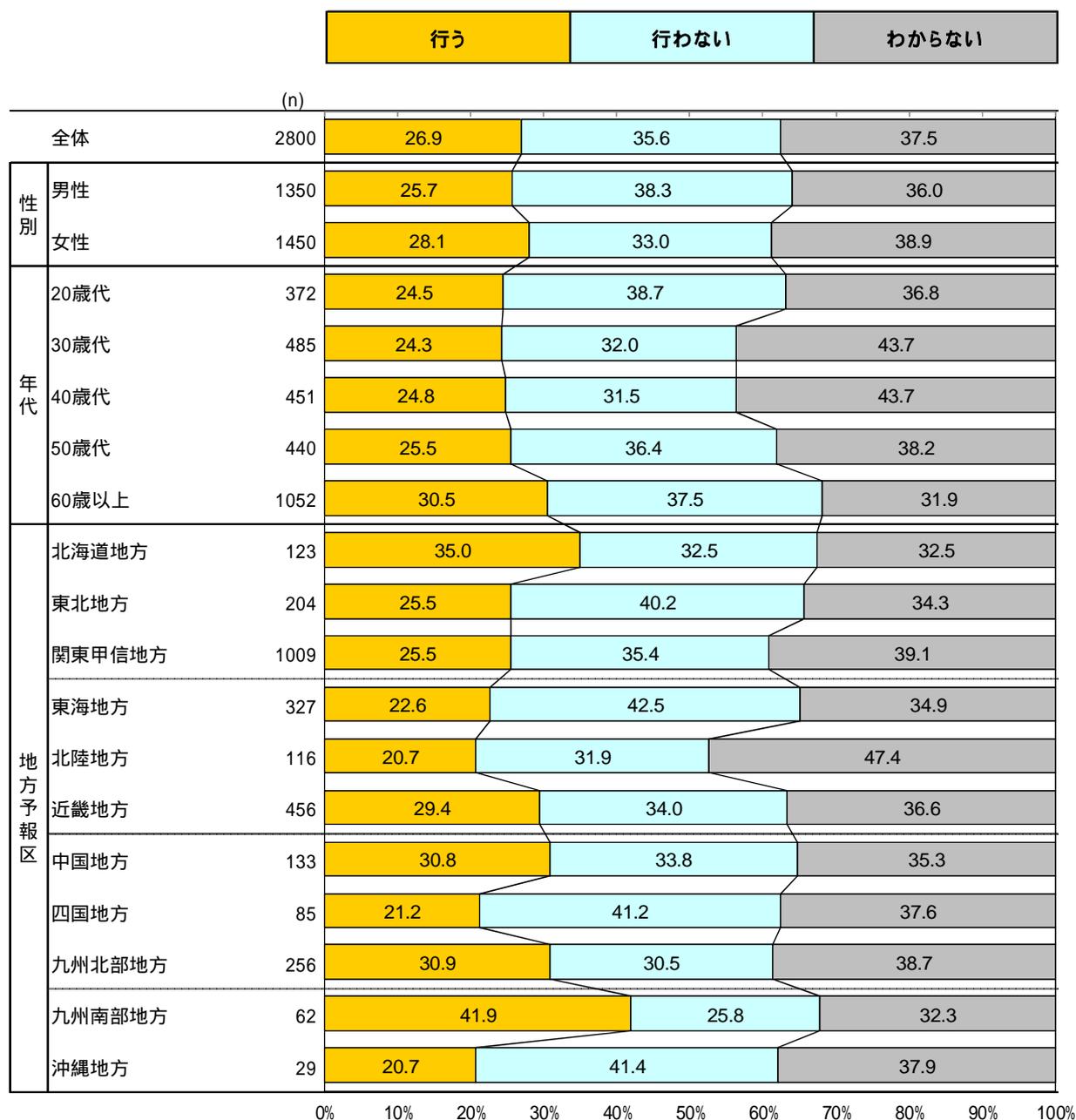
あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動(Q11:避難所へ避難をする) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

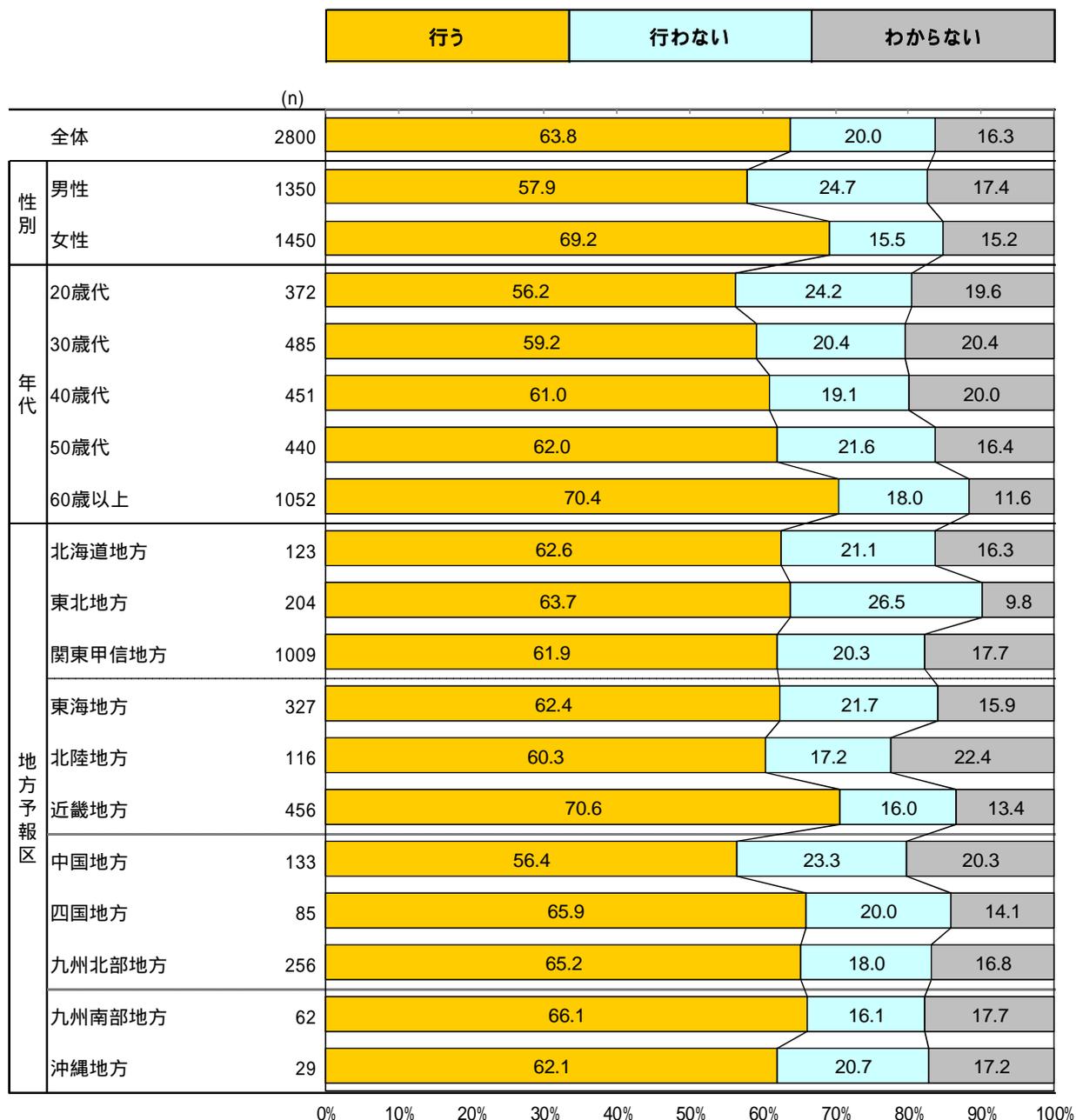


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動

(Q11:家の中でできるだけ安全な場所に待避する) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動

(Q11:市町村からの避難の情報に注意する) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

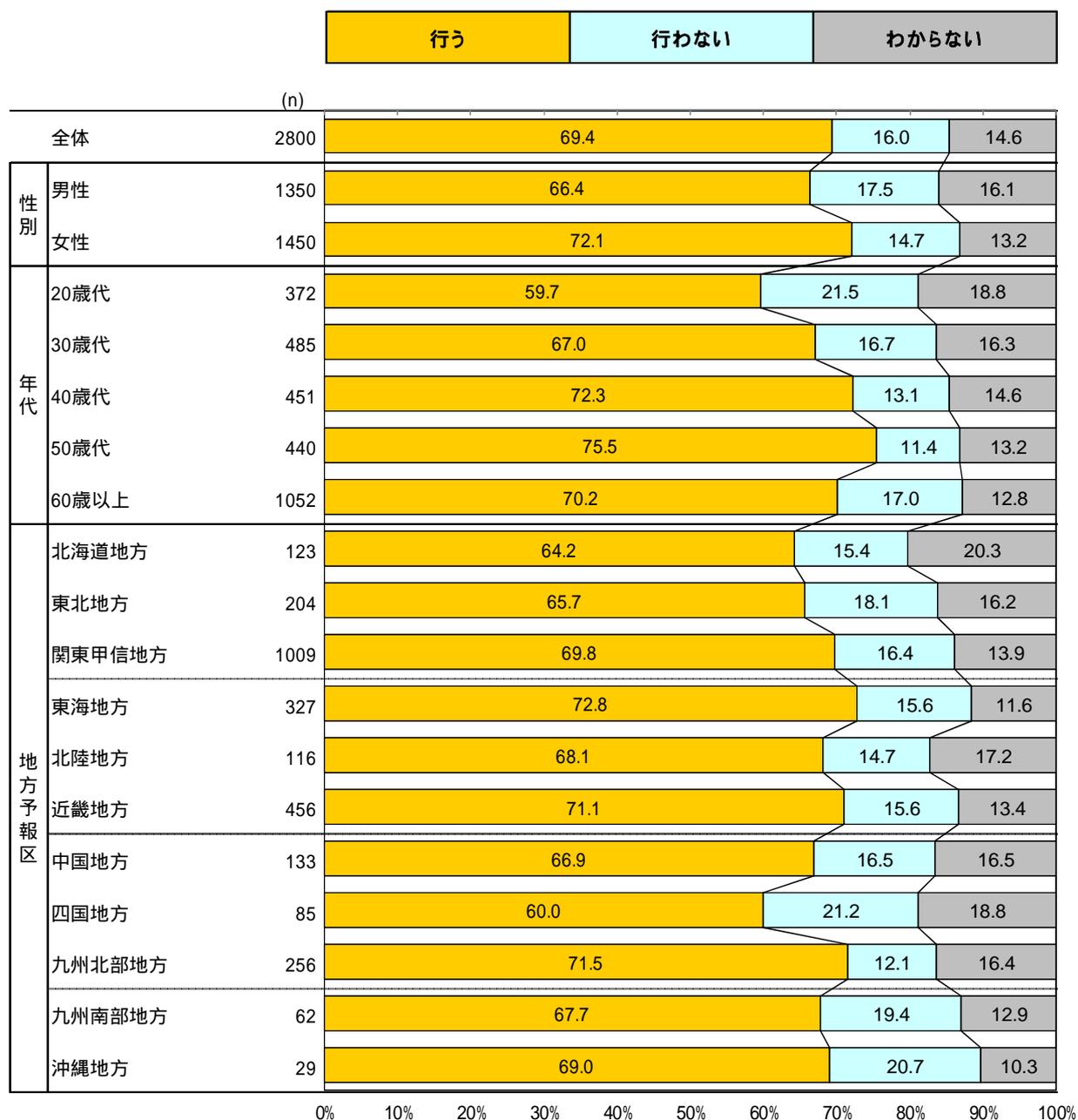


4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動

(Q11:インターネットなどで雨量や河川の水位を確認する) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3.大雨特別警報が発表された時にとる行動

(Q11:発表されたことを家族や知人に伝える) n=2800

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。



5.大雨特別警報に対する評価・意見

1.平成25年9月に発表した大雨特別警報発表に対する評価(Q12) n=2800

今年9月の台風第18号では、近畿・東海地方を中心に総雨量が400ミリを超え、全国で死者・行方不明者合わせて7名、住家全・半壊256棟、床上・床下浸水1万棟超の被害(平成25年10月7日消防庁資料より)が発生しました。京都府では特に浸水の被害が多く発生しました。

この時、気象庁は、50年に一度発生するかもしれない大雨が広がっていた福井県・滋賀県及び京都府に重大な災害の起きるおそれ著しく大きいとして、大雨特別警報を発表しました。特別警報を発表すべき出来事であったと思いますか。あなたの考えに最も近いものをひとつ選んでください。

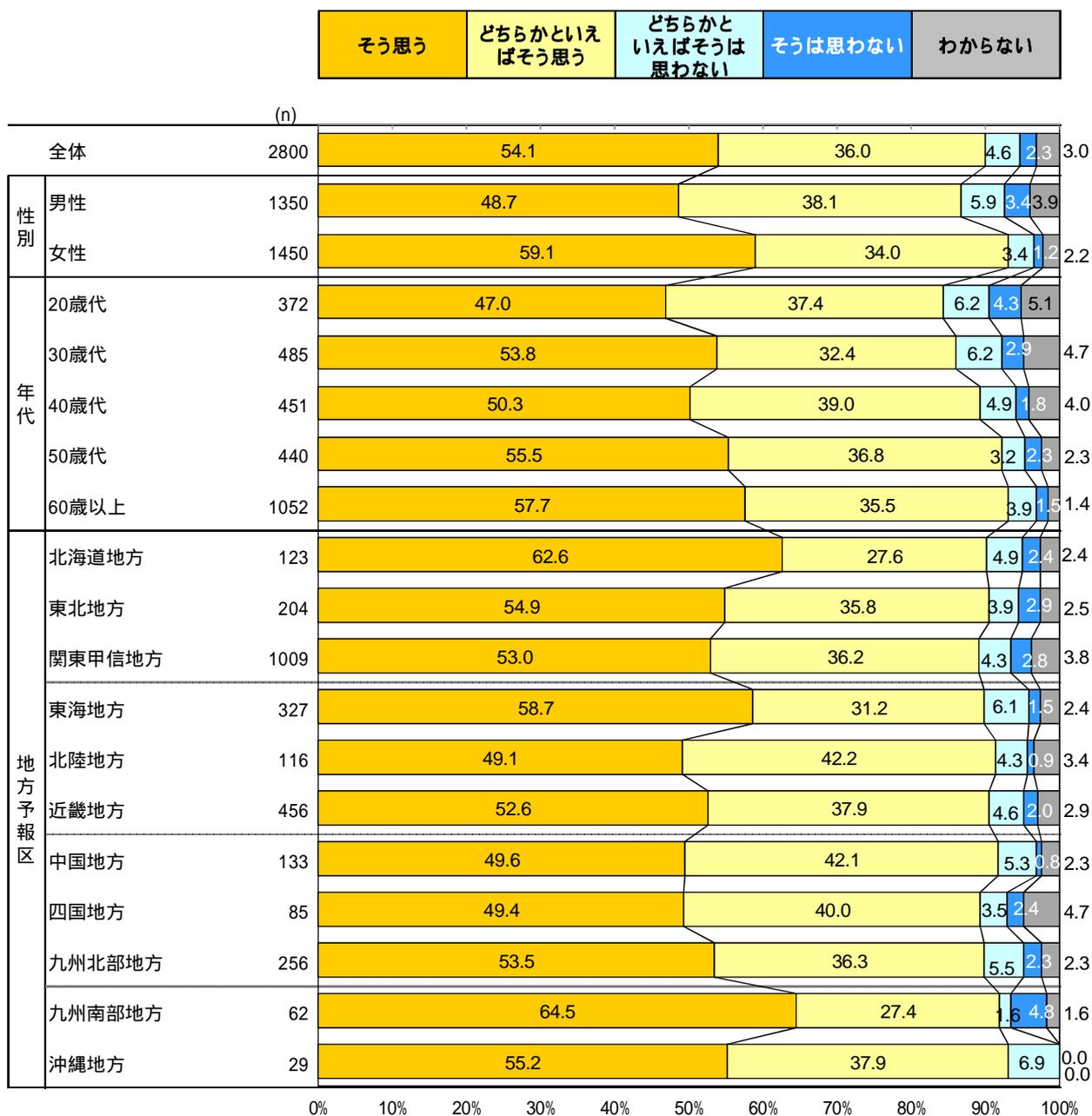
特別警報を発表したのは大きすぎたと思う(警報程度で十分だった)	このくらいの大雨で特別警報を発表するのが適切だと思う	もっと規模の小さな雨でも特別警報を発表すべきだと思う	わからない
---------------------------------	----------------------------	----------------------------	-------



5. 大雨特別警報に対する評価・意見

2. 特別警報発表時の呼びかけに対する印象(Q13:危機感が良く伝わってくる) n=2800

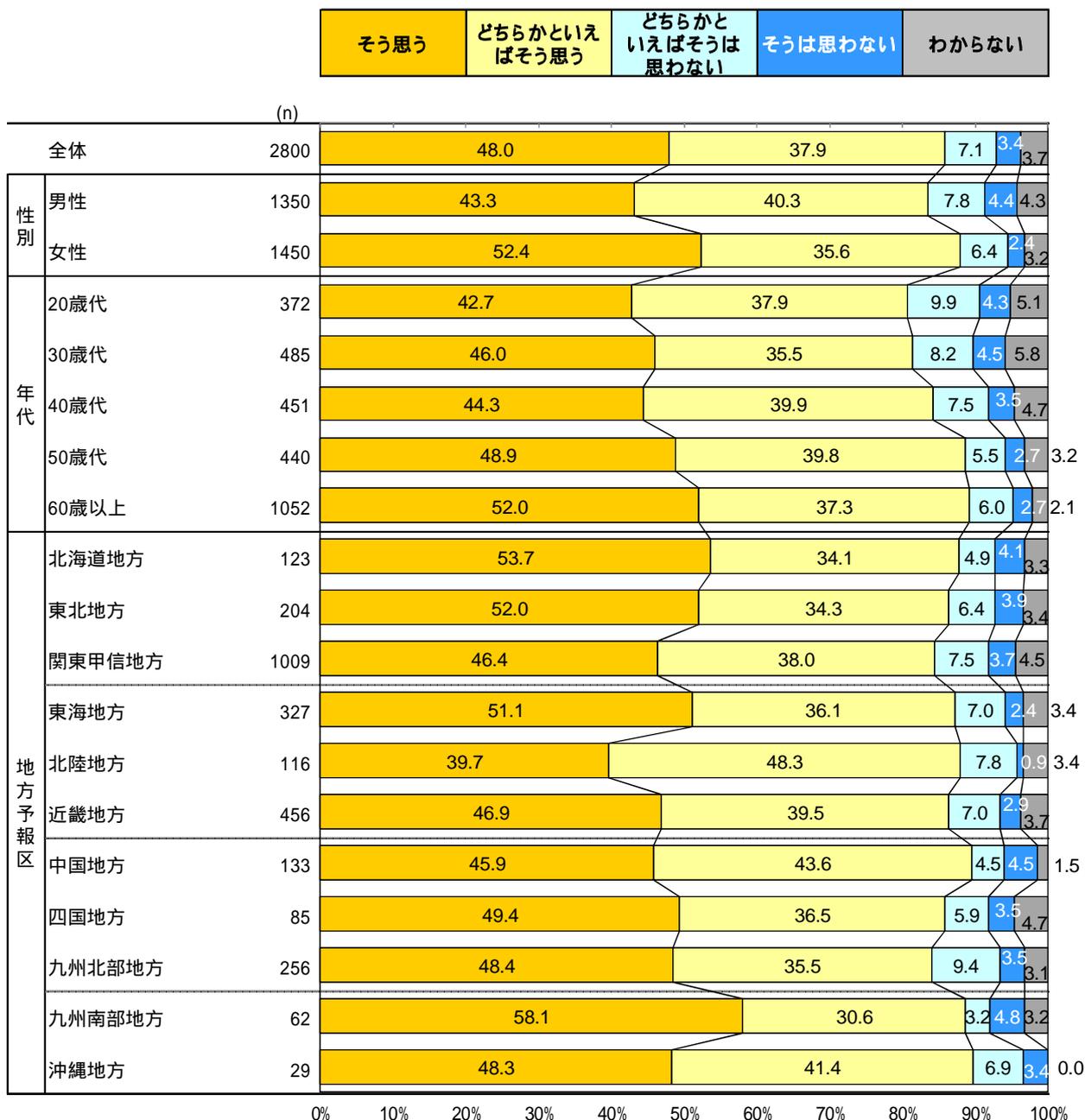
特別警報を発表した時に、気象庁は「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけました。この呼びかけについて、以下のような意見があります。あなたはそれぞれについて、どう思いますか。



5. 大雨特別警報に対する評価・意見

2. 特別警報発表時の呼びかけに対する印象 (Q13: 非常時向きで簡潔である) n=2800

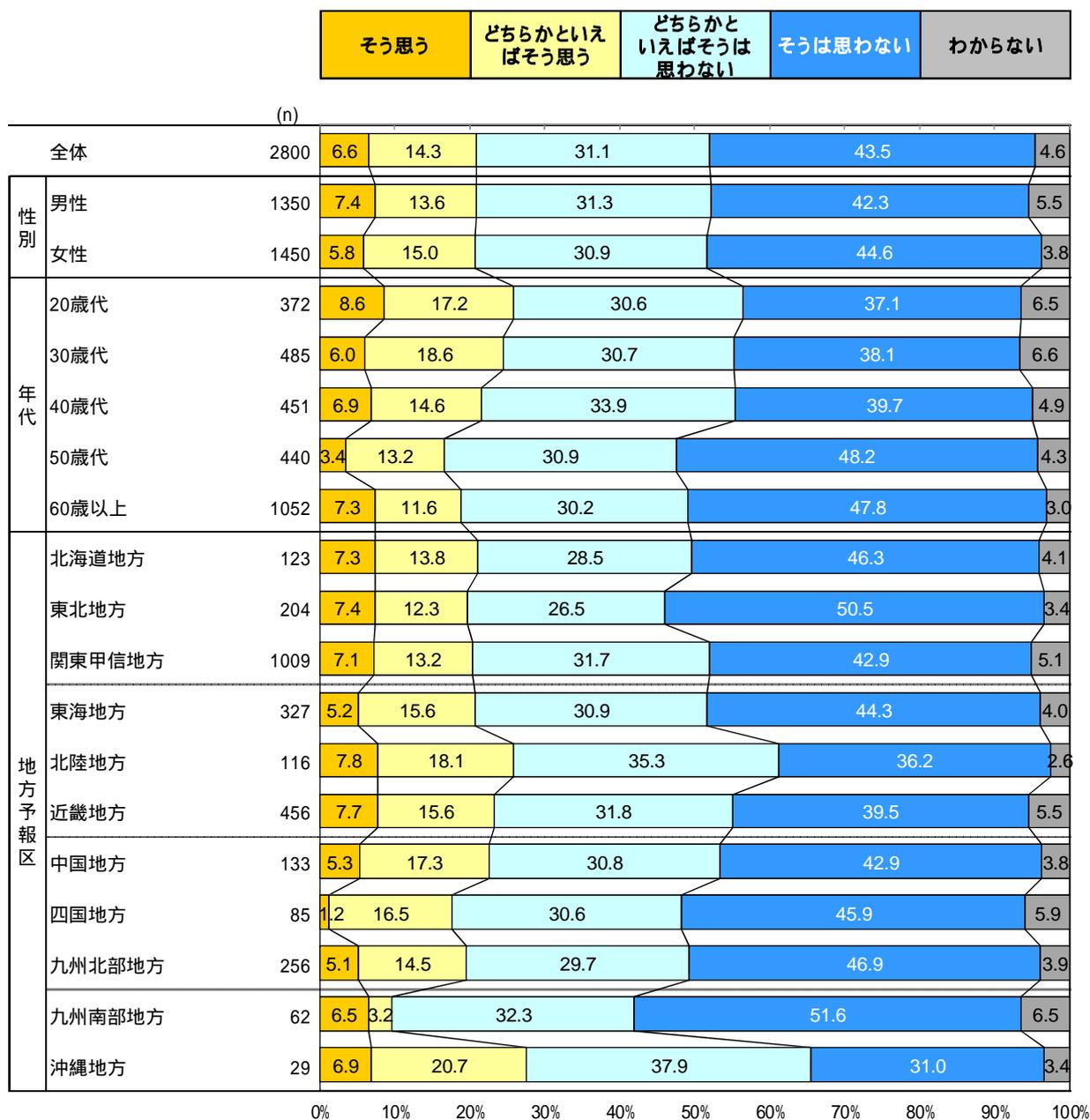
特別警報を発表した時に、気象庁は「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけました。この呼びかけについて、以下のような意見があります。あなたはそれぞれについて、どう思いますか。



5. 大雨特別警報に対する評価・意見

2. 特別警報発表時の呼びかけに対する印象(Q13:表現が大げさである) n=2800

特別警報を発表した時に、気象庁は「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけました。この呼びかけについて、以下のような意見があります。あなたはそれぞれについて、どう思いますか。

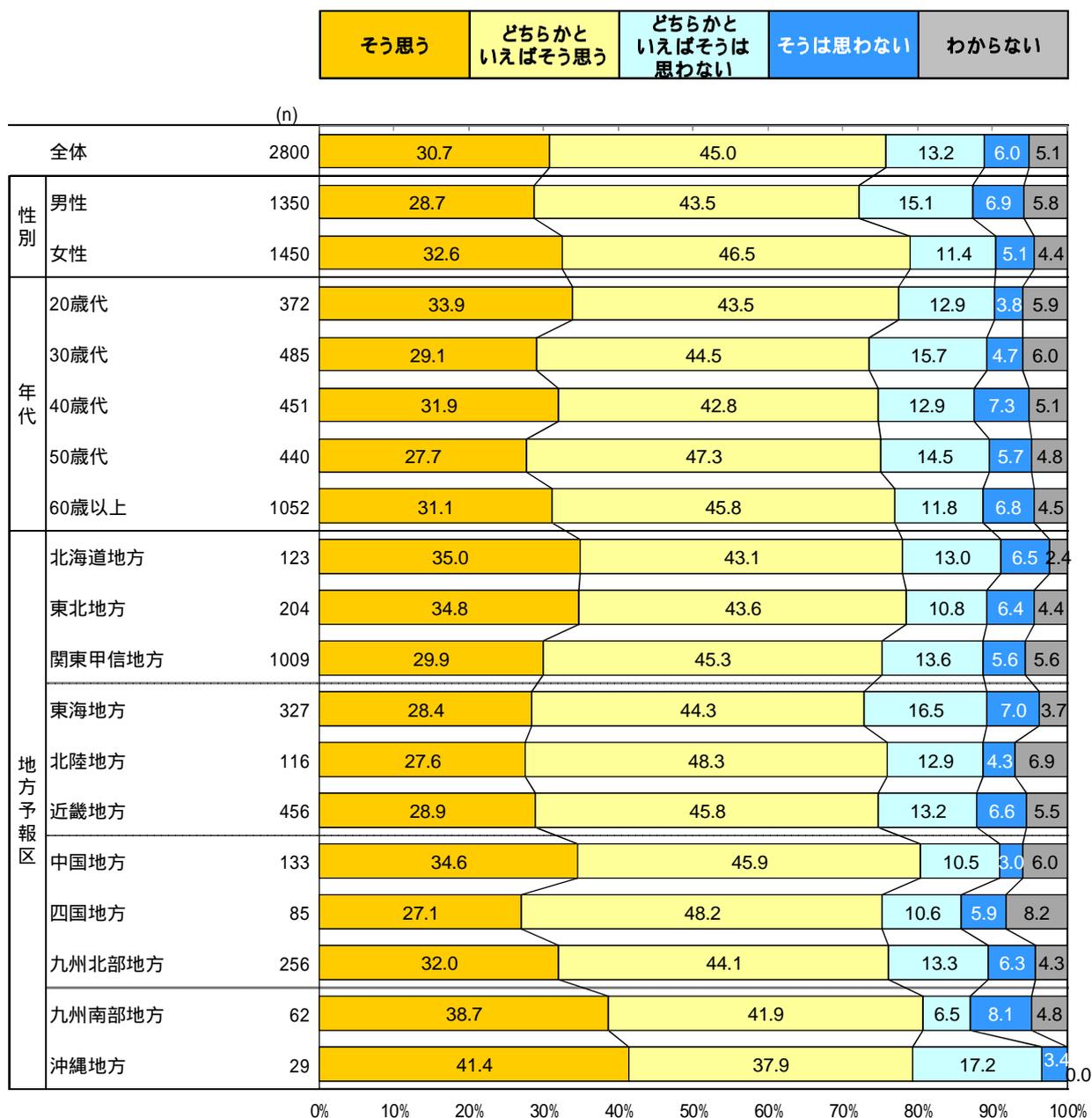


5. 大雨特別警報に対する評価・意見

2. 特別警報発表時の呼びかけに対する印象

(Q13: とるべき行動についてもっと具体的に呼びかけてほしい) n=2800

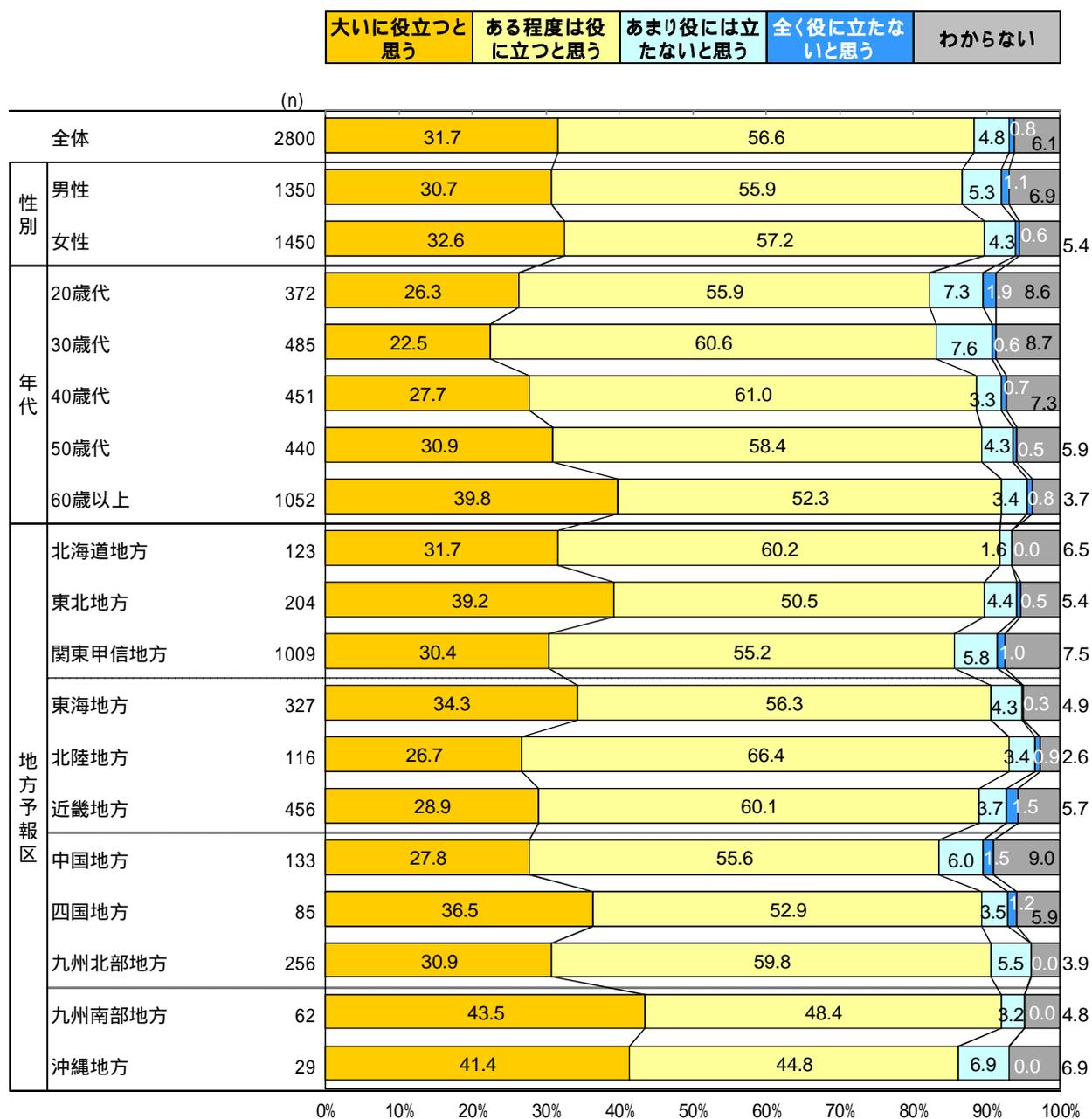
特別警報を発表した時に、気象庁は「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけました。この呼びかけについて、以下のような意見があります。あなたはそれぞれについて、どう思いますか。



5. 大雨特別警報に対する評価・意見

3. 特別警報の有用性に関する評価(Q14) n=2800

特別警報を発表した時には、既に災害が発生している地域もあったといわれています。特別警報は、警報 (= 重大な災害のおそれあり) 発表後、さらに事態が進展し、重大な災害のおそれが“著しく大きく”なった時に発表されるものだからです。このような特別警報ですが、被害を軽減するのに役に立つと思いますか。



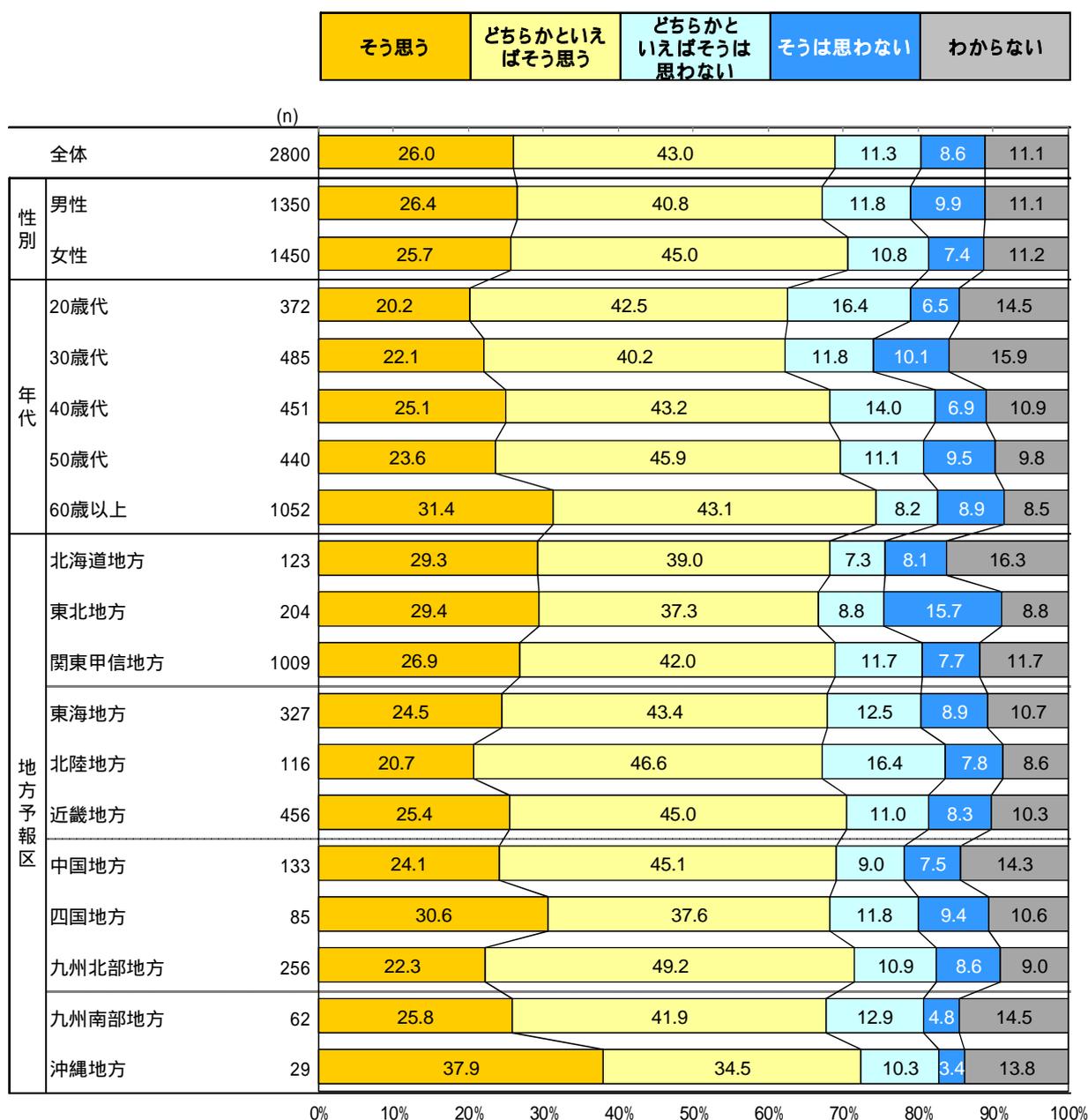
5. 大雨特別警報に対する評価・意見

4. 特別警報の発表地域細分化に対する意見 (Q15) n=2800

10月16日に、伊豆大島で豪雨があり、死者・行方不明者40人以上に上る災害が発生しました。この時に気象庁は大雨警報は発表しましたが、大雨特別警報を発表しませんでした。これは、この雨が狭い範囲で発生し、特別警報を発表する条件を満たさなかったためです。

この、伊豆大島での災害を契機として、狭い範囲で発生する雨の場合にも特別警報を出すべきだとの意見があります。その一方で、このように条件を緩和すると、特別警報が出ても結果的に大きな災害にならないという「空振り」が増え、特別警報の信頼性が落ちることを懸念する声もあります(現在は、特別警報が出ている場合、大きな災害にならないことはほぼありません)。

あなたは、既に警報が発表され厳重な警戒を呼びかけている中で、空振りが増えても、狭い範囲の雨の場合にも発表するように特別警報の条件を緩和すべきだと思いますか



6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16:大雨による土砂崩れ、洪水又は浸水に遭遇した経験がある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください



6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 竜巻を見た、暴風で歩けない、又は風で物が飛んできて危険な体験をしたことがある)
 自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないの
 いずれかをお答えください



6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 高潮又は高波の災害に遭ったことがある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください

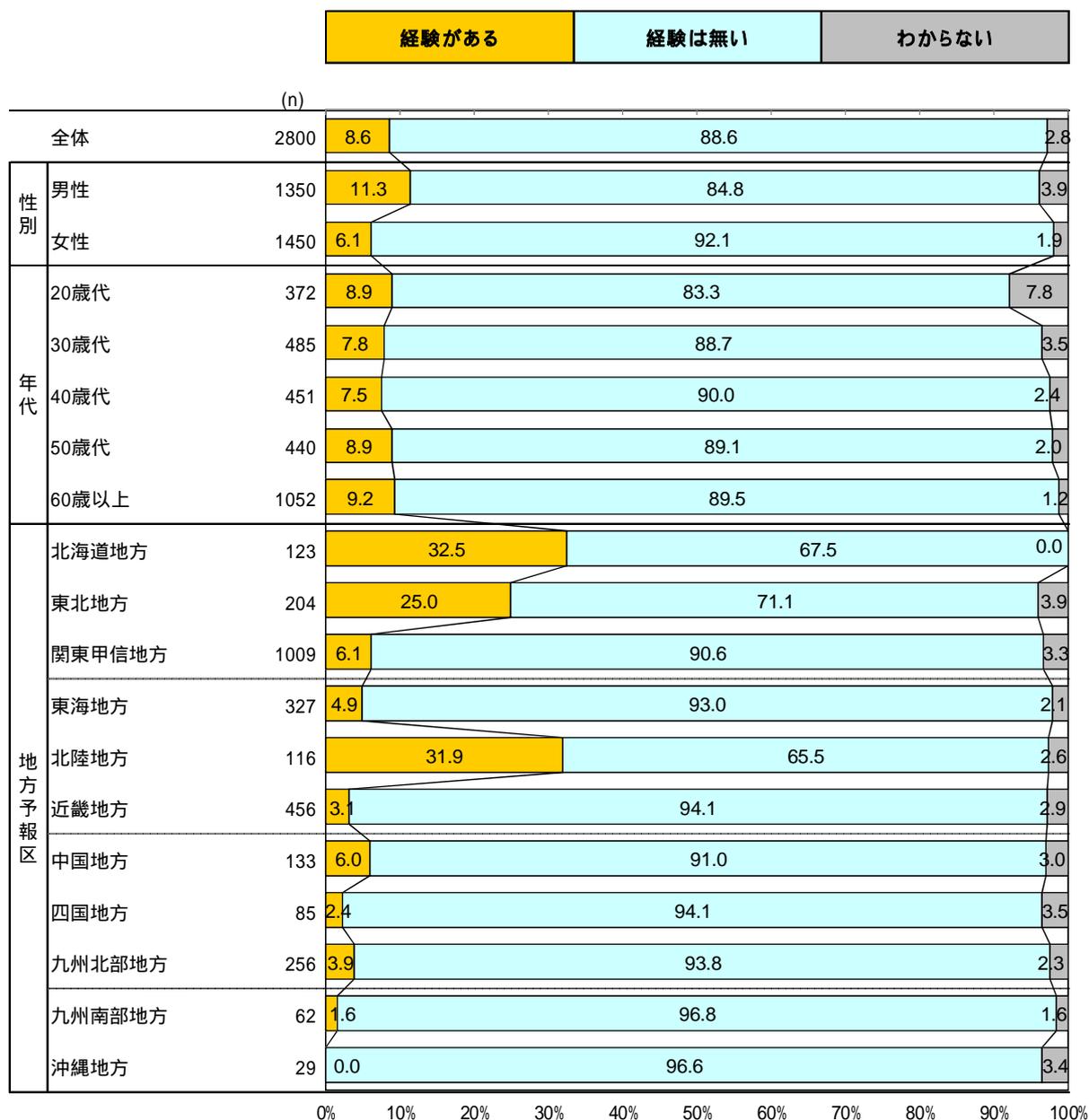


6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 大雪、吹雪又はなだれによる災害に遭ったことがある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください

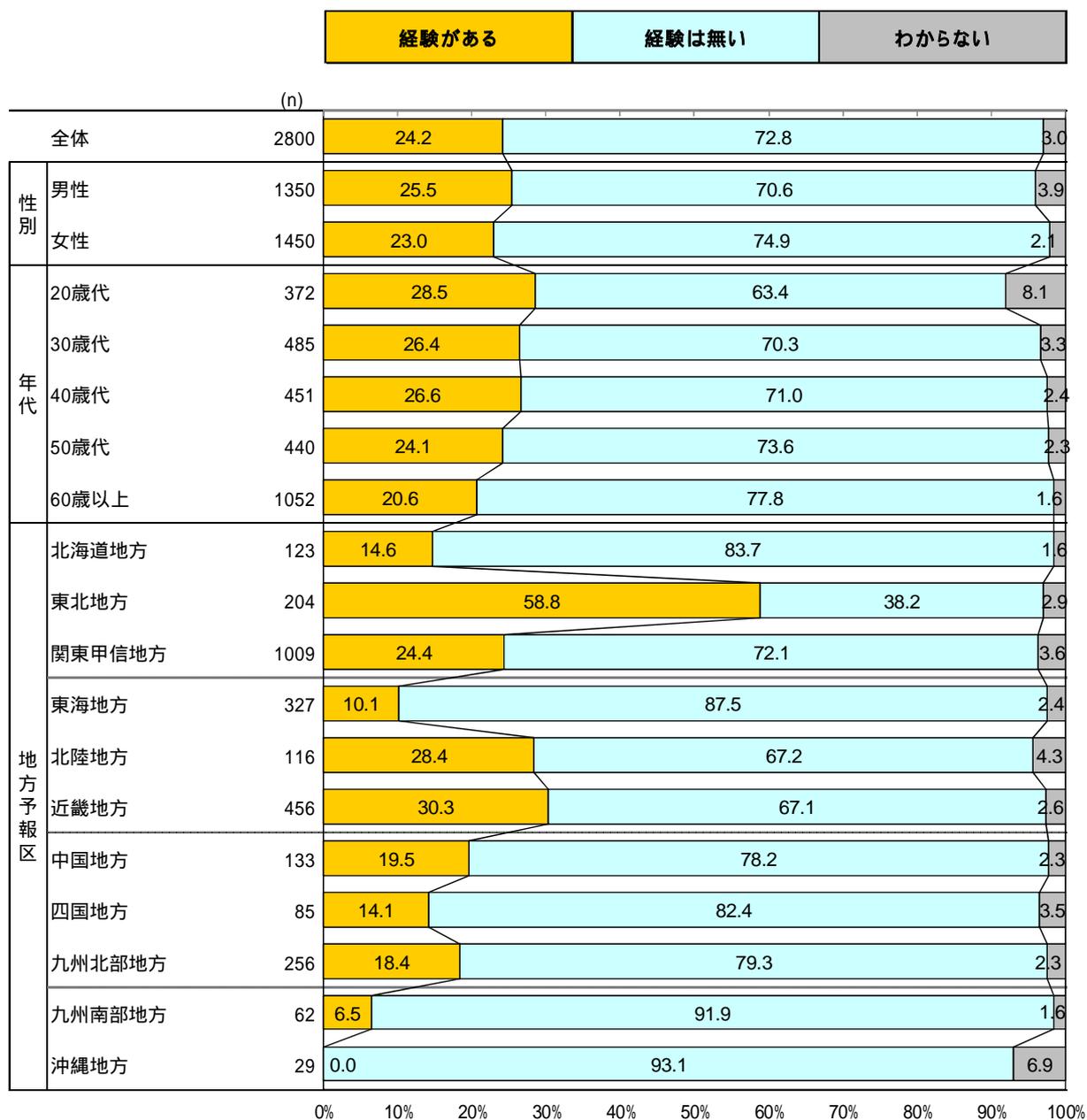


6. 自然災害に関する経験・意識

1 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 地震や津波の災害に遭ったことがある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください



6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 噴火や降灰等の火山の災害に遭ったことがある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください

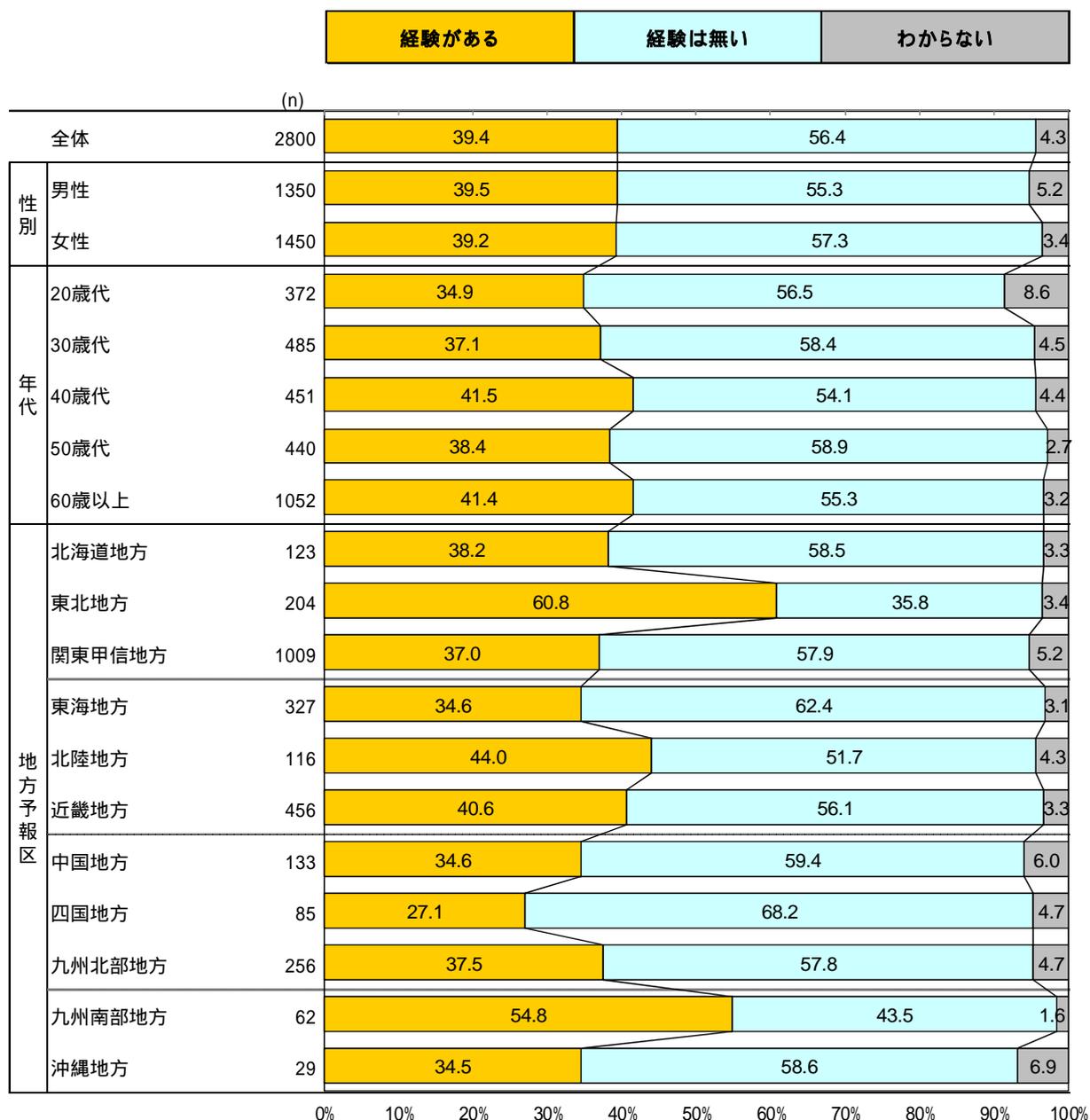


6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 上記に挙げるような自然災害に遭った人から体験談を聞いたことがある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください

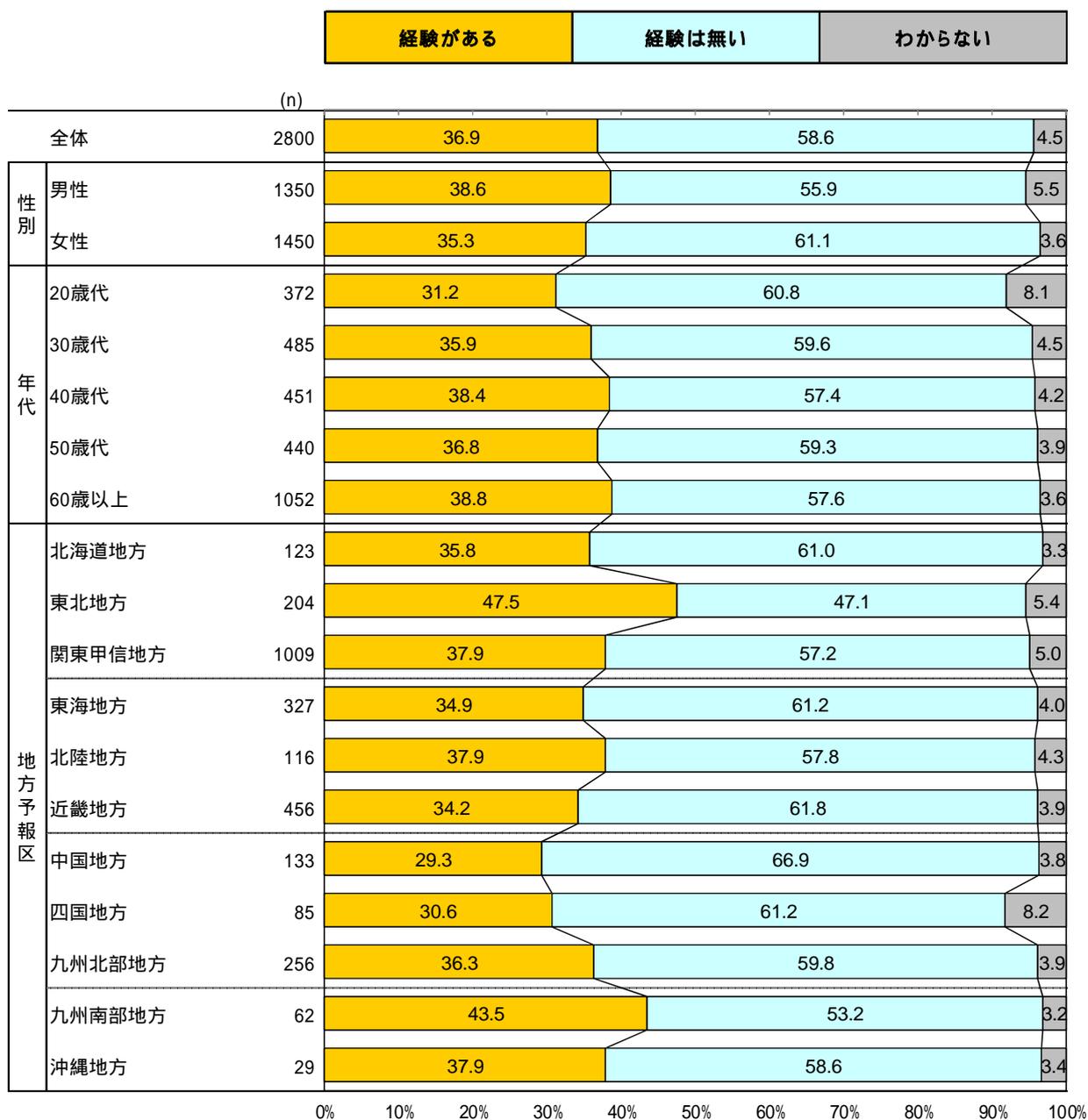


6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 上記に挙げるような自然災害に遭った人の体験を記録した本や記事を読んだ又は調べたことがある)

自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください



6. 自然災害に関する経験・意識

1. 自然災害の遭遇経験 n=2800

(Q16: 上記に挙げるような自然災害に遭った人の体験についてテレビやラジオで見聞きしたことがある)

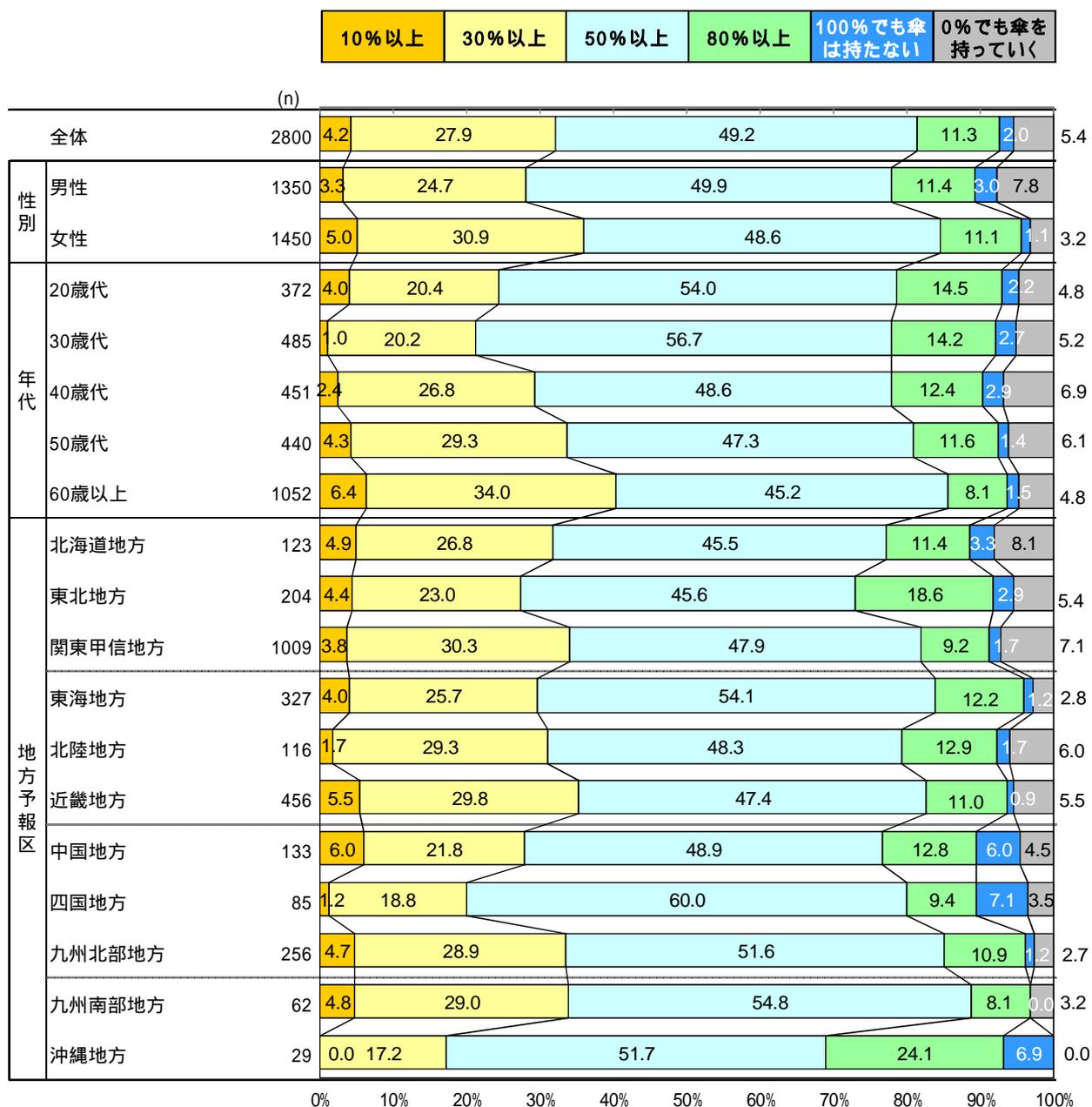
自然災害に関するあなたの経験についてお尋ねします。以下の事項について、経験がある・ないのいずれかをお答えください



6. 自然災害に関する経験・意識

2. 傘を持って外出する降水確率(Q17) n=2800

あなたは、登校や出勤等のとき、雨の降る確率が何%なら、傘を持って外出しますか。

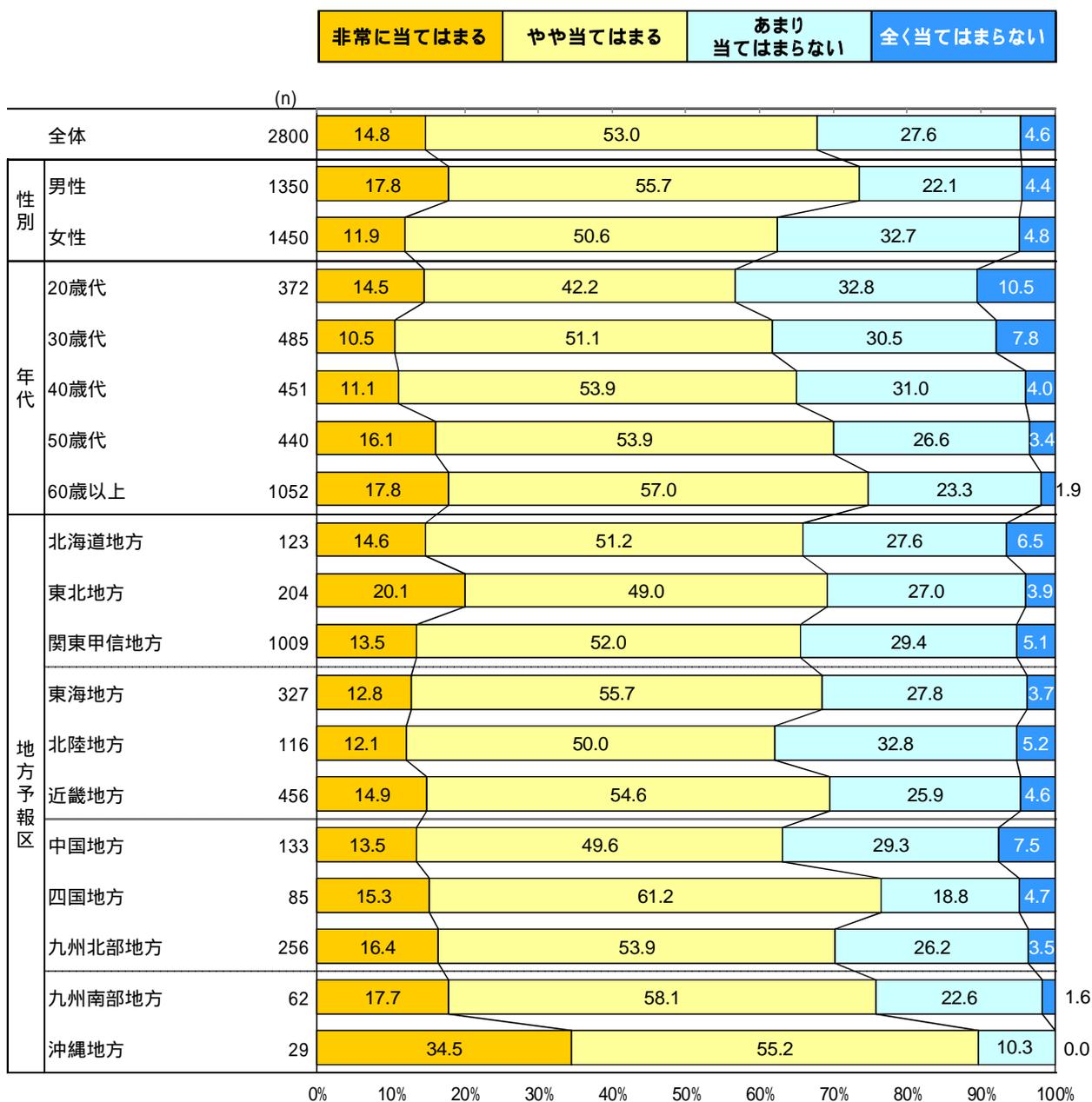


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18: 台風や雷など気象の仕組みに興味がある)

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

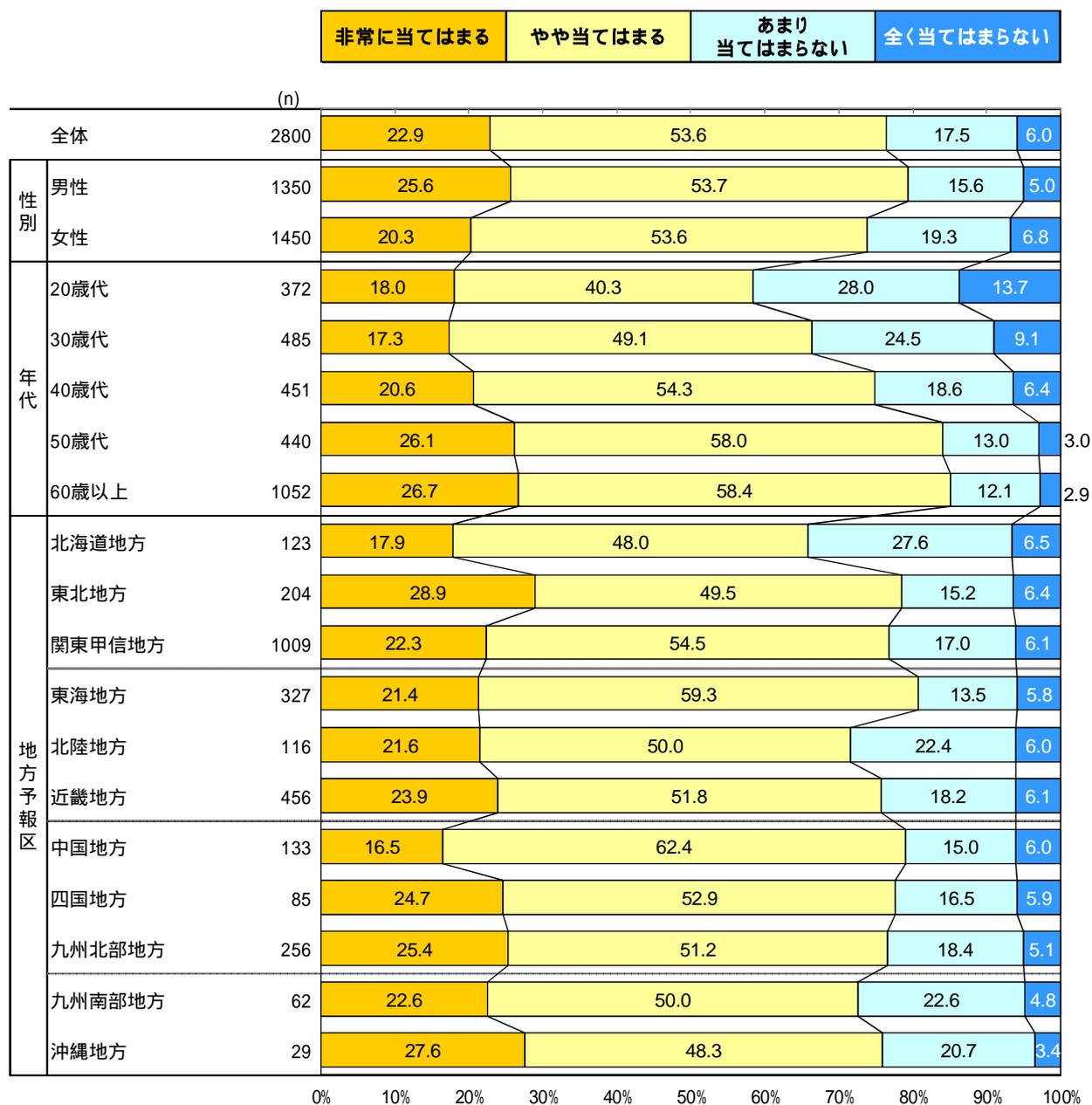


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18: 竜巻の予測が難しいことを知っている)

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

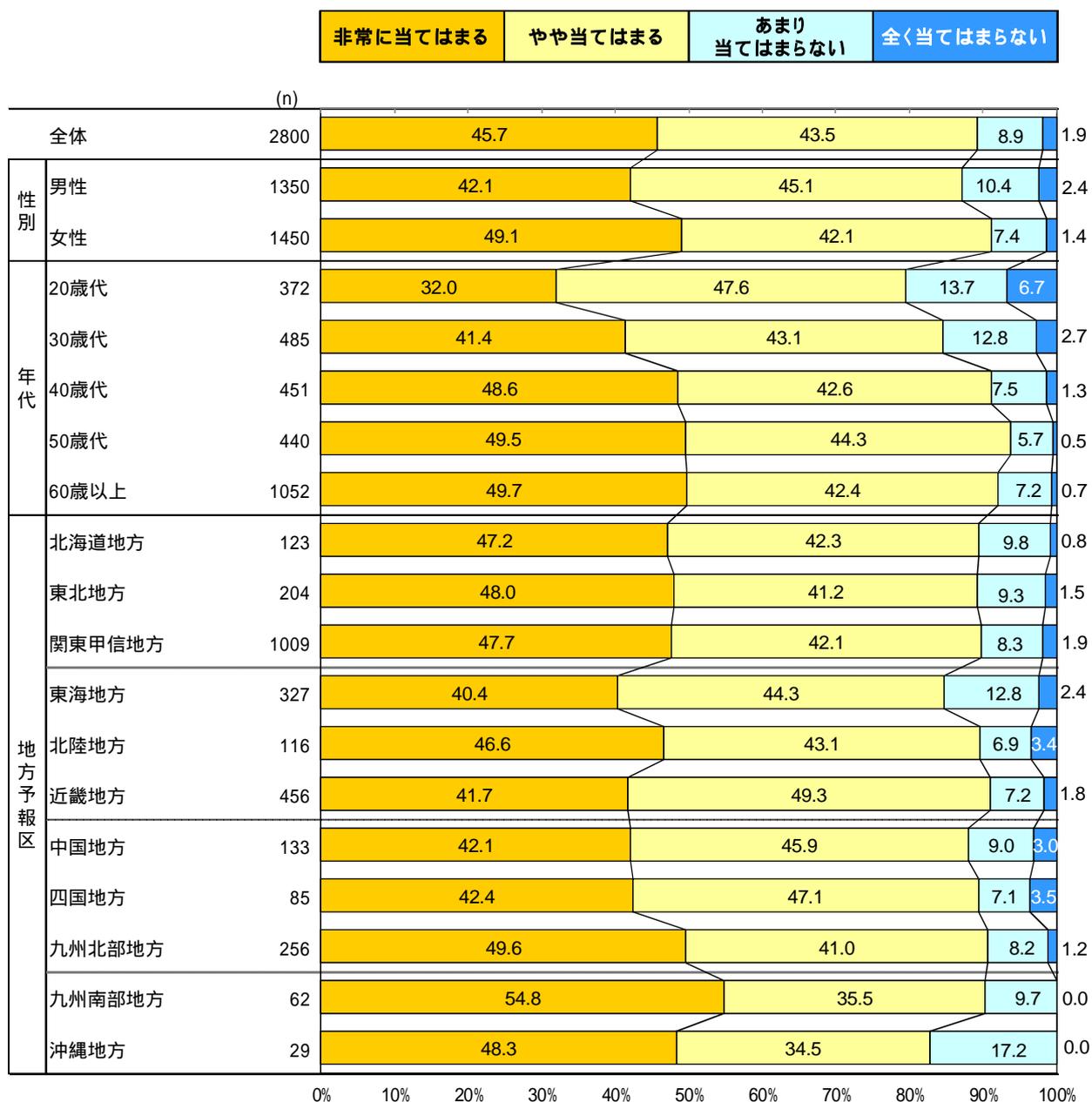


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識

(Q18: 天気予報はよくチェックする) n=2800

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

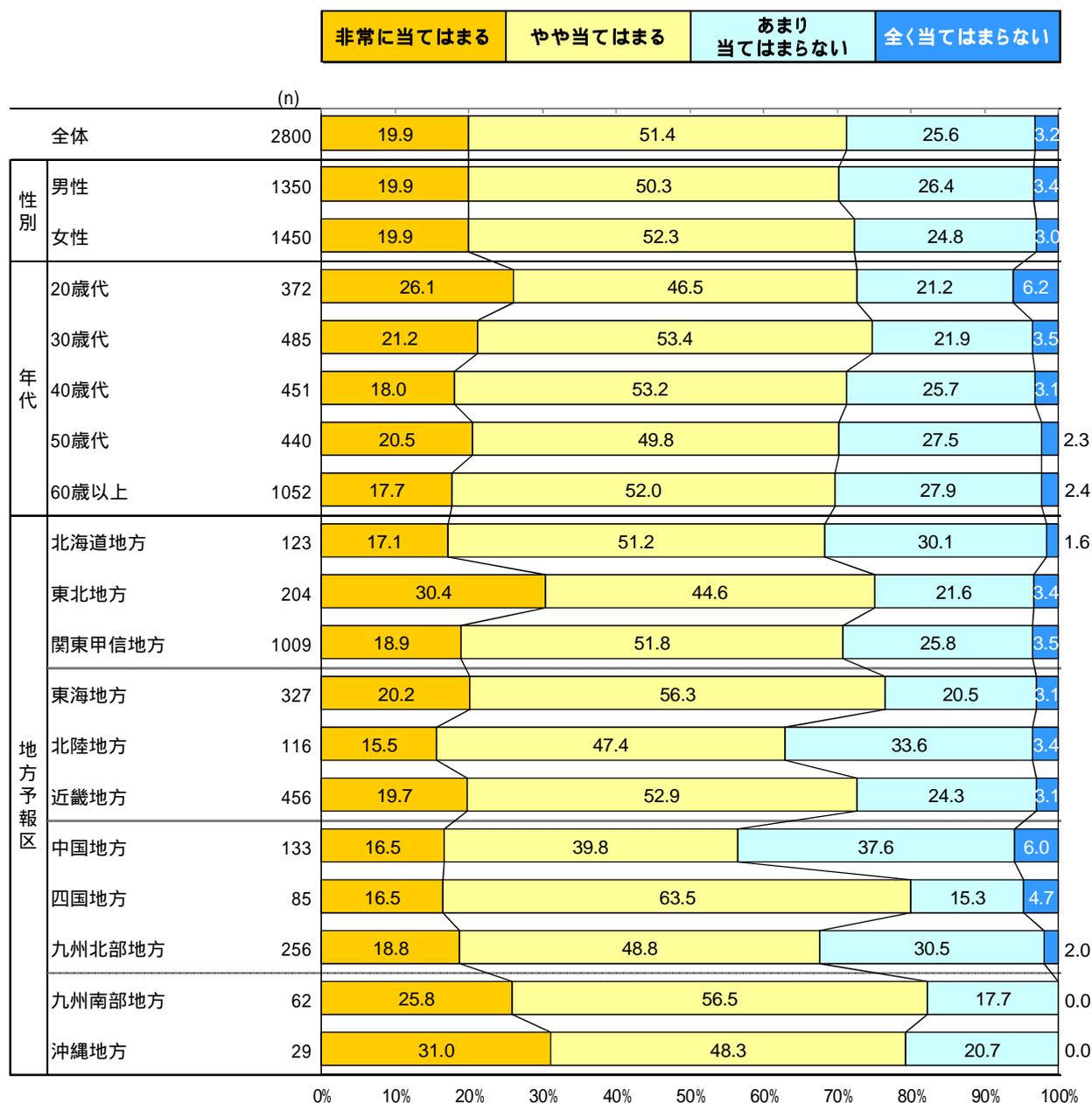


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識

(Q18: 自分も、今後いつか自然災害に遭遇するだろうと思っている) n=2800

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。



6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18: 自分が住んでいる地区は、土砂災害や洪水など大雨災害に対しては安全だと思う) 自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

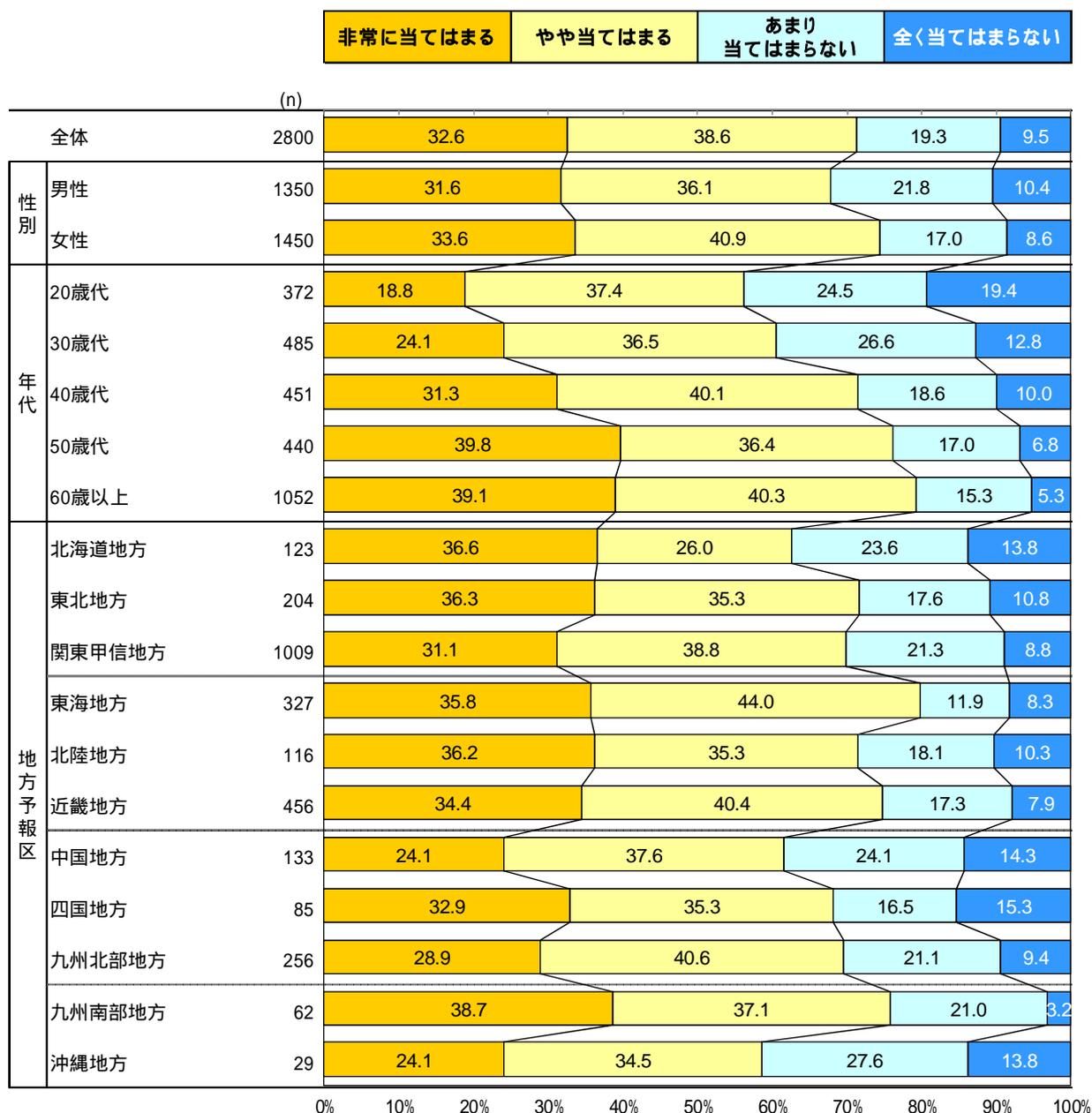


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18: 自分が住んでいる地区の避難場所がどこか知っている)

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

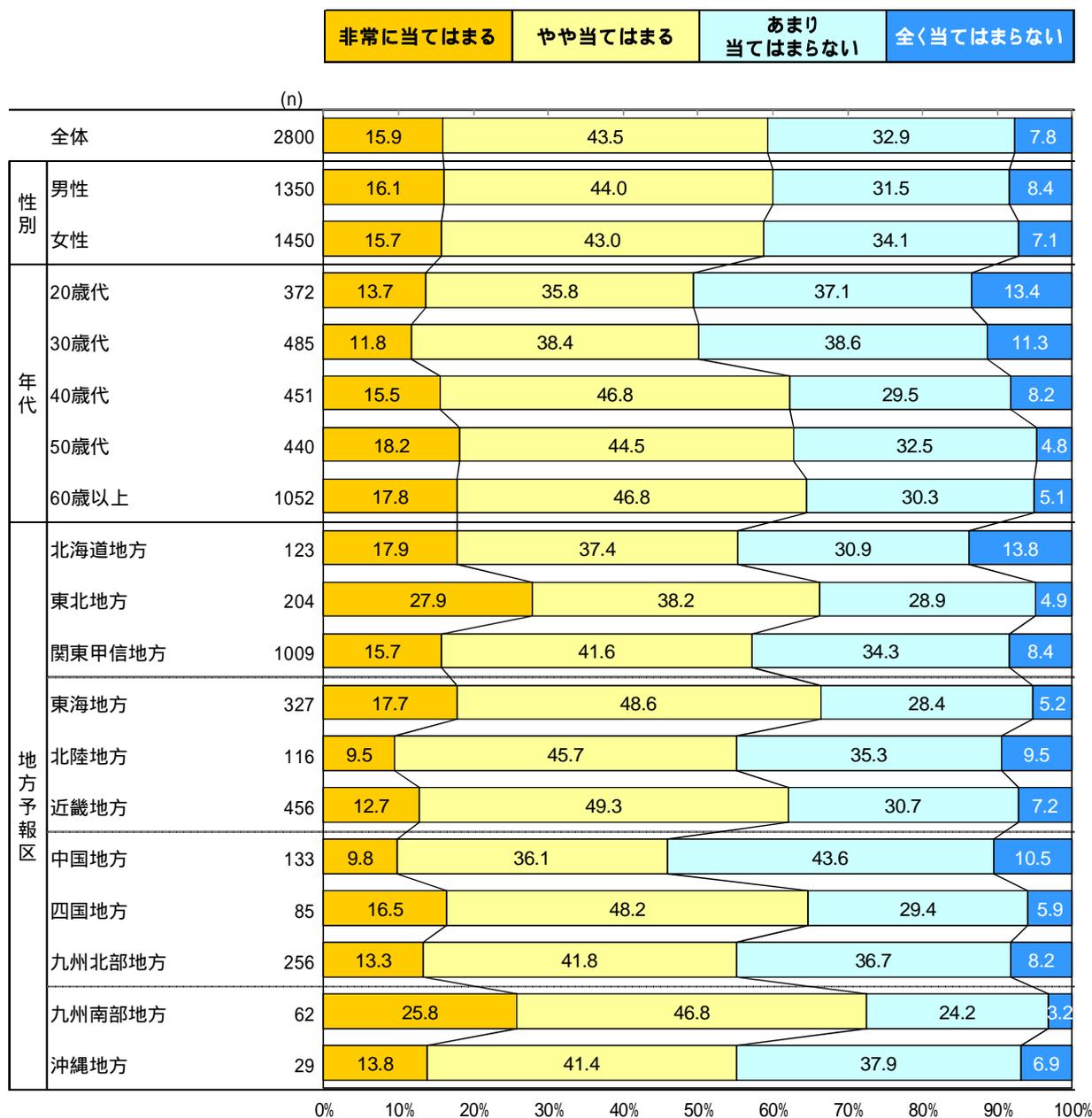


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18:自分が住んでいる地区の地震や津波に対する危険度を知っている)

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

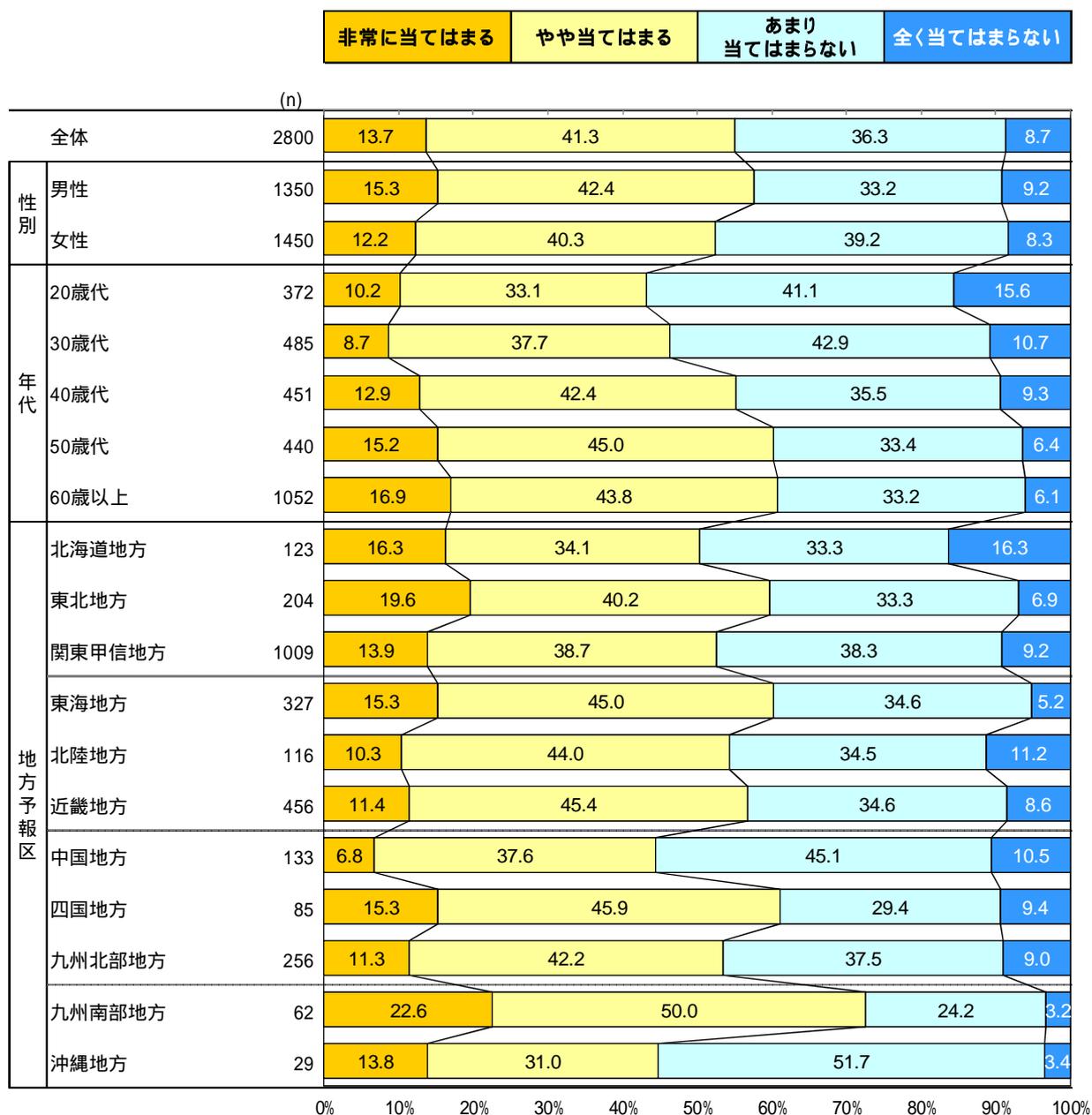


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18: 自分が住んでいる地区の土砂災害や洪水など大雨災害に対する危険度を知っている)

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。



6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 (Q18: 地震保険に入っている) n=2800

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。

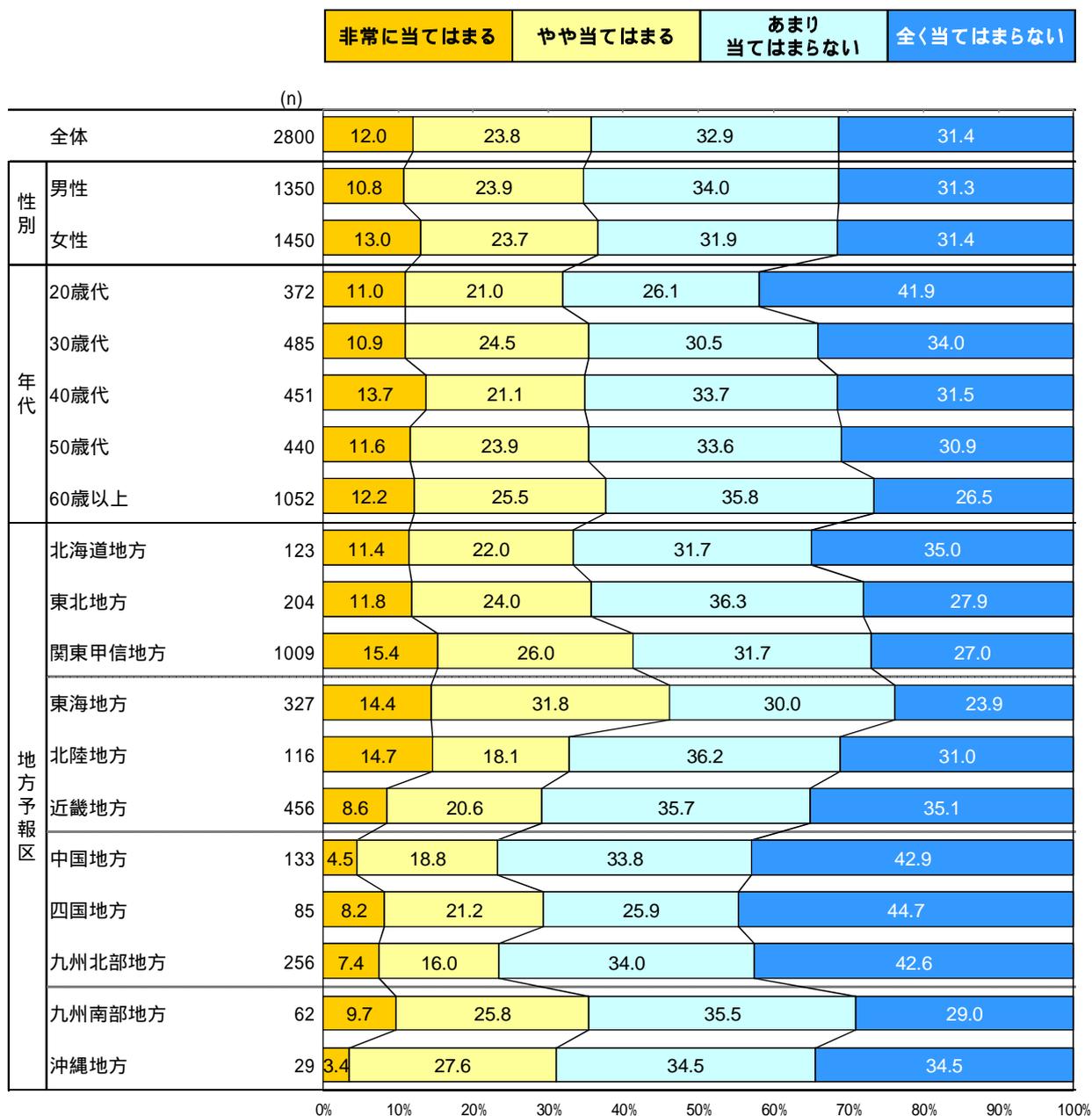


6. 自然災害に関する経験・意識

3. 自然災害に対する関心・認識 n=2800

(Q18: 避難時に持ち出すものを避難袋等にまとめて入れて置いてある)

自然災害に対する関心や認識の度合い等についてお尋ねします。それぞれについて、あなたに当てはまるものを選んでください。



その他記載一覧

4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

2.大雨警報が発表された時にとる行動 (Q10:その他)

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、 その他行う行動があれば回答してください。
家族の所在を確かめる
知り合いにメール等で警報が出たことを知らせる。
家族に連絡する。
雨戸、シャッターを閉める。
建物(マンション)の雨漏りに注意する
家の周り、落ち葉などを片づける
周辺の状況調査
近所と相談する
避難する
避難所は遠過ぎるので、近くの高台(広場)へ避難するつもり。
食料の確保
河川の増水に注意する
テレビの速報を見る
排便を済ませておく。
我が家は低地なので高台に行くようところがけている
貴重品の確認
マンションなので避難所には行かないと思います
情報収集
テレビをつける
土嚢を設定する。
長良川が近いですが、我が家はマンション8階ですから近所の友人の避難場所に提供するつもりです。
ベランダの排水溝掃除
普段から備蓄をしておく。 危機管理。
家族の安否
大雨警報は頻繁にあるので、雨の天気予報程度にしか思っていない。
いつでも非難できるように準備を日頃からしておく
川の水位を見る
停電に備えてお風呂の水をためておく。
介護施設
気を付けてニュースやラジオを聴く
すぐ動けるように身の回りのものをととのえる。
友人に電話する
戸締りをしっかりする
洗濯物の取り入れ 非常用水の浴槽水張り
可能な限り防災活動に協力する
とにかく家から出ないと思う
冷静に対処する。
家の周辺の警戒をする。

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、
その他行う行動があれば回答してください。

2階など高い場所へ行く

関連する親族の動向に注意する

その後の情報に気をつける。

玄関を開ける。

必要に応じて知人等とメール交換で情報を得る

家の周りの整理整頓

避難する時の必要な携帯品を常に準備していること

家の周りの側溝などのゴミを取り除き、水はけを良くする。

周囲の状況把握

比較的地盤の高いところに住んでいるため大雨には安心

落ち着く

停電や断水などの備えを確認する

大雨警報は頻繁に出るが、あたらぬ事が多く麻痺している事に注意したい。

家族の居場所を把握する。

逃げる

家で待機

高い所へ逃げる

お金を持つ

外の様子を見る。音に注意する。

家族と連絡しあう

区役所に聞く

家族で身辺に注意しあう。

近くの親戚などに連絡を入れる

市役所等へ最新情報を問い合わせる

水をためておく

TV,ラジオ

家族に連絡し、行動の再確認

避難準備

雨漏れ箇所をチェックする

事前に買い物(食料など)を済ませておく

色々なメディアを通して情報を収集する

避難場所に行く

停電などに備えて、必要なものを準備したり、急いで食事の支度をする。

マンションなので雨のみの警報には特別な行動はしない。

家の外の様子をこまめに気にする

自分には関係ないと考えから

テレビを見る。

ベランダの植木等を念のため下に下ろす。

家の中から外の様子を見る。

隣近所への確認

近所の知人の安否確認

情報の収集

携帯Cメールで周知する

家族と連絡をとる

避難場所を(調べて)確認しておく。

停電に備えてごはんを炊き、おにぎりを作る。

近くの川の水位を確かめに行く

いつも冠水する地域には近寄らない

家族と連絡をとりあう

あなたは、お住まいの市町村に大雨警報が発表されたことを知った場合、
その他行う行動があれば回答してください。

仕事で召集がかかる場合があるex.高水流観

身支度を整える身の回りの物の整理

家族とまめに連絡をとる

スマートフォンの情報チェック

家族にも知らせる

近所や部落の人達からの情報を得る。

上層階の知人宅に身を寄せる。

ペットを手元に置く

家の周りを見回る

テレビのニュースに注意する。

情報をあらゆる方法で確認する。

停電した時の備え

車を移動させる。

避難所の確認

他地域の情報を入手する

外の様子を確認する。

家族の居場所の再確認

とにかく正しい情報を得る

停電のさいの備え

随時警報に注意する。

連絡を取り合う

家族の安否確認

避難準備をする

動きやすい服装で待機

家の周りを確認する

携帯の充電

近所の高齢者に連絡する

家の中から外の様子を確認する

家の中から外の水位など見る

何がなんでもいち早く避難する

お弁当を作る

薬の準備

離れて住む子供たちに連絡する

いつでも避難できる準備をする

最低限の生活必需品の確認

勤め先へ連絡

4.大雨警報 / 大雨特別警報発表時にとる行動

3. 大雨特別警報が発表された時にとる行動(Q11:その他)

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合、以下の行動のうちどれを行いますか。それぞれについて、行う・行わないを回答してください。

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合 その他行う行動があれば回答してください
家族の所在を確認する
早めの行動にでる
家族と連絡を取る。
風呂に水を貯める。
家の周りや落ち葉等を片づける
詳細の情報を収集
近所に相談する
安全な場所へ逃げる
非難する
やみくもに避難所へ行かない
水、食料の確保
土嚢を準備する
逃げる手順の確認
素早く排便する。
最良の避難方法の確認
貴重品の確認
家族に知らせる
移動手段の確保
停電に備えて、前もって食事を作っておく。
避難場所を確認する
知人に早めにくるように連絡する。
ベランダ排水溝掃除
家の安全な場所に待機するか、即、避難するか！
「天気(雨模様)を気にするようになる」ぐらい
家族、知人、友達などと、連絡をまめにする。
非難せよの合図ですぐに出られるように準備しておく
冷静な判断、迅速に行動。
1階の物で移せるものを2階へ。
情報収集を行う
友人に電話する
協力できる範囲で避難活動を行う
警報前に外に出ていたら、帰宅時に食料を買い込む
子供を迎えに行く
家の周辺を警戒する。
2階など高い場所へ逃げる
リアルタイムで情報に気をつける。
避難場所を確認したり、親戚と連絡を取ると思う。
雨戸を閉める
家族で、話す

あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合
 その他行う行動があれば回答してください

家族の居場所を確認
外の窓から見える位置にバケツなどを置き降雨量を見る。
テレビを見ている
落ち着く
フェイスブックの確認
停電や断水に備える
特別警報の時は、警戒したい。
親に連絡
家で待機
愛する人にあう
家の周りとその他の情報収集に努める。
家族と連絡をとる
今後の行動について相談する
隣、近所の方々にも呼びかけ極力共同歩調をとる
早めに車で移動する
天気のローカル情報収集に努める。古い家なのでお宝だけ持って避難する。
家族との連絡
家族の連絡先や連絡方法を確認する
車で逃げる
事前に買い物(食料など)を済ませておく
スマホやケータイを近くに置いておく
色々なメディアを通して情報を収集する
テレビ情報を見聞きする
地形との関連を考える
マンションなので特別な行動はしない。
家の外の様子をこまめにみる
大雨警報とあまり
ベランダの整理
テレビのニュースを見続ける。
外で飼っている犬を家の中に入れる。
隣近所への確認
近所の知人とも非難する
情報の収集
家にいた方がよいのか、避難所に避難した方がよいのかを判断する
お湯をわかしてポットに入れる。水をくんでおく。
出社規制が出ているか、会社に確認する
家族や、親戚と連絡を密にとる。
家族と連絡をとりあう
身の回りのものを持ちやすく整理
家族とまめに連絡をとる
スマートフォンの情報チェック
11階の知人宅に身を寄せる。
飼い猫を手元に置く
避難準備をする
近くの河川の水位等には注意する。
家族と連絡をとりあう
自分の安全の度合いを確認する。
家族の状態を確認する。
自宅待機

**あなたは、お住まいの市町村に大雨特別警報が発表されたことを知った場合
その他行う行動があれば回答してください**

自宅待機
情報の収集
情報収集をより行う
外の様子を確認する。
ご近所と相談
避難所の確認
連絡を取り合う
停電に備える
知り合いとの情報交換
近所の方の対応を伺う。
動きやすい服装で待機
電池
水を用意する
携帯の充電
ご近所の高齢者へ連絡
隣近所の様子もみる
近所の人と連絡を取り合う
庭の鉢植えをしまう
車を高台に移動する
家族に連絡して無事か確認する。
すぐに避難する
懐中電灯、ロウソクの用意
薬の準備
勤め先へ連絡。
別世帯の家族との連絡
雨に関しては地域的に問題なし。市町村の防災無線は聞こえない。
避難場所の確認
大事な物を2階へ運ぶ
会社に安否連絡をする

5.大雨特別警報に対する評価・意見

2.特別警報発表時の呼びかけに対する印象 (Q13:その他)

特別警報を発表した時に、気象庁は「ただちに命を守る行動をとってください」と呼びかけました。
この呼びかけについてその他の意見があれば回答してください。

この呼びかけについてその他の意見があれば回答してください
余裕をもった時間で警報を出してほしい
色や、フラッシュ等がTVから見れたら、危機感がつる。
もう少し、局所的にレベルを区別できるとよりよい。
常に情報を継続し入手
実際に聞いたらびっくりすると思う。
特別警報と警報、言葉として見分けがつきにくいので何か別な名称があればいいかなと思う
市町村役場からの緊急放送も必要
実際に聞いてみるとしつこいですがよい放送でした。
空振りでも積極的に発表してほしい
具体的にどうしたらいいか、素人はわからない
適切で良いと思う。
直ちに排便を済ませましょうにすべき。
何とも言えない。高齢の世帯だと夜中に出されてもどうなのかしら！
自分では命を守る行動のできない人に対して不親切
自分の置かれている環境で差があるので
陳腐化しないようにする仕組みが欲しい
同意見です
とるべき具体策が見えない方も多いのでは
しっかりとしようと思った。
よく聞く
勤務中など、職場を一概に離れてよいかという問題がある。そのあたりまで指示されるべき
具体的な場所も指定して欲しい 何とか町の人はとか
ちょっと実感がわきにくい
夜間の行動について具体的な指示が必要
「命を守る行動」って何、という感じ。
千差万別の危機対処だから簡潔なこれが良い
避難勧告ではないだよね、避難勧告は市町村が出すのかな？
大変危険であることを強く伝える
短い言葉で危機感が出ていて、わかりやすくて良いと思う。
何をしてもいいかわからない
警報の文言としては効果的
ただちにー今すぐに
日頃から、非常事態に備えての行動や実施事項を箇条書きの文章で配布しておく。
適度に
具体的な指示を
地域を具体的に知らせ、避難場所を指定してくれるよう希望。
基準をはっきり設けてほしい
警報は市民に聞こえるように整備してほしい。
危険な地域がある程度分かっているなら、その地域を具体的にテロップなどで流して欲しい。

この呼びかけについてその他の意見があれば回答してください

とりあえずの呼びかけとしては適切
 もっと具体的にどうなることがよそうされるのか教えてほしい
 避難所へ行け、等具体的な行動を命令するくらいでない、動く人は少ないと思う
 わかりやすくいいとおもいます
 どうすればいいのかわからないと思う人が多いと思う。
 どういう地域や環境のある人は命を守る行動をとったほうが良いのかを知らせる。
 場所によっても違うと思うが個別の対応は
 その地方の特性ー山間；海岸などーに応じた指示命令。
 どのような場所へ避難したらいいか教えてほしい
 統一されていない情報は信用できない。放送局によりまちまちです。
 何度も繰り返し過ぎ
 特別警報の事前周知が不足している
 あまり多く使うと、慣れっこになってしまって緊急性を感じなくなってしまうか心配である。
 危険地域の人が行動を起こす為の呼びかけなので、大げさとか注意の程度を議論する必要はないと思う。
 市町村野外放送を活用した方が良いと思う。
 とてもいいと思う
 自己責任で行動する。
 個人で、判断する。
 特別警報が、市町村から伝えられなかった不備を無くすようにしてほしい。
 パニックを誘発したがるんじゃないかと思えないヒステリックなメッセージが不愉快
 本当に危険なのか
 益々充実した内容であってほしいです
 マニュアルは必要だが棒読みでなく実感をこめて呼びかけたほうがいい。
 細かな情報が欲しい
 結果論で話すので、どちらの立場も難しい。
 自信を持って伝えてほしい
 具体例を示すべき
 細かな地域別に具体的な行動を呼びかけることが必要に思う
 特別警報だからといって、強制避難はやめて欲しい。個人の意思に任せて欲しい。
 呼びかけは大事です。 特にお年寄りには、適切に呼びかけができるように。
 ちょっと大げさ
 同じエリアでも地形や地盤、下水の状況など様々なので、自分の住処の特性を良く知っておくこと。
 必要である
 町内放送等は聴こえにくいので、特殊な音色にする
 聞く側の危機感を日頃から啓蒙が必要、特に老人
 4. 取るべき行動...は気象庁ではなく、地方自治体が地域住民に行うと良い
 切実さがもっと伝われば・・・
 併せて行動事例をTOSSしてほしい
 家族構成別に具体的におしえてほしい
 もっと細かいエリアに分けて確実な情報を望む
 有名人の呼びかけやドラマ等で演じる等、普段から注意喚起
 自分の命は自分で守れ。
 ワタシは気が小さいので心臓が止まるかも(笑)鈍感な人が多いから、これくらいでいいと思う。
 その近隣で安全な場所を伝えて貰いたい
 避難場所の指示を呼びかけて欲しい
 具体的に情報が欲しい
 基準がいまいちよくわからない
 具体的にどうしたらいいか教えて欲しい
 「うちは大丈夫だ」とのんびりしている人もいそうなので、大げさでよいと思う
 最終的には個人(家族)の判断となる。民生委員としては悩ましい

この呼びかけについてその他の意見があれば回答してください

特別警報が発令された時には既に大雨・暴風雨警報が発令されており、命を守る体制を取れと言われても声明に危険を生じる場合が大いにありうる。特別警報が発令されたことにより、どのようにしたらいいのが迷ってしまう。
情報に対して聞かない人も多いと思います
この時観光で京都にいました。携帯で特別警報を受信しましたが、何も行動しませんでした。
避難するという事も付け加えてほしい
ただちに、この言葉がいい
怖がらせすぎかな
いいと思う
具体的な行動を例示するとわかりやすいのでは？
棒読みなので緊張感がない
妥当だと思う。
連呼してほしい
「避難してください」と明確な呼びかけでも良い
命を守る行動だけでは混乱してどう対処して良いのかわからない明確な対処を示して欲しい
災害が起きなくて非難を浴びても、被害があるよりよい
個々に災害時はどうするか考えておくべきで 警報が出たときは自己責任で避難すべきだと思う
ケースバイケースで有り、地域の危険マップを全世界に配布しておくべき
より具体的な行動を示してほしい。
避難命令との違いがよくわからない
特別警報と警報の違いが知りたい
自分の命、自分で守ることで、他人のせいにならない。
いい呼びかけだと思う
「特別警報」には危機感がない
具体的な呼びかけにしないと、人により受け取り方は変わり、その対応も変わる
「命を守る行動」と言っても抽象的で、具体的にどのような行動をとることが必要なのかが良く分からないのではないかな
避難指示のほうがいいと思う
日常的に使われる言葉を使うほうが伝わる。
避難場所などの的確な指示が欲しい。
どの地域がどのような状態なのか知らせてほしい。
もっと地域ごとの細かい情報が欲しい。
具体的に呼び掛けるというよりも、自治体それぞれで違うと思うので自己確認が必要かとは思いますが。
大げさにしてほしい
確実に伝わる方法
大雨の時にどのような事が起き、どう行動すればいいか事前に周知させていれば、この呼びかけでも問題ないと思います。
出来るだけ細かい情報を知らせて欲しい。
この地域は に避難してください と具体的に
考えるベストな言葉
避難の術がない人に対してどうするのか呼びかけるだけでは、足りないと思います。
命を守るはずばりだけど・・・生命を守る？
避難所へ収集を呼びかけている市町村を発表してほしい
注意報を無くして警報から呼びかける。
どの地域が具体的に危険か？ 教えて欲しい！
命という言葉でパニックになるかも知れないので、身を守るに変えた方が良くと思う
地域をもっと細かく分けるべきだと思う
あとは個々の責任、何でもかんでも責任転嫁し過ぎだと思えます。
適切である。

この呼びかけについてその他の意見があれば回答してください

上記と重なりますが、命を守る、という表現で危機感が伝わりますが、具体性に欠ける
気象庁の発表なので、広範囲が該当する。具体的な指示は無理。
できるだけ早めに警報を出してほしい
出来るだけ地域を限定し、すべきことをわかりやすく
的確な情報がほしいです。
呼びかけの言葉の前に「(あなたの近くにいる人とともに)」をいれてください。
恐怖が先に立ってしまうけど必要
早めの対応
高齢者には分かりにくいと思う
命を守る行動が何か分からないかも
ただの警報ですら大事な場合にしか発令されないのでは、違いがよくわからない。
簡潔で分かりやすいが、パニック状態の人が聞いた時どうすればいいのか分からないと思うので具体的にどういう行動をしたらいいかを伝えるべきだと思う。
危険度の大きい場所を具体的に発表してほしい。山や川。
命を守る行動との事ですが個人では行動の方法がわからない
あくまでも注意喚起であり、自分の身は自分で守る自己防衛が必要
早めに。伊豆大島の災害もあったので。
具体性の乏しい呼びかけは無意味と思う
実際にどんな行動をとればいいのかわからない。むやみに避難して危険にさらされないか不安である。
特にどこのエリアに警戒が必要かを伝達する